

前項ノ規定ヲ準用スルコトヲ得ルニ依リテ第六百四十八條ノ規定ニ準ジテ

第一千二百一十一條 遺言執行者カ其任務ヲ怠リタルトキ其他正當ノ事由アルトキハ利害關係人ハ其解任ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得

遺言執行者ハ正當ノ事由アルトキハ就職ノ後ト雖モ其任務ヲ辭スルコトヲ得

第一千二百二十二條 第六百五十四條及第六百五十五條ノ規定ハ遺言執行者ノ任務ヲ終了シタル場合ニ之ヲ準用ス

第一千二百二十三條 遺言ノ執行ニ關スル費用ハ相續財産ノ負擔トス但之ニ因リテ遺留分ヲ減ズルコトヲ得

第五節 遺言ノ取消
第一千二百二十四條 遺言者ハ何時ニテモ遺言ヲ妨式ニ從ヒテ其遺言ノ全部又ハ一部ヲ取消スルコトヲ得

第一千二百二十五條 前ノ遺言ト後ノ遺言ト抵觸スルトキハ其抵觸スル部分ニ付テハ後ノ遺言ヲ以テ前ノ遺言ヲ取消シタルモノト看做ス

前項ノ規定ハ遺言ト遺言後ノ生前處分其他ノ法律行為ト抵觸スル場合ニ之ヲ準用ス

第一千二百二十六條 遺言者カ故意ニ遺言書ヲ毀滅シタルトキハ其毀滅シタル部分ニ付テハ遺言ヲ取消シタルモノト看做ス遺言者カ故意ニ遺贈ノ目的物ヲ毀滅シタルトキ亦同シ

第一千二百二十七條 前三條ノ規定ニ依リテ取消サレタル遺言ハ其取消ノ行為カ取消サレ又ハ效力ヲ生セサルニ至リタルトキト雖モ其效力ヲ回復セス但其行為

詐欺又ハ強迫ニ因ル場合ハ此限ニ在ラズ

第一千二百二十八條 遺言者ハ其遺言ノ取消權ヲ拋棄スルコトヲ得

第一千二百二十九條 負擔附遺贈ヲ受ケタル者カ其負擔シタル義務ヲ履行セザルトキハ相續人ハ相當ノ期間ヲ定メテ其履行ヲ催告シ若シ其期間内ニ履行ナキトキハ遺言ノ取消ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得

第七章 遺留分
民法 相續 遺留分
第三百九

第三百三十條 法定家督相續人タル直系卑屬ハ遺留分トシテ被相續人ノ財産ノ半額ヲ受ク

此他家督相續人ハ遺留分トシテ被相續人ノ財産ノ三分ノ一ヲ受ク

第三百三十一條 遺產相續人タル直系卑屬ハ遺留分トシテ被相續人ノ財産ノ半額ヲ受ク

遺產相續人タル配偶者又ハ直系尊屬ハ遺留分トシテ被相續人ノ財産ノ三分ノ一ヲ受ク

第三百三十二條 遺留分ハ被相續人カ相續開始ノ時ニ於テ有セシ財産ノ價額ニ其贈與シタル財産ノ價額ヲ加ヘ其中ヨリ債務ノ全額ヲ控除シテ之ヲ算定ス

條件附權利又ハ存續期間ノ不確定ナル權利ハ裁判所ニ於テ選定シタル鑑定人ノ評價ニ從ヒ其價格ヲ定ム

家督相續ノ特權ニ屬スル權利ハ遺留分ノ算定ニ關シテハ其價額ヲ算入セス

第三百三十三條 贈與ハ相續開始前一年間ニ爲シタルモノニ限り前條ノ規定ニ依リテ其價額ヲ算入ス

一年前ニ爲シタルモノト雖モ當事者雙方カ遺留分權利者ニ損害ヲ加フルコトヲ知リテ之ヲ爲シタルトキ亦同シ

第三百三十四條 遺留分權利者及ヒ其承繼人ハ遺留分ヲ保全スルニ必要ナル限度ニ於テ遺贈及ヒ前條ニ掲ケタル贈與ノ減殺ヲ請求スルコトヲ得

第三百三十五條 條件附權利又ハ存續期間ノ不確定ナル權利ヲ以テ贈與又ハ遺贈ノ目的ト爲シタル場合ニ於テ其贈與又ハ遺贈ノ一部ヲ減殺スヘキトキハ遺留分權利者ハ第三百三十二條第二項ノ規定ニ依リテ定メタル價格ニ從ヒ直チニ其殘部ノ價額ヲ受贈者又ハ受遺者ニ給付スルコトヲ要ス

第三百三十六條 贈與ハ遺贈ヲ減殺シタル後ニ非サレハ之ヲ減殺スルコトヲ得ス

第三百三十七條 遺贈ハ其目的ノ價額ノ割合ニ應シテ之ヲ減殺ス但遺言者カ其遺言ニ別段ノ意思ヲ表示シタルトキハ其意思ニ從フ

第三百三十八條 贈與ノ減殺ハ後ノ贈與ヨリ始メ順次ニ前ノ贈與ニ及フ

第一千二十九條 受贈者ハ其返還スヘキ財産ノ外尙ホ減殺ノ請求アリタル日以
後ノ果實ヲ返還スルコトヲ要ス

第一千四十條 減殺ヲ受クヘキ受贈者ノ無資力ニ因リテ生シタル損失ハ遺留分
權利者ノ負擔ニ歸ス

第一千四十一條 負擔附贈與ハ其目的ノ價額中ヨリ負擔ノ價額ヲ控除シタルモ
ノニ付キ其減殺ヲ請求スルコトヲ得

第一千四十二條 不相當ノ對價ヲ以テ爲シタル有償行爲ハ當事者雙方カ遺留分
權利者ニ損害ヲ加フルコトヲ知リテ爲シタルモノニ限り之ヲ贈與ト看做ス此
場合ニ於テ遺留分權利者カ其減殺ヲ請求スルトキハ其對價ヲ償還スルコトヲ
要ス

第一千四十三條 減殺ヲ受クヘキ受贈者カ贈與ノ目的ヲ他人ニ讓渡シタルトキ
ハ遺留分權利者ニ其價額ヲ辨償スルコトヲ要ス但讓受人カ讓渡ノ當時遺留分
權利者ニ損害ヲ加フルコトヲ知リタルトキハ遺留分權利者ハ之ニ對シテモ減

殺ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ規定ハ受贈者カ贈與ノ目的ノ上ニ權利ヲ設定シタル場合ニ之ヲ準用
ス

第一千四十四條 受贈者及ヒ受遺者ハ減殺ヲ受クヘキ限度ニ於テ贈與又ハ遺贈
ノ目的ノ價額ヲ遺留分權利者ニ辨償シテ返還ノ義務ヲ免ルルコトヲ得

前項ノ規定ハ前條第一項但書ノ場合ニ之ヲ準用ス

第一千四十五條 減殺ノ請求權ハ遺留分權利者カ相續ノ開始及ヒ減殺スヘキ贈
與又ハ遺贈アリタルコトヲ知リタル時ヨリ一年間之ヲ行ハサルトキハ時効ニ
因リテ消滅ス相續開始ノ時ヨリ十年ヲ經過シタルトキ亦同シ

第一千四十六條 第九百九十五條、第一千四條、第一千五條、第一千七條及ヒ第八
條ノ規定ハ遺留分ニ之ヲ準用ス

附則(三十五年法律第三十七號)

本法施行前ニ分家ヲ爲シタル者ノ本家ニ在ル直系卑屬カ意思能力ヲ有セザルト

民法 相續 遺留分

キハ法定代理人之ニ代ハリ民法第七百三十七條第一項ノ規定ニ依リテ分家ノ家
族ト爲ル手續ヲ爲スコトヲ得

本法施行前ニ分家ヲ爲シタル者ノ直系卑屬ニシテ民法第七百三十七條ノ規定ニ
依リ分家ノ家族ト爲リタル者ニ付テハ同法第九百七十二條ノ規定ヲ適用セズ但
第三者カ既ニ取得シタル權利ヲ害スルコトヲ得ス

●民法施行法

(明治三十一年六月十五日
法律第十一號)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル民法施行法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
民法施行法

第一章 通則

第一條 民法施行前ニ生シタル事項ニ付テハ本法ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外
民法ノ規定ヲ適用セス

第二條 民法ニ於テ破産ト稱スルハ民事ニ付テハ家資分散ヲ謂フ
第三條 前身分限ノ處分ヲ受ケタル者ハ其債務ヲ完済スルマテハ之ヲ破産者ト看
做ス

第四條 證書ハ確定日附アルニ非ザレバ第三者ニ對シ其作成ノ日ニ付キ完全ナ
ル證據力ヲ有セス
第五條 證書ハ左ノ場合ニ限り確定日附アルモノトス

民法施行法 通則

- 一 公正證書ナルトキハ其日附ヲ以テ確定日附トス
- 二 登記所又ハ公證人役場ニ於テ私署證書ニ日附アル印章ヲ押捺シタルトキハ其印章ノ日附ヲ以テ確定日附トス
- 三 私署證書ノ署名者中ニ死亡シタル者アルトキハ其死亡ノ日ヨリ確定日附アルモノトス
- 四 確定日附アル證書中ニ私署證書ヲ引用シタルトキハ其證書ノ日附ヲ以テ引用シタル私署證書ノ確定日附トス
- 五 官廳又ハ公署ニ於テ私署證書ニ或事項ヲ記入シ之ヲ日附ヲ記載シタルトキハ其日附ヲ以テ其證書ノ確定日附トス
- 六 條 私署證書ニ確定日附ヲ附スルコトヲ登記所又ハ公證人役場ニ請求スル者アルトキハ登記官吏又ハ公證人ハ確定日附簿ニ署名者ノ氏名又ハ其一人ノ氏名ニ外何名ト附記シタルモノ及ヒ件名ヲ記載シ其證書ニ登簿番號ヲ記入シ帳簿及ヒ證書ニ日附アル印章ヲ押捺シ且其印章ヲ以テ帳簿ト證書トニ割印ヲ

爲スコトヲ要ス

證書カ數紙ニ成ルル場合ニ於テ前項ニ掲ガタル印章ヲ以テ每紙ハ綴目又ハ繼目ニ契印ヲ爲スコトヲ要ス

第七條 確定日附簿ニハ豫メ登簿番號ヲ印刷シ請求順ヲ以テ前條ノ規定ニ從ヒ記入ヲ爲スコトヲ要ス

確定日附簿ニハ地方裁判所長其紙數ヲ表紙ノ裏面ニ記載シ職氏名ヲ署シ職印ヲ押捺シ且職印ヲ以テ每紙ハ綴目ニ契印ヲ爲スコトヲ要ス

第八條 私署證書ニ確定日附ヲ附スルコトヲ登記所又ハ公證人役場ニ請求スル者ハ命令ニ定ムル所ニ依リ手数料ヲ納ムルコトヲ要ス

第九條 左ノ法令ハ民法施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

- 一 明治五年第二百九十五號布告
- 二 明治六年第二十一號布告
- 三 同年第二十八號布告

民法施行法 通則

- 四 同年第四十號布告
- 五 同年第六十二號布告
- 六 同年第七十七號布告
- 七 同年第二百五十五號布告代人規則
- 八 同年第二百五十二號布告
- 九 同年第三百六號布告動產不動產書入金穀貸借規則
- 十 同年第三百六十二號布告出訴期限規則
- 十一 明治七年第二十七號布告
- 十二 明治八年第六號布告
- 十三 同年第六十三號布告
- 十四 同年第二百二號布告金穀貸借請入證人辨償規則
- 十五 同年第四百四十八號布告建物書入質規則及七建物賣買讓渡規則
- 十六 明治九年第七十五號布告

- 十七 同年第九十九號布告
- 十八 明治十年第五十號布告
- 十九 明治十四年第七十三號布告
- 二十 明治十七年第二十號布告
- 二十一 明治二十三年法律第九十四號財產委棄法
- 二十二 同年勅令第二百十七號辨濟提供規則
- 明治六年第十八號布告地所質入書入規則ハ第十一條ヲ除ク外民法施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス
- 第十條 民法中不動產上ノ權利ニ關スル規定ハ當分ノ内之ヲ沖繩縣ニ施行セ
- 第十一條 本法ハ民法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス
- 第二章 總則編ニ關スル規定
- 第十二條 民法施行前ニ民法第七條又ハ第十一條ニ掲ケタル原因ノ爲メニ後見
- 民法施行法 總則編ニ關スル規定

入ヲ附シタル者ハ其施行ノ日ヨリ禁治産者又ハ準禁治産者ト看做ス
後見人ハ民法施行ノ日ヨリ一个月内ニ禁治産又ハ準禁治産ノ請求ヲ爲スコト
ヲ要ス

第十三條 後見人其他民法第七條ニ掲ケタル者カ民法施行ノ日ヨリ一个月内ニ
禁治産又ハ準禁治産ノ請求ヲ爲サザリシトキハ其期間經過ノ後ハ前條第一項
ノ規定ヲ適用セス

前項ノ期間内ニ禁治産又ハ準禁治産ノ請求アリタルモ裁判所ニ於テ之ヲ却下
シタルトキハ抗告期間經過ノ後若シ抗告アリタルトキハ最後ノ抗告棄却ノ
時ヨリ又訴ニ於テ禁治産又ハ準禁治産ノ宣告ヲ取消シタルトキハ其判決確定
ノ日ヨリ前條第一項ノ規定ヲ適用セス

第十四條 刑法第十條第三號、第三十五條、第三十六條、刑法附則第四十一條、
陸軍刑法第十八條第四號及ヒ海軍刑法第九條第四號、第二十二條ハ之ヲ削除
ス

刑法第五十五條中「行政ノ處分ヲ以テ治産ノ禁ノ幾分ヲ免スルヲ得但」ノ
二十三字及ヒ陸軍刑法第三十二條中「第三十五條第三十六條」ノ十字ハ之ヲ削
除ス

第十五條 民法施行ノ日ニ於テ刑事禁治産者タル者ハ其施行ノ日ヨリ能力ヲ同
復ス

第十六條 民法施行前ヨリ刑事禁治産者ノ財産ヲ管理スル者ハ刑事禁治産者又
ハ刑事禁治産者カ定メタル他ノ管理者カ其財産ヲ管理スルコトヲ得ルニテ管
理ヲ繼續スルコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テ管理者ハ民法第三百三條ニ定メタル權限ヲ有ス但刑事禁治産
者カ別段ノ意思ヲ表示シタルトキハ此限ニ在ラス

第十七條 民法第二十五條乃至第二十九條ノ規定ハ民法施行前ニ住所又ハ居所
ヲ去ルタル者ニ付テモ亦之ヲ適用ス

民法施行前ヨリ不在者ノ財産ヲ管理スル者ハ其施行ノ日ヨリ民法ノ規定ニ從
民法施行法 總則編ニ關スル規定 三百二十三

上其管理ヲ繼續スルニ付シテ其管理ノ責任ヲ負フ

第十八條 民法第三十條及第三十一條ノ規定ハ民法施行前ヨリ生死分明ナラ

ザル者ニモ亦之ヲ適用スルニ付シテ其管理ノ責任ヲ負フ

民法施行前既ニ民法第三十條ノ期間ヲ經過シタル者ニ付テハ直チニ失踪ノ宣

告ヲ爲スルコトヲ得此場合ニ於テハ失踪者ハ民法ノ施行ニ同時ニ死亡シタルモ

テト看做ス

第十九條 民法施行前ヨリ獨立ノ財産ヲ有スル社團又ハ財團ニシテ民法第三十

四條ニ掲ケタル目的ヲ有スルモノハ之ヲ法人トス

前項ノ法人ノ代表者ハ民法第三十七條又ハ第三十九條ニ掲ケタル事項其他社

員又ハ寄附者ガ定メタル事項ヲ記載シタル書面ヲ作り民法施行ノ日ヨリ三箇

月内ニ之ヲ主務官廳ニ差出タシ其認可ヲ請フコトヲ要ス此場合ニ於テ主務官

廳ハ其書面カ民法其他ノ法令ニ反スルコトキ又ハ公益ノ爲メ必要ト認ムルトキ

ハ其變更ヲ命スルコトヲ要ス

前項ノ規定ニ從テ認可ヲ得タル書面ハ定款又ハ寄附行爲ニ同シク效力ヲ有

ス

第二十條 法人ノ代表者カ前條第二項ノ規定ニ從テ主務官廳ノ認可ヲ得タルト

キハ二週間内ニ各事務所ノ所在地ニ於テ左ノ事項ヲ登記スルコトヲ要ス

一 民法第四十六條第一項第一號乃至第三號及七第五號乃至第八號ニ掲ケ

タル事項

二 主務官廳ノ認可ノ年月日

前項ノ期間ハ主務官廳ノ認可書ノ到達シタル時ヨリ之ヲ起算ス

第一項ノ規定ニ從ヒテ爲シタル登記ハ民法第四十六條第一項ニ定メタル登記

ト同一ノモノト看做ス

第二十一條 第十九條第一項ノ法人カ財産目録又ハ社員名簿ヲ備ヘサルコトキハ

民法施行ノ後遲滯ナク之ヲ作ルコトヲ要ス

第二十二條 法人ノ代表者カ前三條ノ規定ニ反シ認可ヲ受ケ登記ヲ爲シ又ハ

民法施行法 總則編ニ關スル規定

財産目録若クハ社員名簿ヲ作ルコトヲ怠リタル下キハ五圓以上二百圓以下ノ過料ニ處セラル

第二十三條 第十九條第一項ノ法人カ其目的以外ノ事業ヲ爲シ又ハ認可ノ條件ニ違反シ其他公益ヲ害スヘキ行爲ヲ爲シタルトキハ主務官廳ハ其解散ヲ命スルコトヲ得

第二十四條 民法ノ規定ニ依リ法人ニ關シテ登記シタル事項ハ裁判所ニ於テ遲滞ナク之ヲ公告スルコトヲ要ス

第二十五條 主務官廳カ正當ノ理由ナクシテ法人ノ設立許可ヲ取消シ又ハ其解散ヲ命シタルトキハ其法人ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得
第二十六條 法人ノ清算人カ民法第七十九條及ヒ第八十一條第一項ノ規定ニ依リ爲スヘキ公告ハ裁判所カ爲スヘキ登記事項ノ公告ト同一ノ方法ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ要ス

第二十七條 剝奪公權者及ヒ停止公權者ハ法人ノ理事、監事又ハ清算人タル者

トヲ得ス

第二十八條 民法中法人ニ關スル規定ハ當分ノ内神社、寺院、祠宇及ヒ佛堂ニハ之ヲ適用セス

第二十九條 民法施行前ニ出訴期限ヲ經過シタル債權ハ時効ニ因リテ消滅シタルモノト看做ス

第三十條 民法施行前ニ出訴期限ヲ經過セザル債權ニ付テハ民法中時効ニ關スル規定ヲ適用ス

第三十一條 民法施行前ニ進行ヲ始メタル出訴期限カ民法ニ定メタル時効ノ期間ヨリ長キトキハ舊法ノ規定ニ從フ但其殘期カ民法施行ノ日ヨリ起算シ民法ニ定メタル時効ノ期間ヨリ長キトキハ其日ヨリ起算シテ民法ノ規定ヲ適用ス

第三十二條 前條但書ノ規定ハ舊法ニ出訴期限ナキ權利ニ之ヲ準用ス

第三十三條 前三條ノ場合ニ於テ民法中時効ノ中斷及ヒ停止ニ關スル規定ハ民法施行法 總則編ニ關スル規定

民法施行法 總則編ニ關スル規定

法施行ノ日ヨリ之ヲ適用ス

第三十四條 第三十條乃至第三十二條ノ規定ハ時効期間ノ性質ヲ有セサル法定期間ニ之ヲ準用ス

第三章 物權編ニ關スル規定

第三十五條 慣習上物權ト認メタル權利ニシテ民法施行前ニ發生シタルモノト雖モ其施行ノ後ハ民法其他ノ法律ニ定ムルモノト非サレハ物權タル效力ヲ有セズ

第三十六條 民法ニ定メタル物權ハ民法施行前ニ發生シタルモノト雖モ其施行ノ日ヨリ民法ニ定メタル效力ヲ有ス

第三十七條 民法又ハ不動産登記法ノ規定ニ依リ登記スベキ權利ハ從來登記ナクシテ第三者ニ對抗スルコトヲ得ヘカリシモノト雖モ民法施行ノ日ヨリ一年以内ニ之ヲ登記スルニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ズ

第三十八條 民法施行前ヨリ占有又ハ準占有ヲ爲ス者ニハ其施行ノ日ヨリ民法

以規定ヲ適用ス

第三十九條 民法施行前ヨリ動產ヲ占有スル者カ民法第百九十二條ノ條件ヲ具備スルトキハ民法ノ施行ノ同時ニ其動產ノ上ニ行使スル權利ヲ取得ス

第四十條 遺失物ハ明治九年第五十六號布告遺失物取扱規則第二條ニ依リ榜示ヲ爲シタル後一年以内ニ其所有者ノ知レサルトキハ民法施行前ニ其榜示ヲ爲シタルトキト雖モ拾得者其所有權ヲ取得ス但漂著物ニ付テハ明治八年第六十六

號布告内國船難破及漂流物取扱規則ノ規定ニ從フ

第四十一條 埋藏物ニ付テハ特別法ノ施行ニ至ルマテ遺失物ト同一ノ手續ニ依リテ公告ヲ爲スコトヲ要ス

第四十二條 民法施行前ヨリ民法第二百四十二條乃至第二百四十六條ノ規定ニ依レハ所有權ヲ取得スヘカリシ狀況ニ在ル者ハ民法ノ施行ノ同時ニ民法ノ規定ニ從ヒテ所有權ヲ取得ス但第三者カ正當ニ取得シタル權利ヲ妨ケス

第四十三條 共有者カ民法施行前ニ於テ五年ヲ超ユル期間内共有物ノ分割ヲ爲

民法施行法 物權編ニ關スル規定

内ニ於テ其效力ヲ有ス

第四十四條 民法施行前ニ設定シタル地上權ニシテ存續期間ノ定カキモ之ニ付

キ當事者カ民法第二百六十八條第二項ニ請求ヲ爲シタル下ニ裁判所發設定

ノ時ヨリ二十年以上民法施行ノ日ヨリ五十年以下ノ範圍内ニ於テ其存續期間

ヲ定ム

地上權者カ民法施行前ヨリ有シタル建物又ハ竹木アルトキハ地上權ハ其建物

ノ朽廢又ハ其竹木ノ伐採期ニ至ルマテ存續ス

地上權者カ前項ノ建物ニ修繕又ハ變更ヲ加ヘタルトキハ地上權ハ原建物ノ朽

廢スヘカリシ時ニ於テ消滅ス

第四十五條 外國人又ハ外國法人ノ爲メニ設定シタル地上權ニハ條約又ハ命令

ニ別段ノ定ナキ場合ニ限り民法ノ規定ヲ適用ス(三十四年法律第三十九號九

以テ廢止)

第四十六條 民法第二百七十五條及ヒ第二百七十六條ノ期間ハ民法施行前ヨリ

同條ニ定メタル事實カ始マリタルトキト雖モ其始ヨリ之ヲ起算ス

第四十七條 民法施行前ニ設定シタル永小作權ハ其存續期間カ五十年ヨリ長キ

トキト雖モ其效力ヲ存ス但其期間カ民法施行ノ日ヨリ起算シテ五十年ヲ超ユ

ルトキハ其日ヨリ起算シテ之ヲ五十年ニ短縮ス

民法施行前ニ期間ヲ定メスシテ設定シタル永小作權ノ存續期間ハ慣習ニ依リ

五十年ヨリ短キ場合ヲ除ク外民法施行ノ日ヨリ五十年トス

民法施行前ニ永久存續スヘキモノトシテ設定シタル永小作權ハ民法施行ノ日

ヨリ五十年ヲ經過シタル後一年内ニ所有者ニ於テ相當ノ償金ヲ拂ヒテ其消滅

ヲ請求スルコトヲ得若シ所有者カ此權利ヲ拋棄シ又ハ一年内ニ此權利ヲ行使

セサルトキハ爾後一年内ニ永小作人ニ於テ相當ノ代價ヲ拂ヒテ所有權ヲ買取

ルコトヲ要ス(三十三年法律第七十一號ヲ以テ本項追加)

第四十八條 民法ノ規定ニ從ヘハ民法施行前ヨリ先取特權ヲ有スヘカリシ債權

民法施行法 物權編ニ關スル規定 三百二十九

第五十六條 金錢ヲ目的トスル債務ヲ負擔シタル者カ民法施行前ヨリ其履行ヲ怠リタル下キハ損害賠償ノ額ハ其施行ノ日以後ハ民法第四百四條ニ定メタル利率ニ依リテ之ヲ定ム但民法第四百十九條第三項但書ノ適用ヲ妨ケス

第五十七條 指圖證券、無記名證券及民法第四百七十一條ニ掲ケタル證券ハ公示催告ヲ手續ニ依リテ之ヲ無効ト爲スニ付テ得ル一審ノ受審機關ハ第五十八條 民法施行前ニ發生シタル債務ト雖モ相殺ニ因テ之ヲ免ルルコトヲ得

雙方ノ債務カ民法施行前ヨリ互ニ相殺ト爲スニ適シタルトキハ相殺ノ意思表示ハ民法施行ノ日ニ遡リテ其效力ヲ生ス

第五十九條 民法第六百五條ノ規定ハ民法施行前ニ爲シタル不動産ノ貸貸借ニモ亦之ヲ適用ス
第六十條 第四十五條ノ規定ハ外國人又ハ外國法人ニ土地ヲ貸貸シタル場合ニ

之ヲ準用ス

第六十一條 刑法附則第五十四條乃至第六十條ハ之ヲ削除ス

第五章 親族編ニ關スル規定

第六十二條 民法施行ノ際家族タル者ハ民法ノ規定ニ依レハ家族タルコトヲ得サル者ト雖モ之ヲ家族トス

第六十三條 民法ノ規定ニ依レハ父又ハ母ノ家ニ入ルベキ者ト雖モ民法施行ノ際他家ニ在ル者ニハ其規定ヲ適用セズ

第六十四條 民法施行前ニ隱居者又ハ家督相續人カ詐欺又ハ強迫ニ因リ隱居ヲ爲シ又ハ相續ヲ承認シタルトキハ民法第七百五十九條ノ規定ニ依リテ之ヲ取消スコトヲ得但第三十二條及ヒ第三十四條ノ適用ヲ妨ケス

民法第七百六十條ノ規定ハ民法施行前ニ家督相續人ノ債權者ト爲リタル者ニ

第六十五條 民法施行前ニ爲シタル婚姻又ハ養子縁組カ其當時ノ法律ニ依レハ無効ナルトキト雖モ民法ノ規定ニ依リ有効ナルトキトモ民法施行ノ日ヨリ有效トス

第六十六條 民法第七百六十七條第一項ノ期間ニ前婚カ民法施行前ニ解消シ又ハ取消サレタルトキト雖モ其解消又ハ取消ノ時ヨリ之ヲ起算ス
第六十七條 民法施行前ニ生シタル事實カ民法ニ依リ婚姻又ハ養子縁組ノ取消ノ原因タルトキトモ其婚姻又ハ養子縁組ノ之ヲ取消スルコトヲ得但其實事カ既ニ民法ニ定メタル期間ヲ經過シタルモノナラバ此限ニ在ラス

第六十八條 民法施行前ニ爲シタル婚姻又ハ養子縁組ト雖モ其施行ノ日ヨリ民法ニ定メタル効力ヲ生ズ
第六十九條 民法施行前ニ婚姻ヲ爲シタル者カ夫婦ノ財産ニ付キ別段ノ契約ヲ爲ササレシトモ其財産關係ハ民法施行ノ日ヨリ法定財産制ニ依ル
民法施行前ニ夫婦カ其財産ニ付キ契約ヲ爲シタルトキハ其契約ハ婚姻届出ノ

後ニ爲シタルモノト雖モ其効力ヲ存ス但其契約カ法定財産制ニ異ナルトキハ民法施行ノ日ヨリ六个月内ニ其登記ヲ爲スニ非サレバ之ヲ以テ夫婦ノ承繼人及ビ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第七十條 民法施行前ニ生シタル事實カ民法ニ依リ離婚又ハ離縁ノ原因タルトキトモ夫婦又ハ養子縁組ノ當事者ノ一方ハ離婚又ハ離縁ノ訴ヲ提起スルコトヲ得

第六十七條但書ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス
第七十一條 嫡出ノ推定及ビ否認ニ關スル民法ノ規定ハ民法施行前ニ懐胎シタル子ニモ亦之ヲ適用ス

第七十二條 子ハ民法施行ノ日ヨリ民法ノ規定ニ從ヒテ父又ハ母ノ親權ニ服ス

第七十三條 裁判所ハ民法施行前ニ生シタル事實ニ據リテ親權又ハ管理權ノ喪失ヲ宣告スルコトヲ得

第七十四條 民法第九百條第一號ノ場合ニ於テ民法施行ノ際未成年者ノ後見人ヲタル者アルトキハ其後見人ハ民法施行ノ日ヨリ民法ノ規定ニ從ヒテ其任務ヲ行フ

第七十五條 民法第九百條第一號ノ場合ニ於テ民法施行ノ際未成年者カ後見人ヲ有セサルトキハ民法ニ定メタル者其後見人ト爲ル

第七十六條 民法施行前ニ民法第七條又ハ第十一條ニ掲ケタル原因ノ爲メニ後見人ヲ附シタル者アル場合ニ於テ後見人其他民法第七條ニ掲ケタル者ノ請求ニ因リ禁治産ノ宣告アリタルトキハ後見人ハ其宣告ノ時ヨリ民法ノ規定ニ從ヒテ後見人ノ任務ヲ行ヒ準禁治産ノ宣告アリタルトキハ保佐人ノ任務ヲ行フ

第七十七條 民法施行前ニ未成年又ハ民法第七條若クハ第十一條ニ掲ケタル原因ニ非サル事由ノ爲メニ選任シタル後見人ノ任務ハ民法施行ノ日ヨリ終了ス

未成年者ノ後見人又ハ民法第七條若クハ第十一條ニ掲ケタル原因ノ爲メニ選任シタル後見人カ民法第九百八條ニ該當スルトキ亦同シ

第七十八條 民法第九百三十七條及ヒ第九百四十條乃至九百四十二條ノ規定ハ前條ノ場合ニ之ヲ準用ス

民法第九百三十八條ノ規定ハ前條第二項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第七十九條 第七十四條又ハ第七十六條ノ規定ニ依リテ後見人ノ任務ヲ行フ者ハ後見監督人ヲ選任セシムル爲メ遲滞ナク親族會ヲ召集テ裁判所ニ請求スルコトヲ要ス若シ之ニ違反シタルトキハ親族會ハ其後見人ヲ免黜スルコトヲ得

第八十條 第七十四條又ハ第七十六條ノ規定ニ依リテ後見人ノ任務ヲ行フ者ハ遲滞ナク被後見人ノ財産ヲ調査シ其目錄ヲ調製スルコトヲ要ス

民法第九百十七條第二項、第三項、第九百十八條及ヒ第九百十九條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第八十一條 民法第九百二十四條及七百二十七條ノ規定ハ後見人カ第七十

四條又ハ第七十六條ノ規定ニ依リテ其任務ヲ行フ場合ニ之ヲ準用ス

第八十二條 民法第九百三十條ノ規定ハ後見人カ民法施行前ニ被後見人ノ財産

又ハ被後見人ニ對スル第三者ノ權利ヲ讓受ケタル場合ニモ亦之ヲ適用ス

第八十三條 後見人カ民法施行前ヨリ被後見人ノ財産ヲ賃借セルトキハ後見監

督人ヲ選任セシムル爲メ招集シタル親族會ノ同意ヲ求ムルコトヲ要ス若シ親

族會カ同意ヲ爲サザリシトキハ貸貸借ハ其效力ヲ失フ

第六章 相續編ニ關スル規定

第八十四條 民法施行前ニ民法第九百六十九條及七百九十七條ニ掲ケタル

行爲ヲ爲シタル者ト雖モ相續人タルコトヲ得ス

第八十五條 民法第九百七十四條及七百九十五條ノ規定ハ相續人タルトキ

者カ民法施行前ニ死亡シ又ハ其相續權ヲ失ヒタル場合ニモ亦之ヲ適用ス

第八十六條 相續人廢除ノ原因タル事實カ民法施行前ニ生シタルトキト雖モ廢

除ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第八十七條 相續人廢除ノ取消ニ關スル民法ノ規定ハ其施行前ニ廢除シタル相

續人ニモ亦之ヲ適用ス

第八十八條 家督相續人指定ノ取消ニ關スル民法ノ規定ハ其施行前ニ指定シタ

ル家督相續人ニモ亦之ヲ適用ス

第八十九條 民法第九百八十九條ノ規定ハ民法施行前ニ前戸主ノ債權者ト爲リ

タル者ニモ亦之ヲ適用ス

第九十條 民法第七七條及七百八十八條ノ規定ハ民法施行前ニ爲シタル贈與ニモ

亦之ヲ適用ス

第九十一條 相續ノ承認、拋棄及ヒ財産ノ分離ニ關スル民法ノ規定ハ其施行前

ニ開始シタル相續ニハ之ヲ適用セス

第九十二條 相續人曠缺ノ場合ニ關スル民法ノ規定ハ其施行前ニ開始シタル相

續ニ付テハ其施行ノ日ヨリ之ヲ適用ス

民法施行法 相續編ニ關スル規定

第九十三條 相續財産ノ管理入カ民法第千五十七條ノ規定ニ依リ爲スヘキ公告
ハ裁判所カ同法第千五十八條ノ規定ニ依リ爲シテ公告ノ同一辦法ヲ以テ
之ヲ爲スコトヲ要ス

第九十四條 遺言ノ成立及ヒ取消ニ付テハ其當時ノ法律ヲ適用シ其效力ニ付テ
ハ遺言者ノ死亡ノ時ノ法律ヲ適用ス

第九十五條 民法第千百三十二條乃至第千百三十八條及ヒ第千百三十九條乃至
第千四百五十五條ノ規定ハ民法施行前ニ爲シタル贈與ニモ亦之ヲ適用ス

第九十六條 民法第千四百五十六條乃至第千四百六十二條ノ規定ハ民法施行前ニ爲シタル遺贈ニモ亦之ヲ適用ス
第九十七條 民法第千四百六十三條乃至第千四百六十九條ノ規定ハ民法施行前ニ爲シタル遺贈ニモ亦之ヲ適用ス
第九十八條 民法第千四百七十條乃至第千四百七十六條ノ規定ハ民法施行前ニ爲シタル遺贈ニモ亦之ヲ適用ス
第九十九條 民法第千四百七十七條乃至第千四百八十三條ノ規定ハ民法施行前ニ爲シタル遺贈ニモ亦之ヲ適用ス
第一百條 民法第千四百八十四條乃至第千四百九十條ノ規定ハ民法施行前ニ爲シタル遺贈ニモ亦之ヲ適用ス

●法人設立ノ申請等ニ關スル件

○内務省令 明治三十二年四月二十八日

第一條 社團又ハ財團ニシテ民法第三十四條ニ依リ之ヲ法人ト爲スニ付内務大
臣ノ許可ヲ要スルモノハ主タル事務所所在地ノ地方長官ヲ經由シ其ノ申請書
ニ通シテ差出スヘシ其ノ許可ヲ得テ設立シタル法人及民法施行法第十九條ノ法
人ニ於テ内務大臣ニ認可ヲ要スル場合亦同シ

第二條 前條ノ法人ニシテ内務大臣ニ差出スヘキ願届書ハ主タル事務所所在地ノ
地方長官ヲ經由スヘシ

○内務省令 明治三十三年八月一日

宗教ノ宣布又ハ宗教上ノ儀式執行ヲ目的トスル法人ノ設立等ニ關スル規程ヲ定
ムルコト左ノ如シ
法人設立ノ申請等ニ關スル件 三百四十二

第一條 宗教ノ宣布又ハ宗教上ノ儀式執行ヲ目的トスル社團又ハ財團ヲ法人ト
爲サシテ下スルモキハ設立者ハ定款又ハ寄附行爲ノ外左ノ事項ヲ記載シタル書

面ヲ差出スヘシ

一 宗教ノ名稱及所屬教派宗派ノ名稱

二 儀式及布教ノ方法

三 布教者ノ資格及選定方法

四 信徒トシテ法人ノ關係

五 信徒及社員タルヘキ者ノ員數

六 宗教ノ用ニ供スル堂宇、教會所、會堂、説教所又ハ講義所ノ類ヲ備テ必

ズモシテ在テハ其名稱、所在地及設置許可年月日

第二條 前條ノ法人ハ前條第一項第一號又ハ第四號ノ事項ヲ變更シタルトキハ

直ニ届出ツヘシ

第三條 第一條ノ法人ハ第一條第一項第二號又ハ第三號ノ事項ヲ變更セムトス

然ルレキハ認可ヲ受ケヘシ

前項ノ規定ニ違背シタルトキハ民法第七十一條ニ依リ其設立ノ許可ヲ取消ス

第四條 本令ニ依リ書面ヲ差出ス場合ニ於テ神佛道ノ教派又ハ宗派ニ屬スルモ

ノニアリテハ凡テ管長ハ派書ヲ付シテ差出ス

○司法省令 明治三十三年八月十日

第一條 社團又ハ財團ニシテ民法第三十四條ニ依リ之ヲ法人ト爲スニ付司法大

臣ノ許可ヲ要スルモノハ主タル事務所所在地ノ地方長官ヲ經由シ其ノ申請書

ニ通テ差出スヘシ其許可ヲ得テ設立シタル法人及民法施行法第十九條ノ法人

ニ於テ司法大臣ノ認可ヲ要スル場合亦同シ

第二條 前條ノ法人ヨリ司法大臣ニ差出スヘキ願届書ハ主タル事務所所在地ノ

地方長官ヲ經由スヘシ

法人設立ノ申請等ニ關スル件

○文部省令 明治三十二年八月十六日 第三十九號

文部大臣ノ主管ニ屬スル法人ノ設立及監督ニ關スル規程ヲ定ムルコト左ノ如シ

第一條 民法第三十四條ニ依リ文部大臣ノ許可ヲ得テ社團又ハ財團ヲ法人ト爲サズトスルトキハ其ノ設立者ニ於テ社團ニ在リテハ定款ハ資産ノ總額及社員ノ員數、財團ニ在リテハ寄附行爲及資産ノ總額ヲ具シ申請書ヲ文部大臣ニ差出スヘシ

第二條 法人ノ設立者及法人ヨリ文部大臣ニ差出スヘキ書類ハ總テ其ノ主タル事務所所在地ニ於テ地方長官ヲ經由スヘシ

地方長官ニ於テ前項ノ書類ヲ受ケタルトキハ詳查ノ上意見ヲ附シテ進達スヘシ

第三條 法人ハ其ノ設立ノ許可若ハ民法施行法第十九條ノ認可ヲ得タルトキハ左ニ掲グル事項ヲ遅滞ナク地方長官ニ報告スヘシ其ノ第二號及第二號ノ事項中ニ變更ヲ生シタル場合亦同シ

一 定款又ハ寄附行爲
二 理事及監事ノ氏名
三 財産目録及社團法人ニ在リテハ社員ノ員數

第四條 法人ハ毎年四月三十日ヲ以テ社團法人ニ在リテハ財産目録及社員員數、財團法人ニ在リテハ財産目録ヲ地方長官ニ差出候メ但特ニ事業年度ヲ設ケルモノハ其ノ年度ノ終ヨリ三十日以内ニ之ヲ差出スヘシ

第五條 地方長官ハ法人ノ業務ヲ監督スヘシ
第六條 地方長官ハ法人ヨリ監督上必要ナル報告ヲ徴シ又ハ實地ニ就キ其ノ業務及財産ノ狀況ヲ検査スルコトヲ得

第七條 地方長官ハ法人ニ於テ民法第七十一條又ハ民法施行法第二十三條ニ該當スル行爲アリト認メタルトキハ其ノ事由ヲ詳具シテ文部大臣ニ報告スヘシ
法人設立ノ申請等ニ關スル件 三百四十五

附則

第八條 本令施行前設立ノ許可若ハ民法施行法第十九條ノ認可ヲ得タル法人ハ本令施行ノ日ヨリ三十日以内ニ第三條ノ事項ヲ地方長官ニ報告スヘシ

○農商務省令 明治三十二年一月四日

第一號

第一條 農商務省ノ主管ニ屬スル社團又ハ財團ニシテ民法第三十四條ノ規定ニ

依リ法人トシテ設立スルノ許可ヲ得ズルモノハ其主タル事務所所在地ノ

地方長官ヲ經由シテ農商務大臣ニ申請スヘシ

第二條 前條ノ手續ヲ經テ設立シタル法人ヨリ農商務大臣ニ願出又ハ届出ヲナ

ストキハ總テ其主タル事務所所在地ノ地方長官ヲ經由スヘシ

●地上權ニ關スル件

(明治三十三年三月二十六日)

法律第七十號(三號)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル地上權ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシメ

第一條 本法施行前他人ノ土地ニ於テ工作物又ハ竹木ヲ所有スル爲其ノ土地ヲ

使用スル者ハ地上權者ト推定ス

第二條 第一條ノ地上權者ハ本法施行ノ日ヨリ一箇年内ニ登記ヲ爲スニ非ザレ

ハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

前項ノ規定ハ本法施行前ニ善意ニテ取得シタル第三者ノ權利ヲ害スルコトナ

シ

●殖林ノ爲設定シタル地上權登記ニ關スル件

(明治三十三年三月三十日)

法律第七十九號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル殖林ノ爲設定シタル地上權登記ニ關スル法律ヲ裁可

シ茲ニ之ヲ公布セシム

不動産登記法施行前ニ殖林ノ爲設定シタル地上權ノ登記ハ本法施行ノ日ヨリ一

地上權ニ關スル件 殖林ノ爲設定シタル地上權登記 三百四十七

記ニ關スル件

箇年内ニ限リ地上權者之ニテ之ヲ申請スルコトヲ得ルニ足ルヘキ書面ヲ添付ス
前項ノ申請ヲ爲スニハ其ノ權利チ有スルコトヲ證スルニ足ルヘキ書面ヲ添付ス
必キトナ要ス

●地所質入書入規則 (明治六年一月 布告第十八號)

第十一條 地所ハ勿論地券ノミタリトモ外國人へ賣買質入書入等致シ金子請取
又ハ借受候儀ハ一切不相成候事 (明治三十一年法律第十一號民法施行法第九
條ヲ以テ本條ヲ除ク外廢止ス)

●外國人ノ抵當權ニ關スル件 (明治三十二年三月十五日 法律第六十七號)

朕帝國議會ニ協贊ヲ經タル外國人ノ抵當權ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布
セシム
土地ノ抵當權者ナル外國人ハ增價競賣ヲ請求スルニハ若シ競賣ニ於テ第三取得

者カ提供シタル金額ヨリ十分ノ一以上高價ニ抵當不動産ヲ賣却スルコト能ハサ
ルトキハ提供金額二十分ノ一ヲ加ヘタルモノト競落價額トノ差額ヲ負擔スヘキ
旨ヲ附言スルコトヲ要ス

●利息制限法 (明治十年九月 布告第六十六號)

第一條 凡ソ金銀貸借上ノ利息ヲ分テ契約上ノ利息ト法律上ノ利息トス
第二條 契約上ノ利息トハ人民相互ノ契約ヲ以テ定メ得ヘキ所ノ利息ニシテ元
金百圓以下ハ一ケ年ニ付百分ノ二十(二割)百圓以上千圓以下百分ノ十五(一
割五分)千圓以上百分ノ十二(一割二分)以下トス若シ此制限ヲ超過スル分ハ
裁判上無効ノモノトシ各其制限ニマテ引直サシムヘシ

第三條 (民法施行法第五十二條ヲ以テ削除)
第四條 第二條ニ依リ定限利息ノ外總テ人民相互ノ契約ヲ以テ禮金棒利等ノ名
目ヲ用ル者アルトモ總テ裁判上無効ノ者トス

地所質入書入規則 外國人ノ抵當權ニ關スル件 利息制限法 三百四十九

第五條 返還期限ヲ違フルトキハ負債主ヨリ債主ニ對シ若干ノ償金罰金違約金
科料等ヲ差出スルキコトヲ約定スルコトアルモ概シテ損害ノ補償ト看做シ裁
判官ニ於テ該債主ノ事實受ケタル損害ノ補償ニ不當ナリト思量スルトキハ之
レニ相當ノ減少ヲ爲スコトヲ得 (商法施行法第百十七條參看)

●失火ノ責任ニ關スル件

(明治三十三年三月七日
法律第四十號)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル失火ノ責任ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシ
ム
民法第七百九條ノ規定ハ失火ノ場合ニハ之ヲ適用セス但シ失火者ニ重大ナル過
失アリタルトキハ此ノ限ニ在ラス

●教育所ニ在ル孤兒ノ後見職務ニ關スル件

(明治三十三年三月十二日
法律第五十一號)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル教育所ニ在ル孤兒ノ後見職務ニ關スル法律ヲ裁可シ
茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 公設ノ教育所ニ在ル未成年ノ孤兒ニ付テハ其ノ所長後見人ノ職務ヲ行
フ
私設ノ教育所ニ在ル未成年ノ孤兒ニ付テハ其ノ教育所所在地ノ地方長官ニ於
テ後見人ノ職務ヲ行フヘキ者ヲ指定ス
第二條 前條ニ依ル後見人ノ職務執行ニ關シテハ勅令ヲ以テ別段ノ規定ヲ設ケ
ルコトヲ得
第三條 教育所ニ在ル未成年者ニシテ孤兒ニ非サル者ト雖本法ノ規定ヲ準用ス
ルヘキモノハ主務大臣之ヲ定ム

附則

本法ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

失火ノ責任ニ關スル件 教育所ニ在ル孤兒ノ後見 三百五十一
職務ニ關スル件

●教育所ニ在ル孤兒ノ後見職務執行ニ關スル特例

(明治三十三年四月十二日) 勅令第四百四十四號

朕教育所ニ在ル孤兒ノ後見職務執行ニ關スル特例ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

- 第一條 教育所ニ在ル孤兒ニ關シ後見人ノ職務ヲ行フ者カ其ノ職務ヲ執行スルニ當リ親族會ノ同意ヲ要スル事項ハ公設ノ教育所ニ在リテ之ヲ設立セル公共團體ノ行政廳、私設ノ教育所ニ在リテハ其ノ教育所所在地ノ市町村長ノ許可ヲ受ケルコトヲ要ス
- 第二條 後見人ノ職務執行ニ關シ後見監督人及親族會ニ屬スル職務權限ハ公設ノ教育所ニ在ル孤兒ノ後見ニ付テハ其ノ教育所ヲ設立セル公共團體ノ行政廳、私設ノ教育所ニ在ル孤兒ニ付テハ其ノ教育所所在地ノ市町村長ニ屬ス
- 第三條 主務大臣又ハ地方長官ハ孤兒ノ後見職務ニ關シ監督上必要ナル命令ヲ

發スルコトヲ得

第四條 孤兒ニ非スシテ教育所ニ在ル未成年者ニ對シ後見人ノ職務ヲ行フニ關シ其ノ場合ニ於テ其ノ者ノ父母ノ所在分明ナルトキハ身分ニ關スル事件ニ限リ其ノ父母ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

第五條 本令ニ規定スル市町村長ノ職務ハ市制町村制ヲ施行セサル地ニ於テハ之ニ準スヘキ者之ヲ行フ

●棄兒、迷兒、遺兒等ノ後見ニ關スル件

(明治三十三年三月二十七日) 內務省令第十一號

棄兒、迷兒、遺兒其ノ他父又ハ母ニ於テ親權ヲ行ヒ難キ情況ニアル未成年者ニシテ教育所ニ在ルモノノ後見ニ關シテハ孤兒ニ非サル者ト雖明治三十三年法律第五十一號ノ規定ヲ準用ス

●相續人曠缺ノ場合ニ於テ國庫ニ歸屬シタル財産ノ

教育所ニ在ル孤兒ノ後見職務執行ニ關スル特例 三百五十三
棄兒、迷兒、遺兒等ノ後見ニ關スル件 相續人曠缺
ノ場合ニ於テ國庫ニ歸屬シタル財産ノ引渡ニ關スル件

引渡ニ關スル件 (明治三十三年十二月七日) 勅令第四百九號 三百五十四

引渡ニ關スル件 (明治三十三年十二月七日) 勅令第四百九號

朕相續入曠缺ノ場合ニ於テ國庫ニ歸屬シタル財産ノ引渡ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
相續入曠缺ノ爲國庫ニ歸屬シタル財産ハ管理人ヨリ遲滯ナク被相續入ノ住所ヲ管轄スル地方行政官廳ニ引渡スヘシ但シ外國ニ在テハ領事又ハ貿易事務官ニ引渡スヘシ

農商務省訓令 (明治三十四年一月十九日) 第一號

北海道廳 府縣 大林區署
相續入曠缺ノ爲メ國庫ニ歸屬シタル財産中森林原野ハ明治三十三年勅令第四百九號ニ依リ其引渡ヲ受ケタル地方行政官廳ニ於テ遲滯ナク地籍所管ノ大林區署ニ引渡スヘシ

地籍所管ノ大林區署ハ地方行政官廳ヨリ森林原野ノ引渡ヲ受ケタルトキハ遲滯ナク臺帳ニ登錄スヘシ

民法ノ規定ニ依ル遺言ノ確認ニ關スル件

(明治三十三年二月六日) 法律第十號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル民法第七十九條及第八十一條ノ規定ニ依ル遺言ノ確認ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 民法第七十九條ノ規定ニ依リ軍入軍屬ノ爲シタル遺言ノ確認ハ左ノ區別ニ從ヒ之ヲ請求スヘシ

- 一 陸軍ニ在リテハ遺言當時遺言者ノ屬シタル陸軍官衛團隊ノ軍法會議ノ理事又ハ遺言ヲ爲シタル地ヲ管轄スル陸軍軍法會議ノ理事ニ請求スヘシ若其ノ軍法會議ノ設置ナク若ハ廢セラレタル場合ニ於テハ遺言者ノ住所地又ハ相續開始地ヲ管轄スル陸軍軍法會議ノ理事ニ請求スヘシ
- 民法ノ規定ニ依ル遺言ノ確認ニ關スル件 三百五十五

一 海軍ニ在リテハ遺言當時遺言者ノ屬シタル海軍官衛軍隊所在地又ハ其ノ附近ノ軍法會議ノ主理ニ請求スヘシ若遺言ヲ爲シタル者カ艦船乗込員ナル場合ニ於テハ便宜海軍軍法會議ノ主理ニ請求スヘシ

第二條 民法第千八十一條本文ノ場合ニ該當スル遺言ノ確認ハ便宜海軍軍法會議ノ主理ニ請求スヘシ

第三條 民事訴訟法裁判所職員ノ除斥人證鑑定ニ關スル規定非訟事件手續法第六條第八條第九條第十條第十三條第十四條第十七條乃至第十九條第三十二條第九條第三項ノ規定及民事訴訟費用法ノ規定ハ本法ノ事件ニ之ヲ準用シ其ノ規定中裁判所及判事ニ屬スル職務ハ理事又ハ主理之ヲ行ヒ書記ニ屬スル職務ハ録事之ヲ行フ但シ上訴ニ關スル規定ハ準用ノ限ニ在ラス

● 死亡者ノ財産保護ニ關スル日英條約

(明治三十三年十一月三十日勅令)

朕明治三十三年四月二十六日東京ニ於テ朕カ全權委員ト大不列顛國全權委員ト記名調印シタル死亡者ノ財産保護ニ關スル條約ヲ批准シ茲ニ之ヲ公布セシム日本國皇帝陛下及大不列顛愛蘭聯合王國兼印度國皇帝陛下ハ死亡者ノ遺產保護ニ關スル規則ヲ設定シ以テ幸ニ兩國間ニ存在スル所ノ厚誼ヲ維持セムコトヲ欲シ條約ヲ締結スルコトニ同意シ之カ爲ニ日本國皇帝陛下ハ其ノ外務大臣從二位勳一等子爵青木周藏ヲ大不列顛愛蘭聯合王國兼印度國皇帝陛下ハ其ノ日本國駐劄特命全權公使「サー、アト子スト、メーソン」ヲ各各其ノ全權委員任命セリ因テ各全權委員ハ互ニ其ノ委任狀ヲ示シ其ノ良好妥當ナルヲ認メ以テ左ノ諸條ヲ協議決定セリ

第一條

兩締盟國ノ一方ノ臣民ニシテ他ノ一方ノ版圖内ニ於テ死亡セシ時ニ方リ該死亡者ノ遺產ヲ管理スヘキ正當ノ權利者現ニ其ノ場所ニ在ラサルトキハ左ノ規則ニ遵フヘキモノトス

死亡者ノ財産保護ニ關スル日英條約

一、死亡者カ前記ノ事情ニ於テ自國ノ國籍ノミチ有スル相續人ヲ遺スカ又ハ死亡者ハ亡母ノ國籍ヲ享有スルノ資格ナルヘキ相續人ヲ遺シタルトキハ死亡者所屬國ノ總領事領事副領事又ハ代辦領事ハ當該官廳ニ通知シテ該死亡者ノ財産ヲ占有保管シ埋葬費ヲ支拂ヒ其ノ餘剩ハ死亡者ノ債務辨濟ノ爲及其ノ正當所屬相續人ノ利益ノ爲ニ之ヲ保留スヘキモノトス

然レトモ該總領事領事副領事又ハ代辦領事ハ直ニ當該裁判所ニ死亡者遺産ノ管理證書ヲ請求スヘキモノトス而シテ右管理證書ハ該裁判所ニ於テ正當ト認ムル所ノ制限及期間ヲ附シ該領事官ニ交付スヘキモノトス

二、若死亡者ニシテ前記ノ事情ニ於テ其ノ死亡シタル國ニ自國以外ノ國籍ヲ有スルカ又ハ亡父若ハ亡母ノ國籍ヲ許與スヘカラサル相續人若ハ包括受遺者ヲ遺シタルトキハ當該裁判所ニ於テ法律ニ從ヒ之ヲ處分スヘキカ或ハ相當ノ制限ヲ附シ領事官ニ聚集管理ヲ委託スヘキカハ兩國政府各各之ヲ決定スルコトヲ得又死亡ノ地方ニ遺產ノ保管管理ヲ爲スヘキ總領事領

事副領事又ハ代辦領事ナキトキハ(本條第一號ノ場合ニ於テ)領事官ノ到著スル迄當該官廳ニ於テ前記ノ行爲ヲ爲スヘキモノトス

第二條 本條約ノ規定ハ法律ノ許ス限リ大不列顛國皇帝陛下ノ殖民地及其ノ海外領地ニ適用スヘキモノトス但シ左ニ列記スル所ハ此ノ限ニ在ラズ

印度

加奈太領地
 喜望峯殖民地
 ナタル
 ニュート、サウス、ウエールズ
 ヴァンクヰトリア
 クヰンズランド

死亡者ノ財産保護ニ關スル日英條約

南濠太利
西濠太利

ニュー・ジブラント

然レトモ東京駐劄大不列顛國皇帝陛下ノ代表者ヨリ本條約批准交換ノ日ヨリ二箇年内ニ本條約ノ規定ヲ前記ノ殖民地又ハ領地ノ孰レヘナリトモ適用スヘキ旨ヲ日本政府ニ通知シタルトキハ之ヲ適用スヘキモノトス

第三條

本條約ハ批准交換ノ上ハ直ニ實施セラレ于九百一十二年七月十七日迄效力ヲ有スルモノトス
兩締盟國ノ一方ハ千九百十年七月十六日以後何時タリトモ本條約ヲ終了セムト欲スル旨ヲ他ノ一方ヘ通知スルノ權利ヲ有スヘシ而シテ此ノ通知ヲ爲シタル後十二箇月ヲ經過シタルトキハ本條約ハ消滅ニ歸スヘキモノトス

第四條

本條約ハ之ヲ批准シ其ノ批准ハ本日ヨリ六箇月以内ニ可成速ニ東京ニ於テ交換スヘシ

右證據トシテ各全權委員ハ之ニ記名調印スルモノナリ

明治三十三年四月二十六日即千九百年四月二十六日東京ニ於テ本書ニ通テ作

子爵青木周藏印
ア田子スト、メーソン、サトー印

天佑ヲ保有シ萬世一系ノ帝祚ヲ踐ミタル日本國皇帝(御名)此書ヲ見ル有衆ニ宣示ス

朕帝國ト大不列顛國トノ間ニ死亡者ノ財産保護ニ關シ明治三十三年四月二十六日東京ニ於テ兩國全權委員ノ記名調印シタル條約ノ各條目ヲ親シク閱覽點檢シ死亡者ノ財産保護ニ關スル日英條約 三百六十一

タルニ善ク朕ノ意ニ適シ間然スル所ナキヲ以テ右條約ヲ嘉納批准ス
神武天皇即位紀元二千五百六十年明治三十三年十月二十四日東京宮城ニ於テ親
カラ名ヲ署シ璽ヲ鈐セシム

御名 國 璽

外務大臣加藤高明印

○外務省告示 明治三十四年九月二日 明治三十三年四月二十六日締結ノ死

第二十號

亡者ノ財産保護ニ關スル日英條約第二條ノ規定ニ從ヒ本年八月二十六日附公文
ヲ以テ在本邦英國臨時代理公使ヨリ喜望峯植民地ニ前記條約ヲ適用スヘキ旨通
知アリタリ

○外務省告示 明治三十五年二月十八日 明治三十三年四月二十六日締結ノ

第三號

死亡者ノ財産保護ニ關スル日英條約第二條ノ規定ニ從ヒ本年二月十二日附公文

ヲ以テ在本邦英國特命全權公使ヨリ英領印度ニ前記條約ヲ適用スヘキ旨通知ア
リタリ

死亡者ノ財産保護ニ關スル日英條約

凡此等事項均須經登記始行生效力

● 不動産登記法 (明治三十三年二月二十三日 法律第二十號)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル不動産登記法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
不動産登記法

第一章 總則

第一條 登記ハ左ニ掲ケタル不動産ニ關スル權利ノ設定、保存、移轉、變更、處分ノ制限又ハ消滅ニ付キ之ヲ爲ス

- 一 所有權
- 二 地上權
- 三 永小作權
- 四 地役權
- 五 先取特權
- 六 質權
- 七 抵當權

不動産登記法 總則

八 賃借權

第二條 假登記ハ左ノ場合ニ於テ之ヲ爲ス

- 一 登記ノ申請ニ必要ナル手續上ノ條件カ具備セサルトキ
- 二 前條ニ掲ケタル權利ノ設定、移轉、變更又ハ消滅ノ請求權ヲ保全セントスルトキ

右ノ請求權カ始期附又ハ停止條件附ナルトキ其他將來ニ於テ確定スヘキモノナルトキ亦同シ

第三條 豫告登記ハ登記原因ノ無效又ハ取消ニ因ル登記ノ抹消又ハ回復ノ訴ノ提起アリタル場合ニ於テ之ヲ爲ス但登記原因ノ取消ニ因ル訴ニ付テハ其取消ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ル場合ニ限ル

第四條 詐欺又ハ強迫ニ因リテ登記ノ申請ヲ妨ケタル第三者ハ登記ノ欠缺ヲ主張スルコトヲ得ス

第五條 他人ノ爲メ登記ヲ申請スル義務アル者ハ其登記ノ欠缺ヲ主張スルコト

ヲ得ス但其登記ノ原因カ自己ノ登記ノ原因ノ後ニ發生シタルトキハ此限ニ在ラス

第六條 同一ノ不動産ニ關シテ登記シタル權利ノ順位ニ付キ法律ニ別段ノ定ナキトキハ其順位ハ登記ノ前後ニ依ル

登記ノ前後ハ登記用紙中同區ニ爲シタル登記ニ付テハ順位番號ニ依リ別區ニ爲シタル登記ニ付テハ受附番號ニ依ル

第七條 附記登記ノ順位ハ主登記ノ順位ニ依ル但附記登記間ノ順位ハ其前後ニ依ル

假登記ヲ爲シタル場合ニ於テハ本登記ノ順位ハ假登記ノ順位ニ依ル

第二章 登記所及ヒ登記官吏

第八條 登記スヘキ權利ノ目的タル不動産ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所又ハ其出張所ヲ以テ管轄登記所トス

不動産方數箇ノ登記所ノ管轄地ニ跨カルトキハ其各登記所ヲ併セテ管轄スル不動産登記法 登記所及ヒ登記官吏 三百六十七

直近上級ノ裁判所ニ於テ申請ニ因リ管轄登記所ヲ指定ス

第九條 町村其他登記簿ヲ分設シタル區畫カ甲登記所ノ管轄ヨリ乙登記所ノ管轄ニ轉屬シタルトキハ甲登記所ハ其區畫ニ關スル登記簿及ヒ其附屬書類ヲ乙登記所ニ移送スルコトヲ要ス

一箇又ハ數箇ノ不動産ノ所在地カ甲登記所ノ管轄ヨリ乙登記所ノ管轄ニ轉屬シタルトキハ甲登記所ハ其不動産ニ關スル登記簿ノ謄本及ヒ附屬書類又ハ其謄本ヲ乙登記所ニ移送スルコトヲ要ス但登記簿ノ謄本ニハ抹消ニ係ラサル登記ノミヲ謄寫シ其不動産ノ登記用紙ヲ閉鎖スルコトヲ要ス

第十條 登記所ニ於テ其事務ヲ停止セサルコトヲ得サル事故ノ生シタルトキハ司法大臣ハ期間ヲ定メテ其停止ヲ命スルコトヲ得

第十一條 登記所ハ土地ニ付キ所有權ノ移轉又ハ質權ノ設定、移轉若クハ消滅ノ登記ヲ爲シタルトキハ遲滯ナク其旨ヲ土地臺帳所管廳ニ通知スルコトヲ要ス未登記ノ土地ニ付キ所有權ノ登記ヲ爲シタルトキ亦同シ

土地臺帳所管廳ハ土地ノ分合、滅失、段別若クハ坪數ノ増減又ハ地目、字、番號ノ變更アリタルトキハ遲滯ナク其旨ヲ登記所ニ通知スルコトヲ要ス

第十二條 登記官吏ハ自己、其妻又ハ四親等内ノ親族カ申請人ナルトキハ其登記所ニ於テ登記ヲ受ケタル成年者ニシテ且登記官吏ノ妻又ハ四親等内ノ親族ニ非サル者二人以上ノ立會アルニ非サレハ登記ヲ爲スコトヲ得ス但親族ニ付テハ親族關係ガ止ミタル後亦同シ

前項ノ場合ニ於テハ登記官吏ハ調書ヲ作り立會人ト共ニ之ニ署名、捺印スルコトヲ要ス

第十三條 登記官吏カ其職務ノ執行ニ付キ申請人其他ノ者ニ損害ヲ加ヘタルトキハ其損害カ登記官吏ノ故意又ハ重大ナル過失ニ因リテ生シタル場合ニ限リ之ヲ賠償スル責ニ任ス

第三章 登記ニ關スル帳簿

第十四條 登記簿ハ土地登記簿及ヒ建物登記簿ノ二種トス

不動産登記法 登記ニ關スル帳簿

各種ノ登記簿ハ市ニ付テハ從前ノ區畫ニ從ヒ別冊ト爲シ町村ニ付テハ町村毎ニ別冊ト爲ス但登記事件夥多ナル町村ニ付テハ大字其他從前ノ區畫ニ從ヒ別冊ト爲スコトヲ得

第十五條 登記簿ハ一筆ノ土地又ハ一棟ノ建物ニ付キ一用紙ヲ備フ
同一ノ登記所ノ管轄ニ屬スル不動産カ登記簿ヲ分設シタル數箇ノ區畫ニ跨カ
ルトキハ其一箇ノ區畫ノ登記簿ニノミ其不動産ニ關スル用紙ヲ備フ

第十六條 土地登記簿ハ其一用紙ヲ登記番號欄、表題部及ヒ甲乙丙丁戊ノ五區
ニ分チ尙ホ表題部ニ表示欄、表示番號欄ヲ設ケ各區ニ事項欄、順位番號欄ヲ
設ケ

登記番號欄ニハ各土地ニ付キ登記簿ニ始メテ登記ヲ爲シタル順序ヲ記載ス
表示欄ニハ土地ノ表示ヲ爲シ及ヒ其變更ニ關スル事項ヲ記載シ表示番號欄ニ
ハ表示欄ニ登記事項ヲ記載シタル順序ヲ記載ス
甲區事項欄ニハ所有權ニ關スル事項ヲ記載ス

乙區事項欄ニハ地上權、永小作權及ヒ此等ノ權利ヲ目的トスル他ノ權利ニ關
スル事項ヲ記載ス

丙區事項欄ニハ地役權ニ關スル事項ヲ記載ス

丁區事項欄ニハ先取特權、質權及ヒ抵當權ニ關スル事項ヲ記載ス

戊區事項欄ニハ賃借權ニ關スル事項ヲ記載ス

順位番號欄ニハ事項欄ニ登記事項ヲ記載シタル順序ヲ記載ス

第十七條 建物登記簿ハ其一用紙ヲ登記番號欄、表題部及ヒ甲乙丙丁ノ四區ニ
分チ尙ホ表題部ニ表示欄、表示番號欄ヲ設ケ各區ニ事項欄、順位番號欄ヲ設
ケ

登記番號欄ニハ各建物ニ付キ登記簿ニ始メテ登記ヲ爲シタル順序ヲ記載ス

表示欄ニハ建物及ヒ附屬建物ノ表示ヲ爲シ及ヒ其變更ニ關スル事項ヲ記載シ

表示番號欄ニハ表示欄ニ登記事項ヲ記載シタル順序ヲ記載ス

甲區事項欄ニハ所有權ニ關スル事項ヲ記載ス

不動産登記法 登記ニ關スル帳簿

乙區事項欄ニハ地役權ニ關スル事項ヲ記載ス

丙區事項欄ニハ先取特權、質權及ヒ抵當權ニ關スル事項ヲ記載ス

丁區事項欄ニハ賃借權ニ關スル事項ヲ記載ス

順位番號欄ニハ事項欄ニ登記事項ヲ記載シタル順序ヲ記載ス

第十八條 登記簿ニハ地方裁判所長其枚數ヲ表紙ノ裏面ニ記載シ職氏名ヲ署シ

職印ヲ捺捺シ且毎葉ノ綴目ニ職印ヲ以テ契印ヲ爲スコトヲ要ス

第十九條 土地登記簿及ヒ建物登記簿ニ付キ各其見出帳ヲ設ケ

第二十條 登記簿見出帳、共同人名簿及ヒ圖面ニ永久ニ之ヲ保存スルコトヲ

要ス

申請書其他ノ附屬書類ハ申請書受附ノ日ヨリ十年間之ヲ保存スルコトヲ要

ス

第二十一條 何人ト雖モ手数料ヲ納付シテ登記簿ノ謄本又ハ抄本ノ交付ヲ請求

シ又利害ノ關係アル部分ニ限リ登記簿又ハ其附屬書類ノ閱覽ヲ請求スルコト

ヲ得

手数料ノ外郵送料ヲ納付シテ登記簿ノ謄本又ハ抄本ノ送付ヲ請求スルコトヲ得

第二十二條 登記簿及ヒ其附屬書類ハ事變ヲ避ケル爲メニスル場合ヲ除ケ外登

記所外ニ持出スコトヲ得ス但第二十條第二項ニ掲ケタル書類ニ付テハ裁判所

又ハ豫審判事ノ命令又ハ囑託アリタルトキハ此限ニ在ラス

第二十三條 登記簿ノ全部又ハ一部カ滅失シタル場合ニ於テハ司法大臣ハ三ヶ

月ヨリ少カラサル期間ヲ定メ其期間内ニ登記ノ回復ヲ申請スル者ハ仍ホ其登

記簿ニ於ケル順位ヲ有スヘキ旨ヲ告示スルコトヲ要ス

第二十四條 登記簿及ヒ其附屬書類ノ滅失スル虞アルトキハ司法大臣ハ必要ナ

ル處分ヲ命スルコトヲ得

第四章 登記手續

第一節 通則

不動産登記法 登記手續

第二十五條 登記ハ法律ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外當事者ノ申請又ハ官廳若クハ公署ノ囑託アルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

囑託ニ因ル登記ノ手續ニ付テハ法令ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外申請ニ因ル登記ニ關スル規定ヲ準用ス

第二十六條 登記ハ登記權利者及ヒ登記義務者又ハ其代理人登記所ニ出頭シテ之ヲ申請スルコトヲ要ス

第二十七條 判決又ハ相續ニ因ル登記ハ登記權利者ノミニテ之ヲ申請スルコトヲ得

第二十八條 登記名義人ノ表示ノ變更ノ登記ハ登記名義人ノミニテ之ヲ申請スルコトヲ得

第二十九條 官廳又ハ公署ノ公賣處分ニ因ル權利移轉ノ登記ハ登記權利者ノ請求ニ因リ其官廳又ハ公署ヨリ遲滞ナク囑託書ニ登記原因ヲ證スル書面ヲ添附シテ之ヲ登記所ニ囑託スルコトヲ要ス

第三十條 官有不動産又ハ府縣、郡、市、町村若クハ區ノ所有ニ係ル不動産ニ關スル權利ニ付キ爲スヘキ登記ハ登記權利者ノ請求ニ因リ官廳若クハ公署ヨリ遲滞ナク囑託書ニ登記原因ヲ證スル書面ヲ添附シテ之ヲ登記所ニ囑託スルコトヲ要ス

第三十一條 官廳カ不動産ニ關スル權利ヲ取得シタル下キハ其權利ニ付キ爲スヘキ登記ハ其官廳ヨリ遲滞ナク囑託書ニ登記原因ヲ證スル書面及ヒ登記義務者ノ承諾書ヲ添附シテ之ヲ登記所ニ囑託スルコトヲ要ス

官廳カ取得シタル不動産ニ關スル權利ノ變更又ハ處分ノ制限ニ付キ爲スヘキ登記ハ官廳カ登記權利者ナルトキハ職權ヲ以テ、登記義務者ナルトキハ登記權利者ノ請求ニ因リ官廳ヨリ遲滞ナク囑託書ニ登記原因ヲ證スル書面ヲ添附シテ之ヲ登記所ニ囑託スルコトヲ要ス但官廳カ登記權利者ナルトキハ登記義務者ノ承諾書ヲモ添附スルコトヲ要ス

官廳カ取得シタル不動産ニ關スル權利ノ消滅ノ登記ハ登記權利者ノ請求ニ因

不動産登記法 登記手續

リ官廳ヨリ遲滞ナク囑託書ニ登記原因ヲ證スル書面ヲ添附シテ之ヲ登記所ニ囑託スルコトヲ要ス

第三十二條 假登記ハ次條ノ場合ヲ除ク外假登記權利者ノ申請ニ因リ其目的タル不動産ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所ヨリ遲滞ナク囑託書ニ假處分命令ノ正本ヲ添附シテ之ヲ登記所ニ囑託スルコトヲ要ス

前項ノ假處分命令ハ假登記權利者カ假登記原因ヲ疏明シタルトキハ區裁判所之ヲ發スルコトヲ要ス

申請ヲ却下シタル決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

前項ノ即時抗告ニ付テハ非訟事件手續法ノ規定ヲ準用ス

第三十三條 假登記ハ假登記義務者ノ承諾アルトキハ申請書ニ其承諾書ヲ添附シテ假登記權利者ヨリ之ヲ登記所ニ申請スルコトヲ得

第三十四條 豫告登記ハ第三條ニ掲ケタル訴ヲ受理シタル裁判所ヨリ職權ヲ以テ遲滞ナク囑託書ニ訴狀ノ謄本又ハ抄本ヲ添附シテ之ヲ登記所ニ囑託スルコトヲ要ス

トヲ要ス

第三十五條 登記ヲ申請スルニハ左ノ書面ヲ提出スルコトヲ要ス

第三十六條 申請書ニハ左ノ事項ヲ記載シ申請人之ニ署名、捺印スルコトヲ要ス

一 登記原因ヲ證スル書面

二 登記義務者ノ權利ニ關スル登記濟證

三 登記原因ニ付キ第三者ノ許可、同意又ハ承諾ヲ要スルトキハ之ヲ證スル書面

四

五 代理人ニ依リテ登記ヲ申請スルトキハ其權限ヲ證スル書面

登記原因ヲ證スル書面カ執行力アル判決ナルトキハ前項第三號及ヒ第四號ニ掲ケタル書面ヲ提出スルコトヲ要セス

第三十六條 申請書ニハ左ノ事項ヲ記載シ申請人之ニ署名、捺印スルコトヲ要ス

一 不動産所在ノ郡、市、區、町村、字及ヒ土地ノ番號

二 不動産登記法 登記手續

- 二 地目及ヒ段別又ハ坪數
- 三 申請人ノ氏名、住所若シ申請人カ法人ナルトキハ其名稱及ヒ事務所
- 四 代理人ニ依リテ登記ヲ申請スルトキハ其氏名、住所
- 五 登記原因及ヒ其日附
- 六 登記ノ目的
- 七 登記所ノ表示
- 八 年月日

第三十七條 登記スヘキ權利ノ目的カ建物ナル場合ニ於テハ申請書ニ其種類、構造及ヒ建坪ヲ記載シ若シ建物ノ番號アルトキハ其番號ヲ記載シ附屬建物アルトキハ其種類、構造及ヒ建坪ヲ記載スルコトヲ要ス

第三十八條 登記原因ニ買戻ノ特約其他登記ノ目的タル權利ノ消滅ニ關スル事項ノ定アルトキハ申請書ニ其事項ヲ記載スルコトヲ要ス

第三十九條 登記權利者カ多數ナル場合ニ於テ登記原因ニ其持分ノ定アルトキ

ハ申請書ニ其持分ヲ記載スルコトヲ要ス

第四十條 登記原因ヲ證スル書面カ初ヨリ存在セス又ハ之ヲ提出スルコト能ハサルトキハ申請書ノ副本ヲ提出スルコトヲ要ス

第四十一條 登記原因カ相續ナルトキハ申請書ニ相續ヲ證スル戸籍吏ノ書面又ハ之ヲ證スルニ足ルヘキ書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第四十二條 申請人カ登記權利者又ハ登記義務者ノ相續人ナルトキハ申請書ニ其身分ヲ證スル戸籍吏ノ書面又ハ之ヲ證スルニ足ルヘキ書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第四十三條 登記名義人ノ表示ノ變更ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ其表示ノ變更ヲ證スル戸籍吏ノ書面又ハ之ヲ證スルニ足ルヘキ書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第四十四條 登記義務者ノ權利ニ關スル登記濟證カ滅失シタルトキハ申請書ニ其登記所ニ於テ登記ヲ受ケル成年者二人以上カ登記義務者ノ人違ナキコト
 不動産登記法 登記手續
 三百七十九

ヲ保證シタル書面ニ通テ添附スルコトヲ要ス

第四十五條 申請書ニ第三者ノ許可、同意又ハ承諾ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要スル場合ニ於テハ其第三者ヲシテ申請書ニ署名、捺印セシメテ其書面ニ代フルコトヲ得

第四十六條 同一ノ登記所ノ管轄内ニ在ル數個ノ不動産ニ關スル登記ヲ申請スル場合ニ於テハ登記原因及ヒ登記ノ目的カ同一ナルトキニ限り同一ノ申請書ヲ以テ登記ヲ申請スルコトヲ得

第四十七條 登記官吏カ申請書ヲ受取リタルトキハ受附帳ニ登記ノ目的、申請人ノ氏名、受附ノ年月日及ヒ受附番號ヲ記載シ申請書ニ受附ノ年月日及ヒ受附番號ヲ記載スルコトヲ要ス但同一ノ不動産ニ關シテ同時ニ數個ノ申請アリタルトキハ同一ノ受附番號ヲ記載スルコトヲ要ス

申請書其他ノ書面ノ受領證ニハ受附ノ年月日及ヒ受附番號ヲ記載シ之ヲ申請人ニ交付スルコトヲ要ス

第四十八條 登記官吏ハ受附番號ノ順序ニ從ヒテ登記ヲ爲スルコトヲ要ス

第四十九條 登記官吏ハ左ノ場合ニ限り理由ヲ附シタル決定ヲ以テ申請ヲ却下スルコトヲ要ス但申請ノ欠缺ヲ補正スルコトヲ得ヘキモノナル場合ニ於テ申請人カ即日ニ之ヲ補正シタルトキハ此限ニ在ラス

第一 事件カ其登記所ノ管轄ニ屬セサルトキ
第二 事件カ登記スヘキモノニ非サルトキ
第三 當事者カ出頭セザルトキ

第四 申請書カ方式ニ適合セザルトキ
第五 申請書ニ掲ケタル不動産又ハ登記ノ目的タル權利ノ表示カ登記簿ト牴觸スルトキ

第六 第四十二條ニ掲ケタル書面ヲ提出シタル場合ヲ除ク外申請書ニ掲ケタル登記義務者ノ表示カ登記簿ト符合セザルトキ
第七 申請書ニ掲ケタル事項カ登記原因ヲ證スル書面ト符合セザルトキ

不動産登記法 登記手續

八 申請書ニ必要ナル書面又ハ圖面ヲ添附セサルトキ
九 登録稅ヲ納付セサルトキ

第五十條 表示欄ニ登記ヲ爲スニハ申請書受附ノ年月日、登記ノ目的其他申請書ニ掲ケタル事項ニシテ不動産ノ表示ニ關スルモノヲ記載シテ登記官吏捺印スルコトヲ要ス

事項欄ニ登記ヲ爲スニハ申請書受附ノ年月日、受附番號、登記權利者ノ氏名、住所、登記原因、其日附、登記ノ目的其他申請書ニ掲ケタル事項ニシテ登記スヘキ權利ニ關スルモノヲ記載シテ登記官吏捺印スルコトヲ要ス

第五十一條 登記權利者カ多數ナルトキハ申請書ニ掲ケタル筆頭ノ者ノミノ氏名、住所及ヒ他ノ人員ヲ登記用紙ニ記載シ其氏名、住所ヲ共同人名簿ニ記載スルコトヲ得登記義務者ノ氏名、住所ヲ登記用紙ニ記載スルコトヲ要スル場
合ニ於テ登記義務者カ多數ナルトキ亦同シ

第五十二條 表示欄ニ登記ヲ爲ストキハ表示番號欄ニ番號ヲ記載シ事項欄ニ登

記ヲ爲ストキハ順位番號欄ニ番號ヲ記載スルコトヲ要ス

第五十三條 附記ニ依ル登記ノ順位番號ヲ記載スルニハ主登記ノ番號ヲ用井其

番號ノ左側ニ附記何號ト記載スルコトヲ要ス

第五十四條 假登記ハ登記用紙中相當區事項欄ニ之ヲ爲シ其左側ニ餘白ヲ存スルコトヲ要ス

第五十五條 假登記ヲ爲シタル後本登記ノ申請アリタルトキハ假登記ノ左側ノ餘白ニ其登記ヲ爲スコトヲ要ス

第五十六條 權利ノ變更ノ登記ニ付キ登記上利害ノ關係ヲ有スル第三者アル場合ニ於テハ申請書ニ其承諾書又ハ之ニ對抗スルコトヲ得ヘキ裁判ノ謄本ヲ添附シタルトキニ限り附記ニ依リテ其登記ヲ爲ス

第五十七條 權利ノ變更ノ登記ヲ爲ストキハ變更シタル登記事項ヲ朱抹スルコトヲ要ス

第五十八條 登記名義人ノ表示ノ變更ノ登記ハ附記ニ依リテ之ヲ爲ス
不動産登記法 登記手續 三百八十三

前項ノ登記ヲ爲スルキハ前ノ表示ヲ抹スルコトヲ要ス

第五十九條 行政區畫又ハ其名稱ノ變更アリタルトキハ登記簿ニ記載シタル行政區畫又ハ其名稱ハ當然之ヲ變更シタルモノト看做ス

第六十條 登記官吏カ登記ヲ完了シタルトキハ登記原因ヲ證スル書面又ハ申請書ノ副本ニ登記番號、申請書受附ノ年月日、受附番號、順位番號及ヒ登記濟之旨ヲ記載シ登記所ノ印ヲ押捺シテ之ヲ登記權利者ニ還付スルコトヲ要ス

申請書ニ添附シタル登記濟證又ハ第四十四條ニ掲ケタル書面ノ一通ニハ申請書受附ノ年月日、受附番號、順位番號、登記權利者ノ氏名、住所、登記原因、其日附、登記ノ目的及ヒ登記濟ノ旨ヲ記載シ登記所ノ印ヲ押捺シテ之ヲ登記義務者ニ還付スルコトヲ要ス但登記名義人カ多數ナル場合ニ於テ其一部カ登記義務者ナルトキハ登記義務者ノ氏名、住所ヲモ記載スルコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テ登記權利者又ハ登記義務者カ多數ナルトキハ申請書ニ掲ケタル筆頭ノ者ノ氏名、住所及ヒ他ノ人員ヲ記載スルヲ以テ足ル

第六十一條 第四十四條ノ場合ニ於テ登記官吏カ登記ヲ完了シタルトキハ不動産ノ表示、登記原因、其日附、登記權利者ノ氏名、住所、登記ノ目的及ヒ登記濟ノ旨ヲ登記義務者又ハ其一人ニ通知スルコトヲ要ス

第六十二條 官廳又ハ公署カ登記權利者ノ爲メニ登記ヲ囑託シタル場合ニ於テ登記所ヨリ登記濟證ヲ還付ヲ受ケタルトキハ遲滞ナク之ヲ登記權利者ニ交付スルコトヲ要ス

第六十三條 登記官吏カ登記ヲ完了シタル後其登記ニ付キ錯誤又ハ遺漏アルコトヲ發見シタルトキハ遲滞ナク其旨ヲ登記權利者及ヒ登記義務者ニ通知スルコトヲ要ス但登記權利者又ハ登記義務者カ多數ナルトキハ其一人ニ通知スルヲ以テ足ル

第六十四條 第五十六條及ヒ第五十七條ノ規定ハ登記ノ更正ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第六十五條 抹消シタル登記ノ回復ヲ申請スル場合ニ於テ登記上利害ノ關係ヲ不動産登記法 登記手續

有スル第三者アルトキハ申請書ニ其承諾書又ハ之ニ對抗スルコトヲ得ヘキ裁
判ノ謄本ヲ添附スルコトヲ要ス

第六十六條 登記回復ノ申請アリタル場合ニ於テ登記ヲ回復スルトキハ回復ノ
登記ヲ爲シタル後更ニ抹消ニ係ル登記ト同一ノ登記ヲ爲シ若シ或登記事項ノ
ミカ抹消ニ係ルトキハ附記ニ依リ更ニ其事項ヲ登記スルコトヲ要ス

第六十七條 第九條第二項ノ場合ニ於テ乙登記所ハ移送ヲ受ケタル登記簿ノ謄
本ニ依リ相當登記區畫ノ登記簿ニ登記ヲ移スコトヲ要ス
登記簿ニ登記ヲ移スコトキハ登記用紙中登記番號欄ニ其登記簿ニ於ケル登記ノ
順序ヲ追ヒテ新ナル番號ヲ記載シ其左側ニ前登記區畫ノ表示ヲ爲シ前登記番
號ヲ記載スルコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テハ表示欄及ヒ事項欄ニ移シタル登記ノ末尾ニ登記簿ノ謄本
ニ依リ登記ヲ移シタル旨及ヒ其年月日ヲ記載シ登記官吏捺印スルコトヲ要
ス

第六十八條 同一ノ登記所ノ管轄内ニ於テ一箇又ハ數箇ノ不動産ノ所在地カ甲
登記區畫ヨリ乙登記區畫ニ轉屬シタルトキハ登記所ハ乙登記區畫ノ登記簿ニ
其不動産ニ關スル登記ヲ移スコトヲ要ス

前條第三項及ヒ第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス
登記簿ニ登記ヲ移シタルトキハ前登記用紙ヲ閉鎖スルコトヲ要ス

第六十九條 第二十三條ノ場合ニ於テハ登記權利者ノミニテ登記ノ回復ヲ申請
スルコトヲ得

第七十條 前條ノ申請ヲ爲ス場合ニ於テハ申請書ニ前登記ノ順位番號、申請書
受附ノ年月日、受附番號ヲ記載シ前登記ノ登記濟證ヲ添附スルコトヲ要ス

第七十一條 第六十九條ノ申請アリタル場合ニ於テ登記ヲ爲スコトキハ登記用紙
中登記番號欄ニ其登記簿ニ於ケル登記ノ順序ヲ追ヒテ新ナル番號ヲ記載シ表
示欄ニ不動産ノ表示ヲ爲シ相當區順位番號欄ニ前登記ノ番號ヲ記載シ事項欄
ニ前登記ノ申請書受附ノ年月日及ヒ受附番號ヲ記載スルコトヲ要ス

不動産登記法 登記手續

第七十二條 第二十三條ノ規定ニ依リテ定メタル期間中新登記ノ申請アリタル

トキハ假設登記簿ニ其登記ヲ爲スコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テハ登記濟證ニ假設登記簿ニ登記ヲ爲シタル旨ヲ記載スルコトヲ要ス

第七十三條 假設登記簿ニ爲シタル登記ハ第二十三條ノ規定ニ依リテ定メタル

期間満了ノ後遲滞ナク之ヲ登記簿ニ移スコトヲ要ス此場合ニ於テハ登記用紙

中登記番號欄ニ其登記簿ニ於ケル登記ノ順序ヲ追ヒテ新ナル番號ヲ記載シ其

左側ニ假設登記簿ニ於ケル登記番號ヲ記載スルコトヲ要ス

第六十七條第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

登記簿ニ登記ヲ移シタルトキハ其不動産ニ關スル假設登記簿ノ用紙ヲ閉鎖ス

ルコトヲ要ス

第七十四條 假設登記簿ノ登記ヲ登記簿ニ移ス場合ニ於テ回復シタル登記アル

トキハ新登記ノ順位番號欄ニハ回復シタル登記ノ順序ヲ追ヒテ新ナル番號ヲ

記載スルコトヲ要ス

記載スルコトヲ要ス

第七十五條 假設登記簿ノ登記ヲ登記簿ニ移シタルトキハ當事者ニ對シ之ニ本

登記濟證ヲ與フヘキ旨ヲ通知シ若シ回復シタル登記ト假設登記簿ヨリ移シタ

ル登記ト抵觸スルトキハ同時ニ其旨ヲ通知スルコトヲ要ス

當事者カ登記濟證ヲ申請スル場合ニ於テハ假設登記簿ニ於ケル登記ノ登記濟

證ヲ提出スルコトヲ要ス

前項ノ申請アリタルトキハ第六十條ノ規定ヲ準用ス

第七十六條 登記用紙中表題部又ハ或區カ登記ヲ爲スヘキ餘白ヲキニ至リタル

トキハ新用紙中登記番號欄ニ前用紙ノ登記番號ヲ轉寫シ前用紙ヲ編綴セル登

記簿ノ冊數、丁數及ヒ其繼續用紙ナルコトヲ記載シ且前用紙中登記番號欄ニ

新用紙ヲ編綴セル登記簿ノ冊數、丁數及ヒ之ニ繼續スル旨ヲ記載スルコトヲ

要ス

前用紙中表題部又ハ他ノ區ニ餘白アルトキハ表題部又ハ其區ニ登記スヘキ事

不動産登記法 登記手續

項ニ付テハ仍ホ之ニ登記ヲ爲スコトヲ要ス

第七十七條 登記ヲ爲シ又ハ申請書其他登記ニ關スル書面ヲ作ルニハ字畫明瞭ナルコトヲ要ス

金錢其他ノ物ノ數量、年月日及ヒ番號ヲ記載スルニハ壹貳參拾ノ字ヲ用井ルコトヲ要ス

文字ハ之ヲ改竄スルコトヲ得ス若シ訂正、挿入又ハ削除ヲ爲シタルトキハ其字數ヲ欄外ニ記載シ又ハ文字ノ前後ニ括弧ヲ附シ之ニ捺印シ其削除ニ係ル文字ハ尙ホ讀得ヘキ爲メ字體ヲ存スルコトヲ要ス

第二節 所有權ニ關スル登記手續

第七十八條 所有權ノ一部移轉ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ其部分ノ表示ヲ爲シ若シ登記原因ニ民法第二百五十六條第一項但書ノ定アルトキハ之ヲ記載スルコトヲ要ス

第七十九條 土地ノ分合、滅失、段別若クハ坪數ノ増減又ハ地目、字若クハ番

號ノ變更アリタルトキハ其土地ノ所有權ノ登記名義人ハ遲滯ナク其登記ヲ申請スルコトヲ要ス

第八十條 前條ノ規定ニ從ヒテ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ土地ノ分合、滅失若クハ増減シタル段別若クハ坪數並ニ現在ノ段別若クハ坪數ヲ記載シ又ハ新地目、新字若クハ新番號ヲ記載スルコトヲ要ス

第八十一條 土地ノ分合、滅失、段別若クハ坪數ノ減少又ハ地目ノ變更ヲ登記ヲ申請スル場合ニ於テ其土地ノ登記用紙ニ所有權以外ノ權利ニ關スル登記アルトキハ申請書ニ其登記名義人ノ承諾書又ハ之ニ對抗スルコトヲ得ヘキ裁判ノ謄本ヲ添附スルコトヲ要ス

第八十二條 甲地ヲ分割シテ其一部ヲ乙地ト爲シタル場合ニ於テ分筆ノ登記ヲ爲ストキハ登記用紙中登記番號欄ニ番號ヲ記載シ表示欄ニ分割ニ因リテ登記何號ヨリ移シタル旨ヲ記載スルコトヲ要ス

前項ノ手續ヲ爲シタルトキハ甲地ノ登記用紙中表示欄ニ殘餘部分ノ表示ヲ爲
不動産登記法 登記手續
三百九十一

シ分割ニ因リテ他ノ部分ヲ登記何號ニ移シタル旨ヲ記載シ前ノ表示及ヒ其番號ヲ朱抹スルコトヲ要ス

第八十三條 前條第一項ノ場合ニ於テハ乙地ノ登記用紙中相當區事項欄ニ甲地ノ登記用紙ヨリ所有權其他ノ權利ニ關スル登記ヲ轉寫シ且所有權以外ノ權利ニ關スル登記中ニ甲地ト共ニ其權利ノ目的タル旨、申請書受附ノ年月日及ヒ受附番號ヲ記載シ登記官吏捺印スルコトヲ要ス
甲地ノ登記用紙ヨリ乙地ノ登記用紙ニ所有權以外ノ權利ニ關スル登記ヲ轉寫シタルトキハ甲地ノ登記用紙中其權利ニ關スル登記ニ乙地ト共ニ其權利ノ目的タル旨ヲ附記スルコトヲ要ス
申請書ニ所有權以外ノ權利ノ登記名義人カ乙地ニ關シ其權利ノ消滅ヲ承諾シタルコトヲ證スル書面又ハ之ニ對抗スルコトヲ得ヘキ裁判ノ謄本ヲ添附シタルトキハ甲地ノ登記用紙中其權利ニ關スル登記ニ其旨ヲ附記スルコトヲ要ス

第八十四條 甲地ヲ分割シテ其一部ヲ乙地ト爲シタル場合ニ於テ乙地ノミカ所有權以外ノ權利ノ目的タルトキハ乙地ノ登記用紙中相當區事項欄ニ其權利ニ關スル登記ヲ移シ申請書受附ノ年月日及ヒ受附番號ヲ記載シ登記官吏捺印スルコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テハ甲地ノ登記用紙中所有權以外ノ權利ニ關スル登記ニ乙地ノ表示ヲ爲シ分割ニ因リテ登記何號ニ移シタル旨ヲ附記シ其登記ヲ朱抹スルコトヲ要ス
申請書ニ所有權以外ノ權利ノ登記名義人カ其權利ノ消滅ヲ承諾シタルコトヲ證スル書面又ハ之ニ對抗スルコトヲ得ヘキ裁判ノ謄本ヲ添附シタルトキハ甲地ノ登記用紙中其權利ニ關スル登記ニ其旨ヲ附記シ其登記ヲ朱抹スルコトヲ要ス

第八十五條 甲地ヲ分割シテ其一部ヲ乙地ニ合併シタル場合ニ於テ合併ノ登記ヲ爲ストキハ乙地ノ登記用紙中表示欄ニ合併ニ因リテ登記何號ヨリ移シタル

不動産登記法 登記手續

旨ヲ記載シ前ノ表示及ヒ其番號ヲ朱抹スルコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テハ乙地ノ登記用紙中甲區事項欄ニ甲地ノ登記用紙ヨリ所有權ニ關スル登記ヲ轉寫シ其登記カ合併シタル部分ノミニ關スル旨、申請書受附ノ年月日及ヒ受附番號ヲ記載シ登記官吏捺印スルコトヲ要ス

甲地ノ登記用紙ニ所有權以外ノ權利ニ關スル登記アルトキハ乙地ノ登記用紙中相當區事項欄ニ其權利ニ關スル登記ヲ轉寫シ合併シタル部分ノミカ甲地ト共ニ其權利ノ目的タル旨、申請書受附ノ年月日及ヒ受附番號ヲ記載シ登記官吏捺印スルコトヲ要ス

第八十二條第二項、第八十三條第二項、第三項及ヒ前條ノ規定ハ第一項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第八十六條 甲地ヲ乙地ニ合併シタル場合ニ於テ合筆ノ登記ヲ爲ストキハ乙地ノ登記用紙中表示欄ニ合併ニ因リテ登記何號ヨリ移シタル旨ヲ記載シ前ノ表示及ヒ其番號ヲ朱抹スルコトヲ要ス

甲地ノ登記用紙中表示欄ニ合併ニ因リテ登記何號ニ移シタル旨ヲ記載シ甲地ノ表示、其番號及ヒ登記番號ヲ朱抹シ其登記用紙ヲ閉鎖スルコトヲ要ス

第八十七條 前條ノ場合ニ於テハ乙地ノ登記用紙中甲區事項欄ニ甲地ノ登記用紙ヨリ所有權ニ關スル登記ヲ移シ其登記カ甲地タリシ部分ノミニ關スル旨、申請書受附ノ年月日及ヒ受附番號ヲ記載シ登記官吏捺印スルコトヲ要ス

甲地ノ登記用紙ニ所有權以外ノ權利ニ關スル登記アルトキハ乙地ノ登記用紙中相當區事項欄ニ其權利ニ關スル登記ヲ移シ甲地タリシ部分ノミカ其權利ノ目的タル旨、申請書受附ノ年月日及ヒ受附番號ヲ記載シ登記官吏捺印スルコトヲ要ス

第八十三條第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第八十八條 土地ノ段別又ハ坪數ノ増減ノ登記ヲ爲ストキハ登記用紙中表示欄ニ増減ノ原因ヲ記載シ前ノ表示及ヒ其番號ヲ朱抹スルコトヲ要ス

第八十九條 地目、字又ハ土地ノ番號ノ變更ノ登記ヲ爲ストキハ前ノ表示及ヒ不動産登記法 登記手續 三百九十五

其番號ヲ朱抹スルコトヲ要ス

第九十條 土地ノ分合、滅失、段別若クハ坪數ノ増減又ハ地目、字若クハ番號ノ變更ノ登記ノ申請書ヲ受附タル時ニ於テ未タ土地臺帳所管廳ヨリ此等ノ事項ニ關スル通知ヲ受ケサルトキ又ハ其申請書ニ記載シタル登記ノ目的カ土地臺帳所管廳ノ通知ト符合セサルトキハ第四十九條ノ規定ヲ準用ス但登記ノ目的カ申請書ニ添附シタル土地臺帳謄本ト符合スルトキハ此限ニ在ラス

第九十一條 建物ノ分合、其番號若クハ構造ノ變更、其滅失、其建坪ノ増減又ハ附屬建物ノ新築アリタルトキハ其建物ノ所有權ノ登記名義人ハ遲滞ナク登記ヲ申請スルコトヲ要ス

建物ノ敷地ノ地目、字若クハ番號又ハ段別若クハ坪數ノ變更アリタルトキ亦同シ

第九十二條 前條ノ規定ニ從ヒテ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ分合シタル建坪、新番號若クハ新構造又ハ滅失、増減若クハ新築シタル建坪並ニ現在

ノ建坪ヲ記載シ又ハ敷地ノ新地目、新字若クハ新番號又ハ増減シタル段別若クハ坪數並ニ現在ノ段別若クハ坪數ヲ記載シ且建物ノ分合、構造ノ變更又ハ建坪ノ増減ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ其圖面ヲ添附スルコトヲ要ス

第九十三條 建物ノ分合、其構造ノ變更、其滅失又ハ其建坪ノ減少ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テ其建物ノ登記用紙ニ所有權以外ノ權利ニ關スル登記アルトキハ第八十一條ノ規定ヲ準用ス

第九十四條 甲建物又ハ其附屬建物ヲ分割又ハ區分シテ之ヲ乙建物ト爲シタル場合ニ於テ其登記ヲ爲ストキハ登記用紙中登記番號欄ニ番號ヲ記載シ表示欄ニ分割又ハ區分ニ因リテ登記何號ヨリ移シタル旨ヲ記載スルコトヲ要ス前項ノ手續ヲ爲シタルトキハ甲建物ノ登記用紙中表示欄ニ殘餘部分ノ表示ヲ爲シ分割又ハ區分ニ因リテ他ノ部分ヲ登記何號ニ移シタル旨ヲ記載シ前ノ表示及ヒ其番號ヲ朱抹スルコトヲ要ス但分割又ハ區分シタル附屬建物ノミニ關スル表示番號アルトキハ其番號ヲモ朱抹スルコトヲ要ス

不動産登記法 登記手續

第九十五條 甲建物又ハ其附屬建物ヲ分割又ハ區分シテ之ヲ乙建物ノ附屬建物ト爲シタル場合ニ於テ其登記ヲ爲ストキハ乙建物ノ登記用紙中表示欄ニ合併ニ因リテ登記何號ヨリ移シタル旨ヲ記載スルコトヲ要ス

前條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第九十六條 第八十三條及ヒ第八十四條ノ規定ハ第九十四條ノ場合ニ之ヲ準用ス但甲建物ノ登記用紙中甲區事項欄ニ分割又ハ區分シタル附屬建物ニ關スル登記原因ノ記載ヲキトキハ第八十三條ニ定メタル手續ヲ爲ス外乙建物ノ登記用紙中甲區事項欄ニ申請人ノ氏名、住所及ヒ分割又ハ區分ニ因リテ其者ノ所有權ノ登記ヲ爲ス旨ヲ記載スルコトヲ要ス

第九十七條 第八十五條第三項乃至第四項ノ規定ハ第九十五條ノ場合ニ之ヲ準用ス但甲建物ノ登記用紙中甲區事項欄ニ分割又ハ區分シタル附屬建物ニ關スル登記原因ノ記載ヲキトキハ第八十五條第三項乃至第四項ニ定メタル手續ヲ爲ス外乙建物ノ登記用紙中甲區事項欄ニ申請人ノ氏名、住所及ヒ合併ニ因リ

テ其者ノ所有權ノ登記ヲ爲ス旨ヲ記載スルコトヲ要ス

第九十八條 甲建物ヲ乙建物又ハ其附屬建物ニ合併シタル場合ニ於テ其登記ヲ爲スニ付テハ第八十六條及ヒ第八十七條ノ規定ヲ準用ス但甲建物ヲ乙建物ノ附屬建物ニ合併シタル場合ニ於テハ乙建物ノ前ノ表示及ヒ其番號ヲ朱抹スルコトヲ要セス

第九十九條 第八十八條ノ規定ハ建物又ハ附屬建物ノ建坪ノ増減ノ登記ニ之ヲ準用ス

附屬建物ノ新築ノ登記ヲ爲ストキハ主タル建物ノ登記用紙中表示欄ニ附屬建物ノ種類、構造及ヒ建坪ヲ記載スルコトヲ要ス

第一百條 第八十九條ノ規定ハ建物ノ番號ノ變更又ハ建物若クハ附屬建物ノ構造ノ變更ノ登記ニ之ヲ準用ス

第八十八條及ヒ第八十九條ノ規定ハ建物ノ敷地ノ地目、字若クハ番號ノ變更又ハ段別若クハ坪數ノ増減ノ登記ニ之ヲ準用ス

不動産登記法 登記手續

第一百一條 不動産ノ滅失ノ登記ヲ爲ストキハ登記用紙中表示欄ニ滅失ノ原因ヲ記載シ不動産ノ表示、表示番號及ヒ登記番號ヲ朱抹シ其登記用紙ヲ閉鎖スルコトヲ要ス

第一百二條 前條ノ場合ニ於テ滅失シタル不動産カ他ノ不動産ト共ニ所有權以外ノ權利ノ目的タリシトキハ他ノ不動産ノ登記用紙中相當區事項欄ニ滅失シタル不動産ノ表示ヲ爲シ滅失ノ原因及ヒ其不動産ノ滅失シタルコトヲ附記シ其不動産ト共ニ所有權以外ノ權利ノ目的タル旨ヲ記載シタル登記中滅失シタル不動産ノ表示ヲ朱抹スルコトヲ要ス
他ノ不動産ノ所在地カ他ノ登記所ノ管轄ニ屬スルトキハ遲滞ナク前項ノ登記ヲ其登記所ニ囑託スルコトヲ要ス
前項ノ囑託ヲ受ケタル登記所ハ遲滞ナク第一項ニ定メタル手續ヲ爲スコトヲ要ス

第一百三條 土地收用ニ因ル所有權移轉ノ登記ハ登記權利者ノミニテ之ヲ申請ス

ルコトヲ得其申請書ニハ收用シタル土地ノ全部又ハ一部カ不用ニ歸シタル場合ニ於テ舊所有者カ買戻權ヲ有スル旨ヲ記載シ補償金ノ受取證又ハ預證ヲ添附スルコトヲ要ス
官廳又ハ公署カ起業者ナルトキハ其官廳又ハ公署ハ遲滞ナク前項ノ登記ヲ登記所ニ囑託スルコトヲ要ス

第一百四條 不動産ヲ華族世襲財産ト爲スコトヲ認可シタルトキハ當該官廳ハ遲滞ナク世襲財産ノ創設ヲ登記ヲ登記所ニ囑託スルコトヲ要ス

第一百五條 未登記ノ土地所有權ノ登記ハ左ニ掲ケタル者ヨリ之ヲ申請スルコトヲ得

- 一 土地臺帳謄本ニ依リ自己又ハ被相續人カ土地臺帳ニ所有者トシテ登録セラレタルコトヲ證スル者
- 二 判決ニ依リ自己ノ所有權ヲ證スル者

第一百六條 未登記ノ建物所有權ノ登記ハ左ニ掲ケタル者ヨリ之ヲ申請スルコト
不動産登記法 登記手續

ヲ得

- 一 建物ノ敷地ノ所有者又ハ地上權者トシテ登記簿ニ登記セラレタル者
- 二 土地臺帳原本ニ依リ自己又ハ被相續人カ土地臺帳ニ敷地ノ所有者トシテ登録セラレタルコトヲ證スル者
- 三 既登記ノ敷地ノ所有者又ハ地上權者ノ證明書ニ依リ自己ノ所有權ヲ證スル者

四 判決其他官廳又ハ公署ノ書面ニ依リ自己ノ所有權ヲ證スル者

第七條 前二條ノ規定ニ從ヒテ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ第五條第何號又ハ前條第何號ニ依リテ登記ヲ申請スル旨ヲ記載シ必要ナル證明書類ヲ添附シ前條ノ規定ニ依ル申請ニ付テハ圖面ヲ添附スルコトヲ要ス但登記原因及ヒ其日附ヲ記載シ又ハ第三十五條第二號乃至第四號ニ掲ケタル書面ヲ添附スルコトヲ要セス

第八條 未登記ノ不動産所有權ノ登記ヲ爲ストキハ登記用紙中登記番號欄ニ

番號ヲ記載スルコトヲ要ス

第九條 第二十八條及ヒ第二十九條ノ規定ハ未登記ノ不動産所有權ノ變更又ハ處分ノ制限ノ登記ニ之ヲ準用ス

第十條 官廳又ハ公署カ未登記ノ不動産所有權ノ登記ヲ登記所ニ囑託スル場合ニ於テハ第五條又ハ第六條ノ規定ニ依リテ證明ヲ爲スコトヲ要セス

第三節 所有權以外ノ權利ニ關スル登記手續

第十一條 地上權ノ設定又ハ移轉ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ地上權設定ノ目的及ヒ範圍ヲ記載シ若シ登記原因ニ存續期間、地代又ハ其支拂時期ノ定アルトキハ之ヲ記載スルコトヲ要ス

第十二條 永小作權ノ設定又ハ移轉ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ小作料ヲ記載シ若シ登記原因ニ存續期間、小作料ノ支拂時期其他永小作人ノ權利若クハ義務ニ關スル特約又ハ民法第二百七十二條但書ノ定アルトキハ之ヲ記載スルコトヲ要ス

不動産登記法 登記手續

第百十三條 地役權ノ設定ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ要役地ノ表示ヲ爲シ地役權設定ノ目的及ヒ範圍ヲ記載シ若シ登記原因ニ民法第二百八十一條第一項但書、第二百八十五條第一項但書又ハ第二百八十六條ノ定アルトキハ之ヲ記載スルコトヲ要ス

第百十四條 地役權ノ設定ノ登記ヲ爲シタルトキハ要役地タル不動産ノ登記用紙申相當區事項欄ニ承役地タル不動産ヲ表示ヲ爲シ其不動産カ地役權ノ目的タル旨、地役權設定ノ目的及ヒ範圍ヲ記載スルコトヲ要ス

要役地カ他ノ登記所ノ管轄ニ屬スルトキハ遲滞ナク其登記所ニ承役地、要役地、地役權設定ノ目的並ニ範圍及ヒ申請書受附ノ年月日ヲ通知スルコトヲ要ス

前項ノ通知ヲ受ケタル登記所ハ遲滞ナク要役地タル不動産ノ登記用紙申相當區事項欄ニ通知ヲ受ケタル事項ヲ記載スルコトヲ要ス

第百十五條 先取特權ノ保存ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ債權額ヲ

記載シ若シ登記原因ニ辨濟期ノ定アルトキハ之ヲ記載スルコトヲ要ス但不動產工事ノ先取特權ノ保存ニ付テハ其工事費用ノ豫算額ヲ記載スルコトヲ要ス

第百十六條 質權ノ設定又ハ轉質ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ債權額ヲ記載シ若シ登記原因ニ存續期間若クハ辨濟期ノ定アルトキ、利息ニ關スル定アルトキ、違約金若クハ賠償額ノ定アルトキ、債權ニ條件ヲ附シタルトキ、民法第三百四十六條但書ノ定アルトキ、第三百五十六條若クハ第三百五十七條ノ規定ニ異ナリタル定アルトキ又ハ第三百七十條但書ノ定アルトキハ之ヲ記載スルコトヲ要ス

第百十七條 抵當權ノ設定ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ債權額ヲ記載シ若シ登記原因ニ辨濟期ノ定アルトキ、利息ニ關スル定アルトキ、其發生期若クハ支拂時期ノ定アルトキ、債權ニ條件ヲ附シタルトキ又ハ民法第三百七十條但書ノ定アルトキハ之ヲ記載スルコトヲ要ス

不動産登記法 登記手續

第二百十八條 先取特權、質權又ハ抵當權ノ保存又ハ設定ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テ其權利ノ目的カ所有權以外ノ權利ナルトキハ申請書ニ其權利ノ表示ヲ爲スコトヲ要ス

第二百十九條 質權又ハ抵當權ノ設定ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テ設定者カ債務者ニ非サルトキハ申請書ニ債務者ノ表示ヲ爲スコトヲ要ス

質權又ハ抵當權ノ移轉ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ質權又ハ抵當權カ債權ト共ニ移轉スルヤ否ヤヲ記載スルコトヲ要ス

第二百二十條 一定ノ金額ヲ目的トセサル債權ノ擔保タル先取特權、質權又ハ抵當權ノ保存又ハ設定ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ其債權ノ價格ヲ記載スルコトヲ要ス

第二百二十一條 官吏又ハ公吏ノ身元保證ヲ目的トスル抵當權ノ設定ノ登記ハ囑託書ニ其官吏又ハ公吏カ差出シタル登記請求書ヲ添附シテ當該官廳又ハ公署ヨリ遲滞ナク之ヲ登記所ニ囑託スルコトヲ要ス

第二百二十二條 數箇ノ不動産ニ關スル權利ヲ目的トスル先取特權、質權又ハ抵當權ノ保存又ハ設定ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ各不動産ニ關スル權利ノ表示ヲ爲スコトヲ要ス

第二百二十三條 債權ノ一部ノ讓渡又ハ代位辨濟ニ因ル先取特權、質權又ハ抵當權ノ移轉ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ讓渡又ハ代位辨濟ノ目的タル債權額ヲ記載スルコトヲ要ス

第二百二十四條 第二百二十三條ノ規定ニ從ヒテ登記ノ申請アリタル場合ニ於テ其一箇ノ不動産ニ關スル權利ニ付キ登記ヲ爲ストキハ其不動産ノ登記用紙中相當區事項欄ニ他ノ不動産ニ關スル權利ノ表示ヲ爲シ其權利カ共ニ擔保ノ目的タル旨ヲ記載スルコトヲ要ス

第二百二十五條 先取特權、質權又ハ抵當權ノ移轉ノ登記ハ附記ニ依リテ之ヲ爲ス

第二百二十六條 數箇ノ不動産ニ關スル權利カ先取特權、質權又ハ抵當權ノ目的
不動産登記法 登記手續 四百七

於此場合ニ於テ其一箇ノ不動産ニ關スル權利ヲ目的トスル先取特權、質權又ハ抵當權ノ變更又ハ消滅ノ登記ヲ爲シタルトキハ他ノ不動産ノ登記用紙中相當區事項欄ニ其權利ノ表示ヲ爲シ且其權利ノ變更又ハ消滅シタル旨ヲ附記シ
第二百二十四條ノ規定ニ從ヒテ爲シタル登記中變更又ハ消滅ニ係ル事項ヲ抹スルコトヲ要ス其一箇ノ不動産ニ關スル權利ノ表示ニ付キ變更ノ登記ヲ爲シタルトキ亦同シ

第二百十四條第二項及ヒ第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス
第二百十七條 質借權ノ設定又ハ質借物ノ轉貸ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ借賃ヲ記載シ若シ登記原因ニ存續期間若クハ借賃ノ支拂時期ノ定アルトキ又ハ質借權ノ移轉若クハ質借物ノ轉貸ヲ許シタルトキハ之ヲ記載シ質借賃ヲ爲ス者ハ處分ノ能力若クハ權限ヲ有セサル者ナルトキハ其旨ヲ記載スルコトヲ要ス
質借權ノ移轉又ハ質借物ノ轉貸ヲ許シタル旨ヲ登記スル場合ニ於テ質借

權ノ移轉又ハ質借物ノ轉貸ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ質借人ノ承諾書ヲ添附スルコトヲ要ス

第二百二十八條 未登記ノ不動産ノ所有權以外ノ權利ニ關スル登記ハ之ヲ命スル裁判ニ依リテ自己ノ權利ヲ證スル者ヨリ之ヲ申請スルコトヲ得

第二百二十九條 前條ノ申請アリタル場合ニ於テ登記ヲ爲ストキハ登記用紙中登記番號欄ニ番號ヲ記載シ表示欄ニ不動産ノ表示ヲ爲シ且甲區事項欄ニ所有者ノ氏名、住所及ヒ何權利ノ登記ヲ命スル裁判ニ因リテ所有權ノ登記ヲ爲ス旨ヲ記載スルコトヲ要ス

第二百三十條 未登記ノ不動産ノ所有權以外ノ權利ヲ目的トスル權利ニ關スル登記ハ之ヲ命スル裁判ニ依リテ自己ノ權利ヲ證スル者ヨリ之ヲ申請スルコトヲ得

第二百三十一條 前條ノ申請アリタル場合ニ於テ登記ヲ爲ストキハ登記用紙中登記番號欄ニ番號ヲ記載シ表示欄ニ不動産ノ表示ヲ爲シ甲區事項欄ニ何權利ヲ

不動産登記法 登記手續

目的トスル何權利ノ登記ヲ命スル裁判ニ因リテ所有權ノ登記ヲ爲ス旨ヲ記載シ且所有權以外ノ權利ヲ登記スヘキ相當區事項欄ニ權利者ノ氏名、住所及ヒ何權利ノ登記ヲ命スル裁判ニ因リテ何權利ノ登記ヲ爲ス旨ヲ記載スルコトヲ要ス

第三百三十二條 既登記ノ不動産ニ付キ未登記ノ所有權以外ノ權利ヲ目的トスル權利ニ關スル登記ハ之ヲ命スル裁判ニ依リテ自己ノ權利ヲ證スル者ヨリ之ヲ申請スルコトヲ得

第三百三十三條 前條ノ申請アリタル場合ニ於テ登記ヲ爲ストキハ登記用紙中所有權以外ノ權利ヲ登記スヘキ相當區事項欄ニ權利者ノ氏名、住所及ヒ何權利ノ登記ヲ命スル裁判ニ因リテ何權利ノ登記ヲ爲ス旨ヲ記載スルコトヲ要ス

第三百三十四條 前四條ノ規定ハ所有權以外ノ權利又ハ其權利ヲ目的トスル權利ノ變更又ハ處分ノ制限ノ登記ニ之ヲ準用ス

第三百三十五條 官廳又ハ公署カ未登記ノ不動産ニ付キ所有權以外ノ權利若クハ

其權利ヲ目的トスル權利ニ關スル登記又ハ既登記ノ不動産ニ付キ未登記ノ所有權以外ノ權利ヲ目的トスル權利ニ關スル登記ヲ登記所ニ囑託スル場合ニ於テハ裁判ニ依リテ其權利ヲ證スルコトヲ要セス

第三百三十六條 建物ヲ新築スル場合ニ於テ不動産工事ノ先取特權ノ保存ノ登記ヲ申請スルトキハ申請書ニ設計書ニ定メタル其建物ノ種類、構造、建坪、建物ヲ新築スヘキ郡、市、區、町村、字、土地ノ番號及ヒ工事費用ノ豫算額ヲ記載シ若シ登記原因ニ辨濟期ノ定アルトキハ之ヲ記載シ設計書及ヒ圖面ヲ添附スルコトヲ要ス

第三百三十七條 前條ノ申請アリタル場合ニ於テ登記ヲ爲ストキハ登記用紙中登記番號欄ニ番號ヲ記載シ表示欄ニ新築スヘキ建物ノ表示ヲ爲シ且其建物ノ種類、構造及ヒ建坪ハ設計書ニ依ル旨ヲ記載シ甲區事項欄ニ登記義務者ノ氏名、住所及ヒ不動産工事ノ先取特權ノ保存ノ登記ヲ爲スニ因リテ登記ヲ爲ス旨ヲ記載スルコトヲ要ス

不動産登記法 登記手續

第三百二十八條 既登記ノ主タル建物ノ附屬建物ヲ新築スル場合ニ於テ不動産工
事ノ先取特權ノ保存ノ登記ヲ爲ストキハ主タル建物ノ登記用紙中表示欄ニ新
築スヘキ附屬建物ノ表示ヲ爲シ且其建物ノ種類、構造及ヒ建坪ハ設計書ニ依
ル旨ヲ記載スルコトヲ要ス

第三百二十九條 建物ヲ新築スルニ付キ不動産工事ノ先取特權ノ保存ノ登記ヲ爲
シタル場合ニ於テ其建物ノ建築力終ハリタルトキハ其建物ノ所有者ハ遲滯ナ
ク所有權ノ登記ヲ申請スルコトヲ要ス但第三百六條及ヒ第三百七條ノ適用ヲ妨ゲ
ス

附屬建物ヲ新築スルニ付キ不動産工事ノ先取特權ノ保存ノ登記ヲ爲シタル場
合ニ於テ其建物ノ建築力終ハリタルトキハ其建物ノ所有者ハ遲滯ナク新築ノ
登記ヲ申請スルコトヲ要ス

第四百十條 前條ノ申請アリタル場合ニ於テ登記ヲ爲ストキハ登記用紙中表示
欄ニ更ニ建物ノ表示ヲ爲シ前ノ表示及ヒ其番號ヲ朱抹スルコトヲ要ス但前條

第一項ノ申請ニ因リテ登記ヲ爲ス場合ニ於テハ不動産工事ノ先取特權ノ保存
ニ關シテ甲區事項欄ニ爲シタル登記ヲモ朱抹スルコトヲ要ス

第四節 抹消ニ關スル登記手續

第四百十一條 登記シタル權利カ或人ノ死亡ニ因リテ消滅シタル場合ニ於テ申
請書ニ其死亡ヲ證スル戶籍吏ノ書面其他ノ公正證書ヲ添附スルトキハ登記權
利者ノミニテ登記ノ抹消ヲ申請スルコトヲ得

第四百十二條 登記權利者カ登記義務者ノ行方ノ知レサルニ因リ之ト共ニ登記
ノ抹消ヲ申請スルコト能ハサルトキハ民事訴訟法ノ規定ニ從ヒテ公示催告ノ
申立ヲ爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ除權判決アリタルトキハ申請書ニ其謄本ヲ添附シ登記權利
者ノミニテ登記ノ抹消ヲ申請スルコトヲ得

第一項ノ場合ニ於テ申請書ニ債權證書及ヒ債權並ニ最後ノ二年分ノ定期金ノ
受取證書ヲ添附シタルトキハ登記權利者ノミニテ先取特權、質權又ハ抵當權

不動産登記法 登記手續

ニ關スル登記ノ抹消ヲ申請スルコトヲ得

第四百十三條 華族世襲財産ノ解除ヲ認可シタルトキハ當該官廳ハ遲滯ナク華族世襲財産ノ創設ノ登記ノ抹消ヲ登記所ニ囑託スルコトヲ要ス

第四百十四條 假登記ノ抹消ハ假登記名義人ヨリ之ヲ申請スルコトヲ得
申請書ニ假登記名義人ノ承諾書又ハ之ニ對抗スルコトヲ得ヘキ裁判ノ謄本ヲ添附シタルトキハ登記上ノ利害關係人ヨリ假登記ノ抹消ヲ申請スルコトヲ得

第四百十五條 第三條ニ掲ケタル訴ヲ却下シタル裁判若クハ之ヲ提起シタル者ニ對シテ敗訴ヲ言渡シタル裁判ヲ確定シタルトキ、訴ノ取下アリタルトキ、請求ノ拋棄アリタルトキ又ハ請求ノ目的ニ付キ和解アリタルトキハ第一審裁判所ハ遲滯ナク囑託書ニ裁判ノ謄本若クハ抄本又ハ訴ノ取下、請求ノ拋棄若クハ和解ヲ證スル裁判所書記ノ書面ヲ添附シテ豫告登記ノ抹消ヲ登記所ニ囑託スルコトヲ要ス

第四百十六條 登記ノ抹消ヲ申請スル場合ニ於テ其抹消ニ付キ登記上利害ノ關係ヲ有スル第三者アルトキハ申請書ニ其承諾書又ハ之ニ對抗スルコトヲ得ヘキ裁判ノ謄本ヲ添附スルコトヲ要ス

第四百十七條 登記ヲ抹消スルニハ抹消ノ登記ヲ爲シタル後抹消スルキ登記ヲ抹消スルコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テ抹消ニ係ル權利ヲ目的トスル第三者ノ權利ニ關スル登記アルトキハ登記用紙中相當區事項欄ニ其第三者ノ權利ノ表示ヲ爲シ何權利ノ登記ヲ抹消シタルニ因リテ抹消ヲ爲ス旨ヲ記載スルコトヲ要ス

第四百十八條 第二十九條ノ規定ニ從ヒ官廳又ハ公署ヨリ公賣處分ニ因ル權利移轉ノ登記ノ囑託アリタル場合ニ於テハ滯納處分ニ關スル差押ノ登記ヲ抹消シ若シ其權利ヲ目的トセル先取特權、質權又ハ抵當權ノ登記アルトキハ其登記ヲ抹消スルコトヲ要ス

第四百十九條 第二百三條ノ規定ニ從ヒ土地收用ニ因ル所有權移轉ノ登記ノ申請
不動産登記法 登記手續 四百十五

又ハ囑託アリタル場合ニ於テ其不動産ノ登記用紙中所有權又ハ所有權以外ノ權利ニ關スル登記アルトキハ其登記ヲ抹消スルコトヲ要ス但其不動産ノ爲メニ存スル地役權ノ登記ハ此限ニ在ラズ

第五章 抗告

第二百五十條 登記官吏ノ決定又ハ處分ヲ不當トスル者ハ管轄地方裁判所ニ抗告ヲ爲スコトヲ得

第二百五十一條 抗告ハ登記所ニ抗告狀ヲ差出シテ之ヲ爲スル者ハ管轄地方裁判所ニ抗告スルコトヲ得
第二百五十二條 抗告ハ新ナル事實及ヒ證據方法ヲ以テ其證據ト爲スコトヲ得

第二百五十三條 登記官吏カ抗告ヲ理由ナシトスルトキハ三日内ニ意見ヲ附シテ事件ヲ抗告裁判所ニ送付スルコトヲ要ス

登記官吏カ抗告ヲ理由アリトスルトキハ相當ノ處分ヲ爲スコトヲ要ス若シ登記完了ノ後ナルトキハ其登記ニ付キ異議アル旨ノ附記ヲ爲シ之ヲ登記上ノ利

害關係人ニ通知シ且前項ノ手續ヲ爲スコトヲ要ス

第二百五十四條 抗告ハ執行ヲ停止スル效力ヲ有セス

抗告裁判所ハ抗告ニ付キ決定ヲ爲ス前登記官吏ニ假登記ヲ命スルコトヲ得

第二百五十五條 抗告裁判所カ抗告ヲ理由アリトスルトキハ決定ヲ以テ登記官吏

ニ相當ノ處分ヲ命スルコトヲ要ス

抗告裁判所ハ登記上ノ利害關係人ニ決定ヲ贈本ヲ送達スルコトヲ要ス

第二百五十六條 抗告裁判所ノ決定ニハ理由ヲ附スルコトヲ要ス

第二百五十七條 登記官吏カ抗告裁判所ノ命令ニ依リテ登記ヲ爲ストキハ命令ヲ

爲シタル裁判所、命令ノ年月日、命令ニ依リテ登記ヲ爲ス旨及ヒ登記ノ年月

日ヲ記載シ登記官吏捺印スルコトヲ要ス

第二百五十八條 抗告裁判所ノ決定ニ對シテハ法律ニ違背シタル決定ナルコトヲ

理由トスルトキニ限り抗告ヲ爲スコトヲ得

第二百五十四條乃至第二百五十七條ノ規定ハ前項ノ抗告ニ之ヲ準用ス

不動産登記法 抗告 附則

第五百五十九條 送達ニ付テハ民事訴訟法ノ規定ヲ準用シ抗告ノ費用ニ付テハ非訟事件手續法ノ規定ヲ準用ス

第六十條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（此期日ハ三十二年勅令第三百二十四號ヲ以テ同年六月十六日ト定メラル）

第六十一條 明治十九年法律第一號登記法中地所及ヒ建物ノ登記ニ關スル規定ハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

第六十二條 明治六年第十八號布告地所質入書入規則又ハ同八年第四百八十八號布告建物書入質規則ニ從ヒテ公證ヲ經タル證書面ノ權利ニ付テハ本法施行ノ日ヨリ一年內ニ債權者ヨリ其登記ヲ申請セサルトキハ其權利ハ公證ノ效力ヲ失フ

前項ノ規定ニ從ヒテ登記シタル權利ノ順位ハ公證ノ順位ニ依ル

第一項ニ定メタル登記ニ關スル手續ハ司法大臣之ヲ定ム

第六十三條 本法施行前ニ登記シタル不動産ニ付キ本法施行ノ後登記ノ申請

アル場合ニ於テ登記ヲ爲ストキハ登記用紙中登記番號欄ニ其登記簿ニ於

ケル登記ノ順序ヲ追ヒテ新ナル番號ヲ記載シ其左側ニ前登記番號ヲ記載シ表

示欄ニ不動産ノ表示ヲ移シ相當區順位番號欄及ヒ事項欄ニ舊登記簿ノ用紙中

抹消ニ係ラザル番號及ヒ事項ヲ移シ舊登記簿ノ用紙中新登記簿ノ用紙ニ移シ

該ル番號及ヒ事項ヲ抹スルコトヲ要ス

第六十四條 本法ノ施行ニ關スル細則ハ司法大臣之ヲ定ム

● 不動産登記法施行細則

（明治三十二年五月十二日 司法省令第十一號）

不動産登記法施行細則左ノ通相定ム

不動産登記法施行細則

第一章 登記ニ關スル帳簿

第一條 土地登記簿ハ附錄第一號雜形ニ依リ建物登記簿ハ附錄第二號雜形ニ依

不動産登記法施行細則 登記ニ關スル帳簿

依り地方裁判所ニ於テ之ヲ調製スヘシ

第二條 共同人名簿ハ土地共同人名簿及ヒ建物共同人名簿ノ二種トス

共同人名簿ハ登記簿ヲ分設シタル區畫ニ從ヒ別冊ト爲ス但便宜ニ依リ之ヲ合

綴スルコトヲ得

共同人名簿ヲ合綴シタル場合ニ於テハ登記簿ヲ分設シタル區畫毎ニ見出ヲ附
スヘシ

第三條 土地共同人名簿ハ附録第三號雛形ニ依リ建物共同人名簿ハ附録第四號

雛形ニ依リ地方裁判所ニ於テ之ヲ調製スヘシ

第四條 登記簿及ヒ共同人名簿ハ登記所ノ請求ニ因リ地方裁判所長之ヲ交付ス

不シ

登記所察翌年中ニ必要ナル帳簿ノ冊數及ヒ各冊ノ枚數ヲ見積リ毎年十一月

ニ請求ヲ爲スヘシ但區裁判所出張所ノ帳簿ハ管轄區裁判所ヨリ之ヲ請求スヘ

シ

豫定外ニ帳簿ノ必要ヲ生シタルトキハ臨時其請求ヲ爲スコトヲ得

第五條 登記簿及ヒ共同人名簿ノ用紙ニハ豫メ丁數ヲ記入スヘシ

第六條 土地登記見出帳ハ附録第五號雛形ニ依リ土地分合登記見出帳ハ附録第

六號雛形ニ依リ建物登記見出帳ハ附録第七號雛形ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第七條 土地登記見出帳ニハ土地ノ番號ヲ逐ヒ豫メ各筆ノ見出欄ヲ設ケ置キ登

記用紙ニ登記番號ヲ記載スル毎ニ其登記用紙ヲ編綴セル登記簿ノ冊數、丁數

及ヒ登記番號ヲ記入スヘシ

第八條 土地分合登記見出帳ニハ豫メ一ノ部ヨリ九ノ部マテヲ設ケ置キ土地ノ

分合ニ關スル登記ヲ爲ス毎ニ其土地ノ番號ノ頭字ニ依リ相當ノ部（十百千ノ

數ヲ冠スルモノハ一ノ部ニ記入スルノ類）ニ土地ノ番號、登記用紙ヲ編綴セ

ル登記簿ノ冊數、丁數及ヒ登記番號ヲ記入スヘシ但土地カ合併ニ因リ三箇以

上ノ番號ヲ有スルトキハ其少キ番號ノ部ニノミ記入スヘシ

前項ノ記入ヲ爲シタルトキハ土地登記見出帳ノ備考欄ニ事由ヲ記入シ其見出

不動産登記法施行細則 登記ニ關スル帳簿

第九條 建物登記見出帳ニハ豫メ一ノ部ヨリ九ノ部マテテ設ケ置キ登記用紙ニ
 登記番號ヲ記載スル毎ニ敷地ノ番號ノ頭字ニ依リ相當ノ部ニ敷地ノ番號ヲ登
 記用紙ヲ編綴セル登記簿ノ冊數、丁數及ヒ登記番號ヲ記入シ若シ建物ノ番號
 アルトキハ其番號ヲモ記入スヘシ但敷地カ二箇以上ノ番號ヲ有スルトキハ其
 最少番號ノ部ニシテ記入スヘシ

第十條 登記用紙ヲ閉鎖シタルトキハ見出帳ノ備考欄ニ事由ヲ記入シ其見出テ
 朱抹スヘシ

第十一條 受附帳ハ附録第八號雛形ニ依リ毎年之ヲ調製スベシ

第十二條 受附番號ハ一ノ年毎ニ更新スヘシ

第十三條 受附帳ニ申請人ノ氏名ヲ記載スル場合ニ於テ登記權利者又ハ登記義
 務者カ多數ナルトキハ申請書ニ掲ケタル筆頭ノ者ノミハ氏名及ヒ他ノ人員ヲ
 記載スルヲ以テ足ル

第十四條 登記所ニハ登記簿、共同人名簿、見出張及ヒ受附帳ノ外左ノ帳簿ヲ

備ス

- 一 謄本抄本交付帳
- 二 申請書囑託書通知書附屬書類綴込帳（三十五年司法省令第十三號ヲ以テ改正）
- 三 圖面綴込帳
- 四 受領證原符元帳
- 五 各種通知簿
- 六 登記立會調書綴込帳
- 七 決定原本綴込帳
- 八 登記簿謄本綴込帳
- 九 土地臺帳謄本
- 十 土地異動通知書綴込帳
- 十一 不動産登記法施行細則 登記ニ關スル帳簿

十一 土地登記簿通知簿

十二 抗告書類送達帳

十三 本登記簿送達帳

十四 印鑑簿

十五 印鑑證明書送達帳 (同上省令ヲ以テ追加)

十六 還納受領證送達帳 (同上)

第十四條ノ三 前條第一號、第二號、第四號乃至第八號、第十號乃至第十三號、

第十五號及ヒ第十六號ノ帳簿ハ、一年毎ニ別冊ト爲スヘシ (同上)

第十五條 申請書、囑託書並ニ附屬書類ハ、受附番號ノ順序ニ依リテ之ヲ編綴ス

ヘシ

第十六條 圖面ニハ、申請書受附ノ年月日、受附番號及ヒ登記番號ヲ記載シ受附

番號ノ順序ニ依リテ之ヲ編綴シ丁數ヲ附スヘシ

第十七條 不動産登記法第四十四條ノ規定ニ依リ申請書ニ添附シタル書面ニ通

ノ内一通ハ登記所ニ之ヲ保存スヘシ

第十八條 第十四條第五號ノ通知簿ニハ、不動産登記法第六十二條、第六十三條、

第七十五條第一項、第一百十四條第二項、第一百二十六條第二項、第一百五十三條

第二項及ヒ本令第六十二條第一項、第六十三條第一項、第六十九條ノ通知事

項ノ通知ヲ受クル者及ヒ通知ヲ發スル年月日ヲ記入シ通知書ト契印スヘシ

(二十五年司法省令第十三號ヲ以テ改正)

第十九條 不動産登記法第十一條第二項ノ規定ニ依リ土地臺帳所管廳ヨリ受ケ

タル通知書ハ登記簿ヲ分設シタル區畫ニ從ヒ之ヲ編綴シ丁數ヲ附スヘシ但便

宜ニ依リ之ヲ合綴スルコトヲ得

第二十條 事變ヲ避ケル爲メ登記簿又ハ其附屬書類ヲ登記所外ニ持出シタルト

キハ登記官吏ハ速ニ其旨ヲ司法大臣ニ具申スヘシ

第二十一條 裁判所又ハ豫審判事ヨリ申請書其他ノ附屬書類ヲ送付スヘキ命令

又ハ囑託アリタルトキハ登記官吏ハ其關係アル部分ニ限リ之ヲ送付スヘシ其

不動産登記法施行細則 登記ニ關スル帳簿 四百二十五

第三十二條 登記簿ノ全部又ハ一部ヲ滅失シタルトキハ登記官吏ハ遲滯ナク其事由、年月日、滅失セシ登記簿ノ冊數其他不動産登記法第二十三條ノ告示ヲ爲スニ必要ナル事項ヲ詳細ニ記載シ且回復登記期間ヲ豫定シ地方裁判所長ニ申報スヘシ但區裁判所出張所ノ申報ハ管轄區裁判所ヲ經由スヘシ出...

第二十三條 登記簿及ヒ其附屬書類ノ滅失スル虞アルトキハ詳細其狀況ヲ取調ヘ且處分方法ヲ具シ前條ノ例ニ準シ申報又ハ具申ヲ爲スヘシ

第二十四條 登記所ニ於テ登記ニ關スル帳簿又ハ書類ヲ廢毀セシトスルトキハ目錄ヲ作り地方裁判所長ノ認可ヲ受ケヘシ但區裁判所出張所方認可ヲ請フトキハ管轄區裁判所ヲ經由スヘシ

第二十五條 不動産ノ所有者ハ其本籍地又ハ所在地ニシテ市、區、町村長(市、區、町村長ナキ地ニ於テハ其職務ヲ行フ吏員)ノ證明ヲ得タル印鑑ヲ不動産所在地

ヲ管轄スル登記所ニ提出スヘシ改印ヲ爲シタルトキ亦同シ
不動産ヲ所有スル法人又ハ外國會社ノ代表者ハ法人又ハ外國會社ノ登記ニ關シ印鑑ヲ提出シタル登記所ノ證明ヲ得タル印鑑ヲ不動産所在地ヲ管轄スル登記所ニ提出スヘシ但法人又ハ外國會社ノ登記ニ關シ印鑑ヲ提出シタル登記所

ノ不動産所在地ヲ管轄スル登記所ト同一ナルトキハ此限ニ在ラス

第二十六條 印鑑ハ附錄第九號雜形ニ依リ之ヲ調製スベシ

第二十七條 印鑑簿調製ノ様式及ヒ貼附ノ方法等ハ地方裁判所長之ヲ定ムヘシ

第二十八條 第二十五條ノ規定ハ官廳及ヒ公署ニハ之ヲ適用セス

第二十九條 登記簿ノ謄本若クハ抄本ノ交付又ハ登記簿若クハ附屬書類ノ閱覽ヲ請求スル者ハ申請書ヲ提出スヘシ

代理人方前項ノ請求ヲ爲ストキハ申請書ニ其權限ヲ證スル書面ヲ添附スヘシ

第三十條 土地登記簿謄本ノ交付又ハ土地登記簿若クハ附屬書類ノ閱覽ヲ請求スル者ハ申請書ニ其權限ヲ證スル書面ヲ添附スヘシ

第三十條 土地登記簿謄本ノ交付又ハ土地登記簿若クハ附屬書類ノ閱覽ヲ請求スル者ハ申請書ニ其權限ヲ證スル書面ヲ添附スヘシ

第三十條 土地登記簿謄本ノ交付又ハ土地登記簿若クハ附屬書類ノ閱覽ヲ請求スル者ハ申請書ニ其權限ヲ證スル書面ヲ添附スヘシ

第三十條 土地登記簿謄本ノ交付又ハ土地登記簿若クハ附屬書類ノ閱覽ヲ請求スル者ハ申請書ニ其權限ヲ證スル書面ヲ添附スヘシ

在スル場合ニ於テハ其申請書ニ左ノ事項ヲ記載シ申請人署名捺印スヘシ但閱覽ヲ請求スル申請書ニハ利害ノ關係アル事由ヲ記載シ又ハ其事由ヲ記載シタル書面ヲ添附スヘシ

一 土地所在ノ郡、市、區、町村、字及ヒ土地ノ番號

二 手数料ノ金額

三 登記所ノ表示

四 年月日

第三十一條 土地登記簿抄本ノ交付ヲ請求スル場合ニ於テハ其申請書ニ前條ニ掲ケタル事項ノ外抄本ノ交付ヲ請求スル部分ヲ記載シ申請人署名捺印スヘシ

第三十二條 前二條ノ規定ハ建物登記簿ノ謄本若クハ抄本ノ交付又ハ建物登記簿若クハ附屬書類ノ閱覽ノ請求ニ之ヲ準用ス但建物ノ番號アルトキハ申請書ニ其番號ヲ記載スヘシ

第三十三條 不動産登記法第二十一條第二項ノ郵送料ハ郵便切手ヲ以テ之ヲ納付スヘシ

第三十四條 登記官吏カ第二十九條ノ申請書ヲ受取リタルトキハ受附帳ニ請求ノ目的、申請人ノ氏名、受附ノ年月日及ヒ受附番號ヲ記載シタル上受附番號ノ順序ニ從ヒテ相當ノ處分ヲ爲スヘシ

第三十五條 登記簿ノ謄本ハ登記簿ト同一様式ノ用紙ヲ以テ之ヲ作り其末尾ニ左ノ認證文ヲ記載シタルモノヲ添附シテ契印ヲ爲シ登記官吏之ニ年月日ヲ記載シテ署名捺印シ且登記所ノ印ヲ押捺スヘシ

此謄本ハ登記簿ニ依リ之ヲ作り茲ニ登記簿ト相違ナキコトヲ認證ス

前項ノ規定ハ登記簿ノ抄本ニ之ヲ準用ス但抄本用紙ハ美濃紙ヲ用ユヘシ

第三十六條 登記簿ノ謄本又ハ抄本ヲ交付スルトキハ謄本抄本交付帳ニ謄本又ハ抄本ノ區別、交付ノ年月日及ヒ申請人ノ氏名ヲ記載シ謄本又ハ抄本ト契印スヘシ

前項ノ規定ハ登記簿ノ謄本ヲ他ノ登記所ニ移送スル場合ニ之ヲ準用ス

第三十七條 登記簿又ハ附屬書類ノ閲覧ハ登記官吏ノ面前ニ於テ之ヲ爲サシムヘシ

第三十七條ノ二 土地臺帳謄本及ヒ印鑑簿ハ永久ニ之ヲ保存スヘシ
受附帳、登記立會調書綴込帳、登記簿謄本綴込帳及ヒ土地異動通知書綴込帳ハ十年間之ヲ保存スヘシ

決定原本綴込帳、抗告書類綴込帳及ヒ印鑑證明書綴込帳ハ五年間之ヲ保存スヘシ
謄本抄本交付帳、受領證原符元帳、各種通知簿、土地登記濟通知簿、本登記濟證交付帳及ヒ還納受領證綴込帳ハ三年間之ヲ保存スヘシ
前三項ノ帳簿ノ保存期間ハ當該年度ノ翌年ヨリ之ヲ起算ス（三十五年司法省令第十三號ヲ以テ本條追加）

第二章 登記申請ノ手續

第三十八條 登記ヲ申請スルニハ申請書ニ其登記ヲ申請スルニ必要ナル事項ノ

外登録税額ヲ記載スヘシ但登録税法第二條第一項第一號乃至第十七號ノ登記

ニ付テハ課税標準ノ價格ヲモ記載スヘシ

第三十九條 申請書カ數葉ニ涉ルトキハ申請人ハ每葉ノ綴目ニ契印スヘシ但登

記權利者又ハ登記義務者カ多數ナルトキハ其一人ノ契印ヲ以テ足ル

第四十條 登記原因ヲ證スル書面カ初ヨリ存在セス又ハ之ヲ提出スルコト能ハ

サルトキハ申請書ニ其旨ヲ記載スヘシ

第四十一條 不動産カ數箇ノ登記所ノ管轄地ニ跨カル場合ニ於テ裁判所ノ指定

シタル管轄登記所ニ登記ヲ申請スルトキハ申請書ニ裁判ノ謄本ヲ添附スヘ

第四十二條 不動産登記法第二百二十八條又ハ第三百三十條ノ規定ニ依リテ登記ノ

申請ヲ爲ス場合ニ於テ登記スヘキ權利ノ目的タル不動産カ建物ナルトキハ申

請書ニ圖面ヲ添附スヘシ

不動産登記法施行細則 登記申請ノ手續

第四十三條 建物ノ圖面ニハ不動産登記法第三十六條第一號、第二號並ニ第三十七條ニ掲ケタル事項及ヒ敷地ノ方位並ニ建物ノ形狀、間尺、位置ヲ記載シ
 圖面ハ總テ墨引、墨字ト爲シ若シ登記ノ目的外ナル建物アルトキハ其圖ハ朱引、朱字ト爲スルシ
 圖面ハ美濃紙ヲ以テ之ヲ調製スヘシ
 第四十四條 登記原因及ヒ登記ノ目的カ同一ニシテ且登錄稅法第二條第一項第
 一號及ヒ第十三號乃至第十六號ノ規定ニ依リ登錄稅ヲ納付スルキ場合ニ於テ
 敷地外登記所ノ管轄内ニ在ル敷地ノ不動産ニ關スル權利ノ登記ヲ申請スルト
 キハ最初ニ登記ヲ申請スル登記所ニ登錄稅ノ全額ヲ納付スヘシ
 前項ノ規定ニ從ヒ登錄稅ヲ納付シタルトキハ登記官吏ハ登記ヲ申請スヘキ登
 記所ノ數ニ應ジ登錄稅ノ受領證ヲ申請人ニ交付スヘシ但シ通以上ノ受領證ヲ
 交付スルトキハ各通ニ番號ヲ附スヘシ

申請人カ他ノ登記所ニ登記ヲ申請スルニハ申請書ニ受領證ヲ添付スヘシ
 第四十五條 不動産登記法第四十四條ノ場合ニ於テハ申請書ニ登記濟證カ滅失
 シタル旨ヲ記載スヘシ
 第四十六條 不動産登記法第四十四條ニ掲ケタル書面ニハ左ノ諸件ヲ記載シ保
 證人署名捺印スヘシ
 一 登記ヲ受クヘキ不動産ノ表示及ヒ登記ノ目的
 二 登記義務者ノ人違ナキコト
 三 保證人カ其登記所ニ於テ登記ヲ受ケタル不動産ノ表示及ヒ年月日又ハ
 登記番號
 四 保證人ノ住所、年齢
 五 年月日
 第四十六條ノ二 帝國ノ臣民又ハ法人カ明治三十四年勅令第七十九號第一條
 第三項ニ依リ所有權ヲ取得シタル場合ニ於テ所有權保存ノ登記ヲ申請スルニ
 不動産登記法施行細則 登記申請ノ手續 四百三十三

ハ申請書ニ永代借地券ヲ抹消ニ因リ所有權ヲ取得シタルモノナル旨ヲ記載ス
ヘシ(二十四年司法省令第十七號ヲ以テ追加)

第三章 登記手續

第四十七條 登記官吏カ申請書ヲ受取リタルトキハ遲滯ナク申請ニ關スル總テ
ノ事項ヲ調査スヘシ

第四十八條 登記番號ハ不動産登記法施行ノ日ヨリ更ニ新ナル番號ヲ附スヘ
シ

第四十九條 表示欄ニ登記ヲ爲シタルトキハ表示番號欄及ヒ表示欄ニ縦線ヲ劃
シ事項欄ニ登記ヲ爲シタルトキハ順位番號欄及ヒ事項欄ニ縦線ヲ劃シテ餘白
ノ分界スヘシ

假登記ヲ爲シタルトキハ事項欄ノミニ縦線ヲ劃シ其左側ニ本登記ヲ爲シ得ヘ
キ相當ノ餘白ヲ存シタル上順位番號欄及ヒ事項欄ニ縦線ヲ劃スヘシ
第五十條 登記ノ申請書ニ圖面ヲ添附シタル場合ニ於テハ登記用紙中表示欄ニ

爲シタル登記ノ末尾ニ圖面綴込帳ノ冊數及ヒ丁數ヲ記載スヘシ

第五十一條 申請書ニ記載シタル代理人ノ氏名、住所ハ登記簿ニ之ヲ記載スル
コトヲ要セス

第五十二條 不動産登記法第七十六條第一項ノ場合ニ於テハ新用紙中登記番號
ノ左側ニ其番號ノ第二ナルコトヲ附記シ前用紙中登記番號ノ左側ニ第一ノ文
字ヲ追記スヘシ

前項ノ規定ハ第三以下ノ繼續用紙ヲ設クル場合ニ之ヲ準用ス
第五十三條 不動産登記法第五十一條ノ規定ニ依リ共同人名簿ニ記載ヲ爲スニ

ハ番號欄ニ番號ヲ記載シ氏名、住所欄ニ登記權利者又ハ登記義務者ノ全員ノ
氏名、住所ヲ記載シ豫備欄ニ登記番號、申請書受附ノ年月日、受附番號及ヒ
順位番號ヲ記載シテ登記官吏捺印スヘシ

第五十四條 共同人名簿ニ登記權利者又ハ登記義務者ノ氏名、住所等ヲ記載シ
タルトキハ氏名、住所欄及ヒ持分欄ニ於ケル縦線ヲ番號欄及ヒ豫備欄ニ延長
不動産登記法施行細則 登記手續
四百三十五

シテ餘白ト分界スヘシ

四百三十六

登記原因ニ持分ノ定ナキトキハ持分欄ニハ朱線ヲ交叉スヘシ

第五十五條 共同人名簿ニ記載シタル登記權利者又ハ登記義務者ノ氏名、住所ノ變更又ハ持分ノ移轉若クハ變更ニ付キ登記簿ニ登記ヲ爲シタルトキハ人名簿中豫備欄ニ登記ノ目的タル新ナル事項、申請書受附ノ年月日、受附番號及ヒ順位番號ヲ記載シ登記官吏捺印シ前ニ記載シタル事項ヲ朱抹スヘシ

第五十六條 前條ノ場合ニ於テ豫備欄ニ餘白ナキトハ新ニ番號欄ニ前番號ヲ轉寫シ其左側ニ第二ノ文字、前番號ノ用紙ヲ編綴セル共同人名簿ノ冊數、丁數及ヒ其繼續用紙ナルコトヲ記載シ氏名、住所欄ニ登記權利者又ハ登記義務者ノ氏名ノミヲ記載シ持分欄ニハ朱線ヲ交叉シ豫備欄ニ登記ノ目的タル新ナル事項、申請書受附ノ年月日、受附番號及ヒ順位番號ヲ記載シ登記官吏捺印スヘシ

前項ノ手續ヲ爲シタルトキハ前用紙ノ番號ノ左側ニ第一ノ文字、繼續用紙ヲ

編綴セル共同人名簿ノ冊數、丁數及ヒ之ニ繼續スル旨ヲ記載スヘシ

前二項ノ規定ハ第三以下ノ繼續用紙ヲ設ケル場合ニ之ヲ準用ス

第五十七條 共同人名簿ニ記載ヲ爲シタル場合ニ於テハ登記用紙中相當區事項欄ニ爲シタル登記ノ末尾ニ共同人名簿ニ於ケル番號ヲ記載スヘシ

第五十八條 登記シタル權利ノ順位ヲ讓渡シ又ハ拋棄シタル場合ニ於テ變更登記ヲ爲シタルトキハ其權利ノ登記ノ順位番號ノ左側ニ變更登記ノ順位番號ヲ記載スヘシ

第五十九條 附記登記ヲ爲シタルトキハ主登記ノ順位番號ノ左側ニ附記番號ヲ記載スヘシ

第六十條 登記簿ノ全部又ハ一部カ滅失シタルニ因リ登記回復ノ登記ヲ爲シタルトキハ前登記ノ登記濟證ニ不動産登記法第六十條第一項ノ手續ヲ爲シタル上之ヲ申請人ニ還付スヘシ

第六十一條 土地臺帳所管廳ヨリ土地ノ異動ニ關スル通知アリタル場合ニ於テ不動産登記法施行細則 登記手續

四百三十七

其土地カ既登記ナルトキハ見出帳中相當欄ニ其通知書ヲ編綴セル土地異動通知書綴込帳ノ冊數及ヒ丁數ヲ記入シ其土地カ未登記ナルトキハ土地臺帳謄本ノ別冊ニ其土地ニ關スル事項ヲ記載シ備考欄ニ土地臺帳謄本原簿第何冊第何丁第何行ヨリ移シタル旨ヲ記入シ土地臺帳謄本原簿ノ備考欄ニハ別冊第何冊第何丁第何行ニ移シタル旨ヲ記入スヘシ

異動ノ通知ヲ受ケタル既登記ノ土地ニ付キ其異動ニ關シ變更登記ヲ爲シタルトキハ見出帳中其異動ニ關シ土地異動通知書ノ冊數、丁數欄ニ爲シタル記入ヲ朱抹スヘシ

第六十二條 不動産カ數箇ノ登記所ノ管轄地ニ跨カル場合ニ於テ裁判所ノ指定ニ因リ登記ヲ爲シタルトキハ登記所ハ速ニ其旨ヲ他ノ登記所ニ通知スヘシ

前項ノ通知ヲ受ケタル登記所ハ見出帳中備考欄ニ其通知事項ヲ記入スヘシ
第六十三條 地役權ノ變更又ハ消滅ノ登記ヲ爲シタル場合ニ於テ其要役地方他ノ登記所ノ管轄ニ屬スルトキハ遲滯ナク其登記所ニ變更又ハ消滅ノ事由及ヒ

申請書受附ノ年月日ヲ通知スヘシ

前項ノ通知ヲ受ケタル登記所ハ遲滯ナク要役地タル不動産ノ登記用紙中相當區事項欄ニ通知ヲ受ケタル事項ヲ記載スヘシ

第六十四條 登記用紙ヲ閉鎖スルニハ表示欄ニ閉鎖ノ事由及ヒ其年月日ヲ記載シ登記官吏捺印シ不動産ヲ表示ノ表示番號及ヒ登記番號ヲ朱抹スヘシ

第六十五條 不動産登記法第四十七條第二項ノ規定ニ依リ受領證ヲ交付スル場合ニ於テ登記權利者又ハ登記義務者カ多數ナルトキハ申請書ニ掲ケタル筆頭ノ者ノミノ氏名及ヒ他ノ人員ヲ記載スルヲ以テ足ル

第六十六條 不動産登記法第四十七條第二項ノ受領證ハ登記濟證ヲ交付スルトキ之ヲ還納セシムヘシ

還納ヲ受ケタル受領證ハ之ヲ保存スヘシ
第六十七條 不動産登記法第十二條第二項ノ調書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 申請人ノ氏名、住所
- 不動産登記法施行細則 登記手續

二 申請人カ登記官吏ナルコト又ハ登記官吏ノ妻若クハ登記官吏ノ四親等
内ノ親族ナルコト

三 登記ヲ爲スヘキ不動産ノ表示及ヒ登記ノ目的

四 申請書受附ノ年月日及ヒ受附番號

五 立會人ノ氏名、住所及ヒ年齢

六 立會人カ其登記所ニ於テ登記ヲ受ケタル不動産ノ表示及ヒ年月日又ハ

登記番號

第六十八條 不動産登記法第十一條第一項ノ通知ニハ土地所在ノ郡、市、區、町、
村、字、土地ノ番號、地目、段別若クハ坪數、申請書受附ノ年月日、登記ノ
目的及ヒ申請人ノ氏名、住所ヲ記載スヘシ
前項ノ通知ハ登記ヲ完了シタル日ヨリ十日内ニ之ヲ爲スヘシ但地租毎納期終
盡ノ前十日内ハ其都度通知ヲ爲スヘシ
第六十九條 登記官吏カ不動産登記法第二百二十九條、第三百一一條又ハ第三百

十三條ノ規定ニ依リ登記ヲ爲シタルトキハ不動産ノ表示、登記原因、其日附、
登記權利者ノ氏名、住所、登記ノ目的及ヒ登記濟ノ旨ヲ不動産ノ所有者ニ通
知スヘシ但第三百一一條又ハ第三百三十三條ノ規定ニ依リ登記ヲ爲シタル場合
ニ於テハ所有權以外ノ權利者ニモ其通知ヲ爲スヘシ

第七十條 不動産登記法第六十一條、第六十三條、第七十五條第一項及ヒ前條
ノ通知ハ郵便其他便宜ノ方法ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第七十一條 不動産登記法第九條第一項ノ場合ニ於テハ登記簿ノ表紙ニ管轄ノ
變更アリタルコト及ヒ其年月日ヲ記載シ其表紙ニ記載シタル登記所ノ名稱ヲ
變更スヘシ

同法第五十九條ノ場合ニ於テハ登記簿ノ表紙ニ行政區畫又ハ其名稱ノ變更ア
リタルコト及ヒ其年月日ヲ記載シ其表紙ニ記載シタル行政區畫又ハ其名稱ヲ
變更スヘシ

第七十一條ノ二 第四十六條ノ二ノ申請アリタル場合ニ於テ永代借地登記簿ノ
不動産登記法施行細則 登記手續 附則 四百四十一

用紙中永代借地權ヲ目的トスル他ノ權利ニ關スル登記アリテ其登記カ未ダ抹消ニ係ラサルトキハ登記官吏ハ普通登記簿ニ所有權ノ登記ヲ爲シタル上他ノ權利ニ關スル登記ヲ移スヘシ(三十四年司法省令第十七號ヲ以テ追加)

第七十一條ノ三ノ前條ノ規定ニ依リ他ノ權利ニ關スル登記ヲ普通登記簿ニ移ストキ又ハ永代借地ノ上ニ存スル建物ニ關スル登記ヲ普通登記簿ニ移ストキハ登記用紙中登記番號欄ニ其登記簿ニ於ケル登記ノ順序ヲ追ヒテ新ナル番號ヲ記載シ其左側ニ前登記番號ヲ記載スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ表示欄及ヒ事項欄ニ移シタル登記ノ末尾ニ前登記簿第何冊第何丁ヨリ移シタル旨及ヒ年月日ヲ記載シ登記官吏捺印スヘシ(同上)

附則

第七十二條 不動産登記法第六十三條ノ規定ニ依リ舊登記簿ヨリ登記ヲ移シタルトキハ表示欄及ヒ事項欄ニ移シタル登記ノ末尾ニ舊登記簿第何冊第何丁ヨリ移シタル旨及ヒ年月日ヲ記載シ登記官吏捺印スヘシ

前項ノ手續ヲ爲シタルトキハ舊登記簿表題部取消欄ニ新登記簿第何冊第何丁ニ移シタル旨、新登記番號及ヒ年月日ヲ記載シ登記官吏捺印スヘシ

第七十三條 不動産登記法第六十三條ノ登記ヲ爲ササル不動産ニ付キ其滅失又ハ其不動産ニ關スル權利ノ抹消ノ登記ノ申請アリタルトキハ舊登記簿ニ其登記ヲ爲スヘシ(三十二年司法省令第五十四號ヲ以テ改正)

第七十四條 受附番號ハ明治三十二年分ニ限り六月十六日ヨリ之ヲ更新シ十二月三十一日ニ止ムヘシ

第七十五條 舊登記簿ノ謄本ハ舊謄本用紙ヲ以テ之ヲ作成スヘシ
第七十六條 明治二十六年(三月)司法省令第三號ニ依リ既ニ印鑑ヲ提出シタル者ハ更ニ之ヲ提出スルコトヲ要セス

(附錄樣式略ス)

● 不動産及商業登記簿謄本抄本等ノ手数料

(明治三十二年五月十二日)
司法省令第十四號

不動産及商業登記簿謄本抄本等ノ手数料

土地登記簿、建物登記簿及ヒ商業登記簿ノ謄本又ハ抄本ノ請求等ニ關スル手数料左ノ通相定ム

第一條 不動産登記法第二十一條又ハ非訟事件手續法第四百十二條ノ規定ニ依リ登記簿ノ謄本又ハ抄本ノ交付ヲ請求スル者ハ其用紙一枚ニ付キ手数料金十錢ヲ納ムヘシ但一枚ニ滿タサルモノト雖モ仍ホ之ヲ一枚ニ計算ス

第二條 不動産登記法第二十一條ノ規定ニ依リ登記簿又ハ其附屬書類ノ閱覽ヲ請求スル者ハ手数料金十錢ヲ納ムヘシ

第三條 非訟事件手續法第四百十三條ノ規定ニ依リ登記事項ニ變更ナキコト又ハ或事項ノ登記ナキコトノ證明ヲ請求スル者ハ每一件手数料金十錢ヲ納ムヘシ

第四條 明治三十二年司法省令第十三號第二十七條ノ規定ニ依リ商業登記ニ付キ登記濟證ノ交付ヲ請求スル者ハ手数料金五錢ヲ納ムヘシ

第五條 手数料ハ收入印紙ヲ申請書ニ貼附シテ之ヲ納ムヘシ

第六條 第一條乃至第三條ノ規定ハ官吏又ハ公吏カ政府ノ利益ノ爲メ其職務ヲ以テ請求ヲ爲ス場合ニハ之ヲ適用セズ

●各省所管ニ係ル不動産ノ登記ノ囑託ニ關スル件

(明治三十五年一月十七日) 勅令 第五號

朕各省ノ所管ニ係ル不動産ノ登記ノ囑託ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

各省大臣カ其所管ニ係ル不動産ノ登記ノ囑託ヲ爲ス場合ニ於テ省令ヲ以テ指定シタル官吏ハ不動産登記法第三十五條第五號ノ書面ヲ提出スルヲ要セス

○内務省令 明治三十五年四月十日 當省所管ニ係ル不動産ノ登記ノ囑託ニ

就テハ左ノ官吏ヲ指定ス

北海道廳長官

府縣知事

本省總務局會計課長

各省所管ニ係ル不動産ノ登記ノ囑託ニ關スル件 四百四十五

本省衛生局長

警察監獄學校幹事

土木監督署長

衛生試驗所長

血清藥院長

痘苗製造所長

傳染病研究所長

○大藏省令 明治三十五年五月二十七日 第十號

當省ノ所管ニ係ル不動産登記ノ囑

託ニ付テハ左ノ官吏ヲ指定ス

警視總監

北海道廳長官

府縣知事

大藏省總務局會計課長

大藏省總務局營繕課長

專賣局長

專賣支局長

造幣局長

稅關長

稅務管理局長

臨時沖繩縣土地整理事務局長官

臨時稅關工事部部长

○陸軍省令 明治三十五年二月五日 第四號

本年勅令第五號ニ依リ當省所管ニ係ル

不動産ノ登記囑託ニ關シ左ノ通指定ス

師團經理部長

臺灣陸軍經理部長

臨時陸軍建築部長

砲兵工廠提理

築城部本部長並同支

兵器支廠長

臺灣陸軍補給廠長並

千住製絨所長

支廠長

○海軍省令 明治三十五年一月二十三日 第三號

本年勅令第五號ニ依リ當省所管ニ

係ル不動産ノ登記ノ囑託ニ就テハ東京府下ニ在テハ海軍省經理局長其ノ他ハ所

管鎮守府經理部長ヲ指定ス

○遞信省令 明治三十五年二月十三日 第五號

當省所管ニ係ル不動産ノ登記ノ囑託

ニ就テハ左ノ官職ニ在ルモノヲ以テ本官ノ代理ニ指定ス

但明治三十二年(七月)遞信省令第三十一號同三十三年(九月)遞信省令第五

十三號ハ廢止ス

各省所管ニ係ル不動産ノ登記ノ囑託ニ關スル件

本省各局長

鐵道作業局出張所長

海軍局長

總務局會計課長

一等郵便電信局長

港務局長

電信燈臺用品製造所長

電話交換局長

東京郵便電信學校長

鐵道作業局長官

郵便爲替貯金管理所長

商船學校長

鐵道作業局工務部長

航路標識管理所長

○農商務省令

明治三十五年三月二十九日 第四號

當省所管ニ係ル不動産登記囑託

ニ關シ本官ノ代理トシテ左ノ通り指定ス

山林局長

總務局會計課長

製鐵所長官

大林區署長

鑛山監督署長

農事試驗場長

工業試驗所長

生絲檢査所長

鹽業調查所長

種馬牧場長及種馬所長

種牛牧場長

東京蠶業講習所長

京都蠶業講習所長

水産講習所長

廣島鑛山管理長

●地所建物船舶質入書入ニ關スル舊公證簿等保存期

間ノ件

(明治三十五年七月二十四日 司法省令第二十號)

地所建物船舶質入書入ニ關スル舊公證簿其他之ニ屬スル帳簿及ヒ書類ハ明治三十六年十二月三十一日マテ之ヲ保存スヘシ

地所建物船舶質入書入ニ關スル舊公證簿等保存期 四百四十九 間ノ件

明治三十四年九月二十日法律第三十九號

永代借地權ニ關スル件

（明治三十四年九月二十日法律第三十九號）

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル永代借地權ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

●永代借地權ニ關スル件（明治三十四年九月二十日法律第三十九號）

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル永代借地權ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 政府ノ永代借地券ヲ以テ外國人又ハ外國法人ノ爲ニ設定シタル永代借地權ハ之ヲ物權トシ民法中所有權ニ關スル規定ヲ準用ス

永代借地權ハ民法ノ規定ニ從ヒ他ノ權利ノ目的タルコトヲ得

地券、條約又ハ法令ニ別段ノ定メアル場合ニハ前二項ノ規定ヲ適用セス

第二條 永代借地權ノ移轉アリタルトキハ其ノ土地ノ所在地ヲ管轄スル地方廳ニ於テ地券ニ其ノ旨ヲ記載スルニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第三條 永代借地權又ハ之ヲ目的トスル權利ニ關スル登記ニ付テハ登録稅ヲ課セス

永代借地權ニ關スル件

第四條 永代借地權又ハ之ヲ目的トスル權利ニ關スル登記及永代借地ノ上ニ存スル建物ニ關スル登記ニ付テハ勅令ヲ以テ別段ノ規定ヲ設ケルコトヲ得

附則

第五條 本法ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第六條 民法施行法第四十五條ノ規定ハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

第七條 永代借地權又ハ之ヲ目的トスル權利ヲ本法施行前ニ地上權又ハ之ヲ目的トスル權利トシテ登記セラレタルモノハ永代借地權又ハ之ヲ目的トスル權利トシテ登記セラレタルモノト同一ノ效力ヲ有ス

●永代借地權ニ關スル件

(明治三十四年九月二十日勅令第百七十八號)

朕永代借地權ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 永代借地ノ所在地ヲ管轄スル地方廳ニ於テ永代借地權ノ移轉ヲ地券ニ記載スルコトノ申請ヲ受ケタルトキ又ハ永代借地權ニ關スル届出ヲ受ケタル

トキハ遲滞ナク其ノ永代借地ノ所在地ヲ管轄スル登記所ニ其ノ旨ヲ通知スヘシ

永代借地權ノ移轉ニ關スル通知ヲ爲ス場合ニ於テハ其ノ通知書ニ永代借地券ノ謄本ヲ添附スヘシ但シ既ニ通知ヲ爲シタル永代借地ニ關シ更ニ通知ヲ爲ス場合ニ於テハ地券ノ謄本ヲ添附スルコトヲ要セス此ノ場合ニ於テハ通知書ニ永代借地ノ表示、當事者ノ氏名、國籍、住所、權利移轉ノ原因及其ノ年月日ヲ記載スヘシ

第二條 永代借地及永代借地ノ上ニ存スル建物ノ登記ニ付テハ特別ノ登記簿ヲ設ケ之ヲ登記所ニ備フヘシ

第三條 登記簿ハ永代借地登記簿及永代建物登記簿ノ二種トス

第四條 永代借地登記簿ハ其ノ一用紙ヲ登記番號欄、表題部及甲乙丙丁戊ノ五區ニ分チ尙表題部ニ表示欄、表示番號欄ヲ設ケ各區ニ事項欄、順位番號欄ヲ設ケ

永代借地權ニ關スル件

登記番號欄ニハ各永代借地ニ付登記簿ニ始メテ登記ヲ爲シタル順序ヲ記載ス

表示欄ニハ永代借地ノ表示ヲ爲シ及其ノ變更ニ關スル事項ヲ記載シ表示番號欄ニハ表示欄ニ登記事項ヲ記載シタル順序ヲ記載ス

甲區事項欄ニハ永代借地權ニ關スル事項ヲ記載ス

乙區事項欄ニハ地上權、永小作權及此等ノ權利ヲ目的トスル他ノ權利ニ關スル事項ヲ記載ス

丙區事項欄ニハ地役權ニ關スル事項ヲ記載ス

丁區事項欄ニハ先取特權、質權及抵當權ニ關スル事項ヲ記載ス

戊區事項欄ニハ賃借權ニ關スル事項ヲ記載ス

順位番號欄ニハ事項欄ニ登記事項ヲ記載シタル順序ヲ記載ス

第五條 永代借地建物登記簿ハ其ノ一用紙ヲ登記番號欄、表題部及甲乙丙丁ノ四區ニ分チ尙表題部ニ表示欄、表示番號欄ヲ設ケ各區ニ事項欄、順位番號欄ヲ設

ク

登記番號欄ニハ各建物ニ付登記簿ニ始メテ登記ヲ爲シタル順序ヲ記載ス

表示欄ニハ建物及附屬建物ノ表示ヲ爲シ及其ノ變更ニ關スル事項ヲ記載シ表

示番號欄ニハ表示欄ニ登記事項ヲ記載シタル順序ヲ記載ス

甲區事項欄ニハ所有權ニ關スル事項ヲ記載ス

乙區事項欄ニハ地役權ニ關スル事項ヲ記載ス

丙區事項欄ニハ先取特權、質權及抵當權ニ關スル事項ヲ記載ス

丁區事項欄ニハ賃借權ニ關スル事項ヲ記載ス

順位番號欄ニハ事項欄ニ登記事項ヲ記載シタル順序ヲ記載ス

第六條 未登記ノ永代借地權ヲ目的トスル權利ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ

申請書ニ永代借地權ヲ證スルニ足ルヘキ書面ヲ添附スヘシ

第七條 登記所ニ於テ永代借地權ノ移轉ニ關スル通知ヲ受ケタルトキハ其ノ永代借地權ノ既登記ナルト未登記ナルトヲ問ハス職權ヲ以テ永代借地權移轉ノ

永代借地權ニ關スル件

登記ヲ爲スヘシ

既登記ノ永代借地權ニ關スル届出ノ通知ヲ受ケタル場合ニ於テ登記ニ變更ヲ生スヘキトキハ職權ヲ以テ變更ノ登記ヲ爲スヘシ

未登記ノ永代借地權ヲ目的トスル權利ニ付登記ノ申請アリタルトキハ職權ヲ以テ永代借地權ノ登記ヲ爲スヘシ

第八條 明治三十二年勅令第二百五十一號ヲ以テ定メタル期日前ニ永代借地及永代借地ノ上ニ存スル建物ニ關シ外國領事廳ニ於テ爲シタル登記ハ領事廳ヨリ登記簿又ハ其ノ謄本ヲ登記所ニ引渡シタルモノニ限り本令ニ依リテ爲シタル登記ト同一ノ效力ヲ有ス

第九條 明治三十二年勅令第三百二十九號ニ依リ登記セラレタル不動産ニ付本令施行ノ後登記ヲ爲ス場合ニ於テハ本令ニ依リテ備ヘタル登記簿ノ用紙中登記番號欄ニ其ノ登記簿ニ於ケル登記ノ順序ヲ追ヒテ新ナル番號ヲ記載シ其ノ左側ニ前登記番號ヲ記載シ表示欄ニ不動産ノ表示ヲ移シ相當區順位番號欄及

事項欄ニ舊登記簿ノ用紙ニ爲シタル登記ヲ移シ舊登記簿ノ用紙ヲ閉鎖スヘシ

前項ノ規定ハ外國領事廳ニ於テ登記セラレタル不動産ニ付本令施行ノ後登記ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第十條 永代借地權ハ他ノ名稱ニテ登記セラレタルモノト雖前條ノ規定ニ依リ登記ヲ移ス場合ニ於テハ之ヲ永代借地權ト記載スヘシ

第十一條 永代借地權又ハ永代借地ノ上ニ存スル建物ノ所有權ヲ目的トスル權利ニ付登記ヲ爲ス場合ニ於テ登記スヘキ權利第四條又ハ第五條ノ規定ニ適合セサルトキハ登記用紙ノ各區中其ノ權利ト最モ類似スル權利ヲ登記スヘキ區ニ其ノ登記ヲ爲スヘシ

第十二條 本令ニ規定セサル事項ニ付テハ不動産登記法ノ規定ヲ準用ス
附則

第十三條 本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
永代借地權ニ關スル件 四百五十七

第十四條 明治三十二年勅令第三百二十九號ハ之ヲ廢止ス

●帝國ノ臣民又ハ法人永代借地權ヲ取得シタル場合

ニ關スル件

(明治三十四年九月二十日勅令第三百七十九號)

朕帝國ノ臣民又ハ法人ニ於テ政府ノ永代借地券ヲ以テ外國人又ハ外國法人ノ爲ニ設定シタル永代借地權ヲ取得シタル場合ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 帝國ノ臣民又ハ法人カ政府ノ永代借地券ヲ以テ外國人又ハ外國法人ノ爲ニ設定シタル永代借地權ヲ取得シタルトキハ遲滯ナク其ノ土地所在地ヲ管轄スル地方廳ニ永代借地券ヲ提出シテ抹消ヲ受クヘシ
前項ニ依リ永代借地券ノ抹消ヲ受ケタルトキハ帝國ノ臣民又ハ法人ハ其ノ土地ノ所有權ヲ取得ス

第二條 帝國ノ臣民又ハ法人カ前條第一項ノ規定ニ依リ永代借地券ノ抹消ヲ受

ケタルトキハ地方廳ハ其ノ土地所在地ヲ管轄スル登記所ニ其ノ旨ヲ通知スヘシ

第三條 第一條ノ場合ニ於テ永代借地權ヲ目的トシタル權利ヲ有スル第三者アルトキハ其ノ權利ハ所有權ヲ目的トシタルモノトシテ存續ス

附則

第四條 本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第五條 明治三十二年勅令第三百三十三號ハ之ヲ廢止ス

第六條 政府ノ永代借地券ヲ以テ外國人又ハ外國法人ノ爲ニ設定シタル永代借地權ニシテ本令施行前帝國法人ノ取得シタルモノハ其ノ土地ニ付既ニ所有權ノ登記アリタル場合ヲ除キ永代借地權トシテ存續ス但シ第一條ニ依リ所有權ヲ取得スルコトヲ妨ケス

●永代借地及ヒ永代借地ノ上ニ存スル建物ニ關スル

帝國ノ臣民又ハ法人永代借地權ヲ取得シタル場合 四百五十九
ニ關スル件 永代借地及ヒ永代借地ノ上ニ存スル
建物ニ關スル登記取扱手續

登記取扱手續

(明治三十四年九月二十一日) 司法省令第十五號

永代借地及ヒ永代借地ノ上ニ存スル建物ニ關スル登記取扱手續左ノ通相定ム

第一條 永代借地及ヒ永代借地ノ上ニ存スル建物ニ關スル登記ニ付テハ本令ニ別段ノ定アルモノヲ除ク外不動産登記法施行細則ノ規定ヲ準用ス

第二條 永代借地登記簿ハ附錄第一號雛形ニ依リ永代借地建物登記簿ハ附錄第二號雛形ニ依リ地方裁判所ニ於テ之ヲ調製スヘシ

第三條 外國領事廳ノ登記簿ノ謄本及ヒ其譯文ハ之ヲ登記所ニ備フヘシ

第四條 登記ノ申請書ニ添附スル書面カ外國語ヲ以テ記載シタルモノナルトキハ申請人ハ之ニ其譯文ヲ附スヘシ

第五條 外國領事廳ノ登記簿ニ移スニハ其譯文ニ依ルヘシ

外國領事廳ノ登記簿ニ移シタルトキハ外國領事廳ノ登記簿ノ謄本及ヒ其譯文ニ登記簿第何冊第何丁ニ移シタル旨、登記番號及ヒ年月日ヲ記載シ登

記官吏捺印スヘシ

第六條 明治三十四年勅令第七十九號第二條ニ依リ地方廳ヨリ永代借地券ノ抹消ノ通知アリタルトキハ登記官吏ハ永代借地登記簿ノ用紙ヲ閉鎖スヘシ

前項ノ場合ニ於テ其登記用紙中永代借地權ヲ目的トスル他ノ權利ニ關スル登記アルトキハ表示欄ニ地券抹消ノ通知アリタル旨ヲ記載シ置キ他ノ權利ニ關スル總テノ登記ニ付キ抹消ノ登記ヲ爲シタル後又ハ所有權保存ノ登記ヲ爲スニ因リ他ノ權利ニ關スル登記ヲ普通登記簿ニ移シタル後登記用紙ヲ閉鎖スヘシ

第七條 前條第一項ノ通知アリタル場合ニ於テ永代借地ノ上ニ存スル建物ニ關スル登記アルトキハ登記官吏ハ其登記ヲ普通登記簿ニ移シ前登記簿ノ用紙ヲ閉鎖スヘシ

附則

第八條 本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
永代借地及ヒ永代借地上ニ存スル建物ニ關スル登記取扱手續 四百六十一

第九條 明治三十二年司法省令第四十一號外國人又ハ外國法人ノ權利ノ目的タル不動産ニ關スル登記取扱手續ハ之ヲ廢止ス
(雖形略ス)

●同上登記簿謄本抄本閱覽料 (明治三十四年九月二十五日) 司法省令第十六號

永代借地及ヒ永代借地ノ上ニ存スル建物ノ登記簿ノ謄本若クハ抄本ノ交付ノ請求又ハ登記簿若クハ其附屬書類ノ閱覽ノ請求ニ關スル手数料ニ付テハ明治三十二年司法省令第十四號ノ規定ヲ準用ス
本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
明治三十二年司法省令第四十三號之ヲ廢止ス

●永代借地券ノ抹消ニ因リ土地所有權取得ノトキ管轄稅務署へ通知ノ件 (明治三十四年九月二十五日) 內務省令第二十四號

政府ノ永代借地券ヲ以テ外國人又ハ外國法人ノ爲ニ設定シタル永代借地權ヲ取得シタル帝國ノ臣民又ハ法人明治三十四年勅令第七十九號第一條ニ依リ地券ノ抹消ヲ受ケ其ノ土地ノ所有權ヲ取得シタルトキハ地方廳ハ遲滞ナク其ノ土地所在地ヲ管轄スル稅務署ニ其ノ旨ヲ通知ス可シ

●同上ノ通知ヲ受ケタルトキ土地臺帳ニ登録ノ件

(明治三十四年九月二十五日) 大藏省訓令第三十四號

稅務管理局 函館札幌根室那霸四局ヲ除ク

明治三十四年內務省令第二十四號ニ依ル通知ヲ受ケタルトキハ稅務署ハ其ノ土地ニ付土地臺帳登録ノ手續ヲ爲スヘシ

同上登記簿謄本抄本閱覽料 永代借地券ノ抹消ニ因リ土地所有權取得ノトキ管轄稅務署へ通知ノ件 同上ノ通知ヲ受ケタルトキ土地臺帳ニ登録ノ件 四百六十三

管轄 同九、...
二因、...
三因、...
四、...
五、...
六、...
七、...
八、...
九、...
十、...
十一、...
十二、...
十三、...
十四、...
十五、...
十六、...
十七、...
十八、...
十九、...
二十、...

明治二十九年八月廿二日
法律第二十號

公證人規則

第一章 總則
第一條 公證人ハ、...
第二條 公證人ハ、...
第三條 公證人ハ、...
第四條 公證人ハ、...
第五條 公證人ハ、...
第六條 公證人ハ、...
第七條 公證人ハ、...
第八條 公證人ハ、...
第九條 公證人ハ、...
第十條 公證人ハ、...
第十一條 公證人ハ、...
第十二條 公證人ハ、...
第十三條 公證人ハ、...
第十四條 公證人ハ、...
第十五條 公證人ハ、...
第十六條 公證人ハ、...
第十七條 公證人ハ、...
第十八條 公證人ハ、...
第十九條 公證人ハ、...
第二十條 公證人ハ、...

公證人規則

第二章 公證人ノ資格
第二十一條 公證人ノ資格ハ、...
第二十二條 公證人ノ資格ハ、...
第二十三條 公證人ノ資格ハ、...
第二十四條 公證人ノ資格ハ、...
第二十五條 公證人ノ資格ハ、...
第二十六條 公證人ノ資格ハ、...
第二十七條 公證人ノ資格ハ、...
第二十八條 公證人ノ資格ハ、...
第二十九條 公證人ノ資格ハ、...
第三十條 公證人ノ資格ハ、...

第三章 公證人ノ職務
第三十一條 公證人ノ職務ハ、...
第三十二條 公證人ノ職務ハ、...
第三十三條 公證人ノ職務ハ、...
第三十四條 公證人ノ職務ハ、...
第三十五條 公證人ノ職務ハ、...
第三十六條 公證人ノ職務ハ、...
第三十七條 公證人ノ職務ハ、...
第三十八條 公證人ノ職務ハ、...
第三十九條 公證人ノ職務ハ、...
第四十條 公證人ノ職務ハ、...

第四章 公證人ノ報酬
第四十一條 公證人ノ報酬ハ、...
第四十二條 公證人ノ報酬ハ、...
第四十三條 公證人ノ報酬ハ、...
第四十四條 公證人ノ報酬ハ、...
第四十五條 公證人ノ報酬ハ、...
第四十六條 公證人ノ報酬ハ、...
第四十七條 公證人ノ報酬ハ、...
第四十八條 公證人ノ報酬ハ、...
第四十九條 公證人ノ報酬ハ、...
第五十條 公證人ノ報酬ハ、...

第五章 公證人ノ懲罰
第五十一條 公證人ノ懲罰ハ、...
第五十二條 公證人ノ懲罰ハ、...
第五十三條 公證人ノ懲罰ハ、...
第五十四條 公證人ノ懲罰ハ、...
第五十五條 公證人ノ懲罰ハ、...
第五十六條 公證人ノ懲罰ハ、...
第五十七條 公證人ノ懲罰ハ、...
第五十八條 公證人ノ懲罰ハ、...
第五十九條 公證人ノ懲罰ハ、...
第六十條 公證人ノ懲罰ハ、...

公證人規則 總則
四百六十五

第四條 公證人ハ治安裁判所ノ管轄地ヲ以テ受持區トシ其區内ニ於テ司法大臣ノ認可ヲ受ケテ所轄村内ニ住居シ其居宅ニ前役場ヲ設ケ役場ニ於テ職務ヲ行フ可シ但役場外ニ住居セシトスル時該管轄始審裁判所ノ認可ヲ受ケテ

已ム事得サハ事件ニ付テハ受持區内ニ限リ役場外ニ於テ其職務ヲ行フ可シ

第五條 各區内公證人ハ員數ヲ司法大臣之ヲ定ム其職務ヲ行フ可シ

第六條 公證人ハ司法大臣ニ隸屬シ控訴院長始審裁判所長ノ監督ヲ受クルモノ

第七條 公證人其受持區内ニ於テハ區外人ノ爲メニモ職務ヲ行フ可シ但受持區外ニ於テハ何人ノ爲メニモ職務ヲ行フコトヲ得ス若シ之ヲ行ヒタルトキハ其職務類ハ公正ヲ效テ有セズ

第八條 公證人ハ理由ナクシテ人民ノ囑託ヲ拒ムコトヲ得ス若シ之ヲ拒ミタルトキハ囑託人ハ求メ得ルハ其理由ヲ記シテ渡ス可シ

第九條 公證人ハ職務執行上ニ關シ不服アル者ハ管轄始審裁判所ニ抗告スルコトヲ得

第十條 公證人ハ公證人何某ト刻シタル坊六分ヲ役印ヲ作り其印鑑ニ氏名ヲ手書シ之ヲ管轄始審裁判所及治安裁判所ニ差出ス可シ

前項ノ印鑑ヲ差出サザル間ハ職務ヲ行フ始審裁判所若シ之ヲ行ヒタルトキハ其書類ハ公正ノ效ヲ有セズ

第十一條 公證人已ム事得サハ事故アリテ職務ヲ行フコト能ハサルトキハ近隣ノ公證人ニ代理ヲ囑シ管轄始審裁判所ニ其旨ヲ届出可シ

第十二條 公證人ハ筆生ヲ置キ書類ヲ作ル補助ヲ爲サシムルコトヲ得ルハ其價

第十三條 公證人ノ作ル證書及謄本ヲ用紙ニ某始審裁判所管内公證人役場ト刻シタル紙ヲ用フ可シ

第十四條 公證人ハ取扱印キ書類左ノ如シ

第三 原本 證書ノ本紙ニシテ公證人ノ保存スルモノ

第三 正本 原本ノ全文ヲ記シ抄寫モシテ本文義務ノ執行ヲ裁判所ニ願
及十出可キ旨ヲ其末尾ニ記載シ密封シテ送ルノ限

第三 抄錄正本 原本ノ一部分ヲ記シ其末尾ニ前項ト同一ノ記載アルモノ

第四 正式謄本 原本ヲ全文ヲ寫シ終ルモ其後復テ原本ニ代テ得可キ謄本

第五 抄錄正式謄本 原本ノ一部分ヲ抄寫終ルモノニシテ原本ニ代テ得可

第六 謄本 原本ノ全文ヲ寫シ終ルモノニシテ原本ニ代テ得可

第七 抄錄謄本 原本ノ一部分ヲ抄寫シタルモノ

第八 見出帳 授受ノ書類ヲ番號種類等ヲ順次ニ記入スルモノ

第十五條 原本其他書類原本書込役場ニ之ヲ保存シ他ノ官吏ノ公證ヲ受クル爲

第十六條 裁判所ノ命令ニ依ルノ外關係外ノ者ニ書類ノ謄本ヲ渡ス可カラズ

第十七條 公證人其取扱セタル公證事件ヲ漏洩ス可カ行テ其職ニ當ルモノ

第二章 公證人ノ選任及試験

第十八條 公證人タル可キ者ノ左ノ件ヲ具備スルヲ要ス

第一 年滿二十五歳以上ナル事

第二 身元保證並ニ管轄始審裁判所ニ差入ルル事業ヲ営ム者ナル事

第三 學定式試験及第證書ヲ有スル事但裁判官檢察官及法學士法科

第四 丁年者三名以上ニテ其品行ヲ保證スル證書ヲ有スル事

第十九條 保證金ノ額ハ土地ノ狀況ニ從ヒ五百圓以上五百圓以下ニ於テ豫メ

法大臣之ヲ定ム

第二十條 左ニ掲ケル者ハ公證人タル可キ事ヲ得ズ

第一 公權剝奪者クハ停止中ノ者

第二 盜罪詐僞罪賄賂收受ノ罪及贓物ニ關スル罪ヲ犯シ刑ヲ受ケタル者

第三 身代限ノ處分ヲ受ケ負債ノ辨償ヲ終ヘサル者

公證人規則 公證人ノ選任及試験

第四 官吏懲戒令ニ依リ免職セラレタル者

第三十一條 公證人ヲ試験スル場所及期日ハ司法大臣之ヲ定メ少クトモ三箇月

前ニ告示ス可シ

第三十二條 試験委員ハ控訴院若クハ始審裁判所ノ裁判官二名檢察官一名トシ

司法大臣臨時之ヲ命ス

第三十三條 試験ノ科目ハ公證人規則、民法、訴訟法、商法其他公證人ノ職務

ニ關スル法律命令トス

第三十四條 公證人タラシム欲スル者ハ願書ニ試験及第證書ノ寫ヲ添ヘ管轄始

審裁判所若クハ控訴院ヲ經テ司法大臣ニ差出ス可シ但裁判官檢察官タリシ者

ハ其官記法學士ハ其學位記法科大學卒業生ハ其卒業證書代言人ハ其免許狀ヲ

以テ及第證書ニ代フルコトヲ得

第三十五條 公證人ハ司法大臣之ヲ任ス

第三十六條 試験ノ方法ハ筆記口述ノ二種トス筆記試験ニ合格セサル者ハ口述

試験ヲ受クルコトヲ得ス

第二十七條 試験及第者ニハ及第證書ヲ授與ス

第三章 證書

第一節 證書ノ原本

第二十八條 公證人證書ヲ作ルニハ其囑託人ノ氏名ヲ知リ面識アルヲ必要トシ

且丁年者一名ノ立會人ヲ要ス之ニ違ヒタルトキハ其證書ハ公正ノ效ヲ有セス

(三十二年法律第四十九號商法施行法第二百二十四條參看)

公證人囑託人ノ氏名ヲ知ラス面識ナキトキハ其本籍或ハ寄留地ノ郡區長若ク

ハ戶長ヲ證明書又ハ公證人氏名ヲ知リ面識アル丁年者三人以上ヲ以テ其本人

證セシム可シ之ニ違ヒタルトキハ其證書ハ公正ノ效ヲ有セス

第二十九條 左ニ掲グル者ハ立會人タルコトヲ得ス

第一 公證人及囑託人ノ親屬雇人又ハ公證人ノ筆生

第二 第三十條ニ掲ケタル者

公證人規則 證書

第三十條 證書ニ其本旨ノ外左ノ件ヲ記載ス可シ

第一 囑託人及立會人ノ族籍住所職業氏名年齢

第二 囑託人代理人ナルトキハ委任狀ヲ所持シタルコト及其本人ノ族籍住所

職業氏名年齢

第三 囑託人後見人ナルトキハ後見人タルノ證書ヲ所持シタル事及本人

公族籍住所職業氏名年齢

第四 郡區長戸長ノ證明書ヲ以テ證明シタルトキハ其旨又證人ヲ要シタルトキ

且ハ其族籍住所職業氏名年齢

第五 證書ヲ用ルシ場所及其年月日若シ場所ヲ記セバ又年月日ヲ記入ヲ遺

脱シタルトキハ其證書ハ公正ノ效ヲ有セス

第三十一條 證書ヲ作ルニハ普通平易ノ語ヲ用ヒ字畫明瞭ナルヲ要ス

接續シ可キ字行ニ空白アルトキハ墨線ヲ以テ之ヲ接續ス可シ

數量並ニ年月日ヲ記スルニハ壹貳參肆伍陸柒捌玖拾陌阡萬ノ字ヲ用フ可シ

第三十二條 度量衡貨幣ノ數量、名稱及曆法ハ法律ノ定ムル所ニ從ヒ之ヲ記ス

可シ然レモ其度量衡貨幣曆法及外國ノ度量衡貨幣曆法ヲ記セサル

既ニ廢シタル度量衡貨幣曆法及外國ノ度量衡貨幣曆法ヲ記セサル

ヲ得ザル場合ニ於テハ之ヲ用ヌルコトヲ得

第三十三條 證書ニ追加改正ヲ爲ストキハ其文字並ニ何行ニ追加改正ヲ爲シテ

ルコトヲ欄外又ハ末尾ノ餘白ニ附記シ公證人並ニ關係人捺印ス可シ又文中消

字ヲ爲ストキハ其原字ニ尚ホ明カニ讀得可キトキハ要ス且何行ニ若干字ヲ消

シタルトキハ欄外又ハ末尾ノ餘白ニ附記シ公證人並ニ關係人捺印ス可シ之ニ

違ヒタルトキハ追加改正ノ消字ノ效ヲ有セス

第三十四條 證書ヲ作ルルコトキハ關係人ニ讀聞セ其旨ヲ記入シ然ル後公證

人並ニ關係人各自署名捺印シ公證人ハ某治安裁判所管内某地住居ト肩書ス可

シ

公證人並ニ關係人ノ署名捺印ナキトキハ其證書ハ公正ノ效ヲ有セス

公證人規則 證書

四百七十三

若シ署名スル能ハサル者アルトキハ明治五年第五十號ノ布告ニ從テ可シ之ニ違ヒタルトキハ其證書ハ其公正ノ效ヲ有セス

第三十五條 證書ノ綴目合目ニハ公證人並ニ囑託人之捺印ヲ可シ

第三十六條 公證人ハ自己及親屬ノ爲メニ證書ヲ作ルコトヲ得ス其親屬他人ノ代理人タルトキモ亦同シ之ニ違ヒタルトキハ其證書ハ公正ノ效ヲ有セス

第三十七條 公證人若シ囑託人ノ爲メ訴訟代理人若クハ代理人ト爲リ又ハ爲リタルコトアルトキハ其訴訟事件ニ付キ證書ヲ作ルコトヲ得ズ之ニ違ヒタルトキハ其證書ハ公正ノ效ヲ有セス

第三十八條 公證人ハ自己親屬立會人又ハ公證人ノ爲メニ利益アル條件ヲ證書中ニ記ス可カラズ若シ之ヲ記シタルトキハ其條件ハ無効トス

第三十九條 公證人ハ證書ノ原本ヲ保存ス可シ若シ之ヲ保存セス又ハ亡失シタル場合ニ於テ第四十七條ノ手續ヲ爲ササルトキハ其證書ハ公正ノ效ヲ有セ

第四十條 囑託人若シ代理人又ハ後見人ナルトキハ其委任狀又ハ其證書ノ寫ヲ原本ニ連續ス可シ其寫ニハ本書ト對照シ相違ナキ旨ヲ附記シ公證人並ニ關係人署名捺印シ其寫ト本書トニ割印ス可シ

第四十一條 證書ニ關係ス書類ハ之ヲ原本ニ連續スルコトヲ得之ヲ連續シタルトキハ其旨ヲ原本ニ欄外又ハ末尾ニ附記シ公證人並ニ關係人捺印ス可シ

第四十二條 原本ニハ證券印稅規則ニ定メタル印紙ヲ貼用ス可シ

第三節 正本及謄本

第四十三條 正本ハ數量ヲ定リタル金錢其他換用物若クハ有價證券ヲ支辨ニ限リ權利者ノ請求ニ依リ之ヲ渡ス可シ之ニ違ヒタルトキハ正本ノ效ヲ有セス

正式謄本及抄録式謄本ハ權利者ノ請求ニ依リ之ヲ渡ス可シ

第四十四條 正本又ハ正式謄本ハ原本ト同時ニ又ハ原本ヲ作りタル後ニ於テ之ヲ作ルコトヲ得原本ト同時ニ作ルトキハ關係人ノ面前ニ於テシ原本ヲ作りタル後ニ作ルトキハ更ニ義務者ノ立會ヲ以テス可シ義務者出席セサルトキハ正

公證人規則 證書

四百七十五

本文に正式謄本ヲ求ムル者ヨリ管轄始審裁判所ニ出願シ其命令ニ依テ他ノ公證人一員又ハ裁判所ノ裁判官檢察官又ハ書記一員ヲ立會知以テ之ヲ作ル可シ之ニ違ヒタルトキハ其效力有セズ

裁判所ノ命令ニ依テ正本又ハ正式謄本ヲ作ルタルトキハ其末尾竝ニ原本ノ末尾ニ其旨ヲ附記シ其命令書ノ之ヲ原本ニ連綴ス可シ

第四十五條 正本又ハ正式謄本ヲ作ルタルトキハ第三十二條第三十三條第三十四條第三項及第三十五條ノ規定ニ依ル可シ

正本又ハ正式謄本ニ權利者ノ氏名竝ニ之ヲ作ルタル年月日及場所ヲ記シ公證人竝ニ義務者署名捺印ス可シ前條第三項ノ場合ニ於テハ公證人及他ノ公證人又ハ裁判所ノ官吏署名捺印ス可シ之ニ違ヒタルトキハ其效力有セズ

第四十六條 正本又ハ正式謄本ヲ渡シタルトキハ原本ノ末尾ニ其旨ト年月日ト別附記シ權利者ヲシテ署名捺印セシム可シ

第四十七條 正本又ハ正式謄本ハ原本ハ亡失シタルトキ管轄始審裁判所ノ認可

經之ヲ原本ニテ保存ス可シ

第四十八條 數事件別附記シ數人各自ニ關係ヲ異ニスル證書ハ權利者ノ請求ニ依リ其有用ノ部分ヲ抄録シテ正本又ハ正式謄本ヲ作ルコトヲ得

正本又ハ正式謄本ヲ渡シタル者ハ更ニ抄録正本又ハ抄録正式謄本ヲ渡ス可シ

第五十條 抄録正本又ハ抄録正式謄本ヲ渡シタル者ハ更ニ正本又ハ正式謄本ヲ渡ス可シ

第四十九條 正本又ハ正式謄本ハ管轄始審裁判所ノ命令ヲ以テ非但シテ再度之ヲ渡スコトヲ得ス之ヲ渡スト雖モ其效力有セズ

管轄始審裁判所ハ原本ヲ保存スル公證人ニ其正本又ハ正式謄本ヲ願出ツ可シ管轄始審裁判所ノ原本ヲ保存スル公證人ニ其正本又ハ正式謄本ヲ渡シタルトキハ其旨ト年月日ト別附記シ其命令書ノ之ヲ原本ニ連綴ス可シ

其正本又ハ正式謄本ハ其幾度ニ正本又ハ正式謄本ナルコトヲ末尾ニ附記シ公證人署名捺印ス可シ之ニ違ヒタルトキハ其效力有セズ

第五十條 抄錄正本又或抄錄正式謄本ノ總誤正本又或正式謄本ト同一ノ手續ニ

依立之ヲ作ル可シ其效力亦同シ本又或正式謄本ト同一ノ手續ニ

第五十一條 證書ノ謄本及其附屬書類ヲ寫ハ關係人ノ求メニ應シ之ヲ渡ス可

シ

第五十二條 謄本ニ或原本ノ全文ヲ寫シ其末尾ニ謄本ト記シ公證人署名捺印ス

可シ

第五十三條 抄錄謄本又或原本ノ年月日及囑託人ノ族籍住所職業氏名ヲ記シ末

尾ニ抄錄謄本ト記シ公證人署名捺印ス可シ

第五十四條 管轄始審裁判所ニ命令ニ依リ關係外ノ者ニ謄本ヲ渡シタル者

其命令書又原本ニ連續シ末尾ニ命令書ヲ受ケル旨並ニ年月日ヲ附記シ受取

人ヲ以テ署名捺印セシメ可シ

第五十五條 公證人ハ見出帳ヲ作り記入前管轄始審裁判所ニ差出シ綴目合目ニ

其所長ノ官印ヲ受ケ可シ

第五十六條 見出帳ニ於テ取扱ヒタル書類中ヨリ第三十一條及第三十三條ノ

規定ニ從ヒ左ノ件ヲ記入ス可シ

第一類 囑託人ノ住所氏名

第二類 書類ノ番號種類

第三類 書類ヲ取扱ヒタル年月日

第四類 第四節 兼任及書類ノ授受

第五十七條 公證人死去失踪免職辭職轉職又或他ノ役場ニ轉シテ直ニ後任者ニ

命セラルル場合又ハ停職ニ場合ニ於テハ管轄始審裁判所ハ近隣ノ公證人ニ

命テ其事務ヲ兼任セシム可シ

役場ヲ廢シタルトキハ書類ノ引繼ヲ近隣ノ公證人ニ命ス可シ

第五十八條 前條ノ場合ニ於テ兼任者ヲキトシ其他必要ト見認ムル場合ニ於テ

管轄始審裁判所ニ直ニ其役場ノ書類ニ封印ヲ爲ス可シ

公證人規則 證書

四百七十九

第五十九條 公證人免職辭職及其他役場ニ轉シタル場合ニ於テハ後任者又ハ兼任者尙前任者ト立會ヒ書類ヲ提要目錄ヲ作シ共ニ署名捺印シ授受可

死ニ失踪其他ノ事故ニ因リ引渡人ナキ場合ニ於テハ後任者又ハ兼任者ハ管轄始審裁判所ノ官吏ト立會ヒ提要目錄ヲ作り受取可シ該管轄ノ管轄人ニ書類封印後ニ命セテ之ニ後任者又ハ兼任者ハ管轄始審裁判所ノ官吏ト立會ヒ封印後提要目錄ヲ作り受取ル可シ

後任者又ハ兼任者ハ提要目錄ヲ作りタル日ヨリ一月以内ニ其目錄ノ寫一通ヲ管轄始審裁判所ニ差出ス可シ
第六十條 公證人免職ニ場合ニ於テハ兼任者ハ第五十九條ノ手續ヲ爲スニ及ハ

兼任者ハ停職者ハ役場ニ於テ其職務ヲ行テ可シ
第六十一條 兼任者引繼ノ書類ヲ更ニ他ノ公證人ニ引渡ストキハ其命ヲ受ケタ

ル日ヨリ三日以内ニ自己ノ引繼キタルトキノ目錄ニ依テ引渡ヲ爲シ其始末書ヲ作り受繼人ト共ニ署名捺印ス可シ
受繼人尙始末書ヲ作りタル日ヨリ一月以内ニ其寫一通ヲ作り管轄始審裁判所

第六十二條 停職者復任シ管轄始審裁判所ヨリ兼任者ニ解任ヲ命ス可シ
第六十三條 前任者ノ作ル原本ニ依テ後任者正本又ハ謄本ヲ渡ストキハ其受繼人ト共ニ署名捺印ス可シ

前任者ノ作ル原本ニ依テ兼任者正本又ハ謄本ヲ渡ストキハ兼任者タル旨ヲ附記ス可シ
第四章 手数料及旅費日當
第六十四條 公證人ハ此章ニ定メタル程限ニ從ヒ囑託人ヨリ手数料及旅費日當

公證人規則 手数料及旅費日當
四百八十二

第六十五條 手数料ハ原本一枚ニ付キ貳拾五錢正本及謄本ハ一枚ニ付キ拾錢但
一行二十字二十行ヲ以テ一枚トシ十行以上ハ一枚十行以下ハ半枚ヲ以テ算
ス

第六十六條 囑託人ノ求メニ依リ先ツ證書ノ草案ヲ渡シ後其原本ヲ作りタルト
キ草案ヲ手数料ヲ別ニ請求スルコトヲ得ス但其原本ヲ作ラサルトキハ原本
手数料ノ半額ヲ受クルコトヲ得

第六十七條 公證人其役場ヨリ一里以外ノ地ニ往テ職務ヲ行フトキハ往返トモ
旅費トシテ一里毎ニ貳拾錢ヲ受クルコトヲ得其職務ヲ行フ爲メ或ハ災變ノ爲
ニ其場所又ハ途中ニ滞留スルトキハ日當七拾錢ヲ受クルコトヲ得
第六十八條 兼任者本任者ニ代リテ職務ヲ行フトキハ其手数料ハ總テ兼任者之
ヲ受ケ可シ

第六十九條 手数料ノ外證券印紙並ニ罪紙ノ代價ハ囑託人ヨリ之ヲ受クルコト
ヲ得

第七十條 囑託人ノ求メズルトキハ手数料等ノ計算書ヲ與フ可シ

第七十一條 手数料等ニ係リ争ノ生シタルトキハ其金額ニ拘ハラズ管轄始審裁
判所ニ訴ケ可シ

第五章 懲罰

第七十二條 公證人此規則ヲ犯シタル時ハ管轄始審裁判所ニ於テ第七十三條ヨ
リ第七十六條マデニ定メタル定規ニ依リ處分ス可シ

第七十三條 左ノ違犯ハ五十錢以上一圓九十五錢以下ノ過料ニ處ス

第八條ニ違ヒタル時

第十一條ニ違ヒタル時

第十二條ニ違ヒタル時

第三十條ノ第一第二第三第四ノ規定ニ違ヒタル時

第三十一條ノ第二項又ハ第二項ニ違ヒタル時

第三十二條ノ第二項ニ違ヒタル時

公證人規則 懲罰

第三十四條ノ第二項ニ違ヒタル時ニ讀聞セシコトヲ記入セス又ハ肩書ヲ爲サリシ

時三十一分ノ第二項又ハ第三項ニ違ヒタル時

第三十五條ニ違ヒタル時

第四十條ニ違ヒタル時

第四十條ニ違ヒタル時

第四十四條ノ第二項ニ違ヒタル時一圓以上正額以下ノ過料ニ處ス

第四十六條ニ違ヒタル時

第五十條ニ違ヒタル時

第五十四條ニ違ヒタル時

第五十五條ニ違ヒタル時

第五十九條ノ第四項ニ違ヒタル時

第六十一條ニ違ヒタル時

第六十三條ニ違ヒタル時

第七十四條ノ左ノ違犯ヲ二回以上五回以下ノ過料ニ處ス

第四十三條ニ違ヒタル時

第四十四條ノ第二項ニ違ヒタル時

第四十五條ノ第二項ニ違ヒタル時

第四十八條ノ第三項ニ違ヒタル時

第四十九條ノ第一項又ハ第三項ニ違ヒタル時

第七十五條ノ左ノ違犯ヲ五回以上三十回以下ノ過料ニ處ス

第三條ニ違ヒタル時

第七條ニ違ヒタル時

第十條ノ第二項ニ違ヒタル時

第二十八條ニ違ヒタル時

公證人規則 懲罰

第三十條ノ第五ノ規定ニ違ヒタル時

第三十三條ニ違ヒタル時

第三十四條ノ第二項又ハ第三項ニ違ヒタル時

第三十六條ニ違ヒタル時

第三十七條ニ違ヒタル時

第三十九條ニ違ヒタル時

第三十九條ニ違ヒタル時

第七十六條ノ左ノ違犯ハ一月以上四月以下ノ停職ニ處ス

第四條ノ第一項ニ違ヒタル時

第五條ニ違ヒタル時

第十六條ニ違ヒタル時

第十七條ニ違ヒタル時

第七十七條ノ公證人前數條ニ掲ケタル懲罰處分ニ對シ不服アルトキハ管轄控訴

院ニ抗告スルコトヲ得但抗告ハ其處分ノ執行ヲ停止スルノ效力ナキモノト

第七十八條ノ公證人停職ニ當ル所爲三度ニ及ヒタルトキハ司法大臣其職ヲ免

第二十條ノ第一第三第三ニ記載シタル處分ヲ受ケ又ハ身元保證金ヲ差入レサ

第七十九條ノ公證人此規則ヲ犯シタルニ依リ他人ニ損害ヲ生セシメタルトキハ

之ヲ賠償ス可シ

●公證人規則施行條例

(明治十九年八月) 司法省令甲第二號

今般法律第三號ヲ以テ公證人規則制定相成候ニ付施行條例左ノ通之ヲ定ム

公證人規則施行條例

第二條ノ公證人ハ各區裁判所管內二十歳以下ヲ置ク但東京區裁判所管內ニ於テ

公證人規則施行條例

四百八十七

第三千五百名以下大阪區裁判所管内ニ於テ二十名以下京都區裁判所管内及神戸區裁判所管内ニ於テ十五名以下ヲ置クコトアルヘシ（三十一年司法省令

第三千五百號三十五年司法省令第八號ヲ以テ本項中改正）
若シ公證人ノ員數不足スルハ受持區ニ依リテ全ク之ヲ置カサルコトアル可シ

第三條 公證人ハ其受持區内ニ於テ住居セント欲スル町村ヲ定メ其願書ヲ始審官裁判所ニ差出シ控訴院法經 司法大臣ノ認可ヲ請ル可シ

始審裁判所長及控訴院長ハ公證人ヨリ差出タル住居願ニ意見ヲ附シテ之ヲ司法大臣ニ送達ス可シ

司法大臣ニ於テ公證人ヨリ願出タル住居ヲ認可セサルトキハ直チニ其住居ス可キ町村ヲ指定ス可シ

第三條 公證人既ニ住居ノ認可ヲ受タル後火災其他ノ事故アリテ他ニ轉居セントスル者モ亦前條ノ手續ニ從テ再々之ヲ請ル可シ

第四條 公證人ノ役場ニハ公證人某役場ヲ記セル表札ヲ掲グ可シ

役場ニハ成可ク倉庫又ハ堅牢ナル建物ヲ以テ書類保存ノ所ト爲スヲ要ス

書類ヲ常ニ書籍ニ藏メ非常持退ヲ準備スル爲メ置ク可シ

第五條 公證人規則ニ從ヒ試驗ヲ受ケント欲スル者ハ試驗願書ニ履歷書ヲ添ヘ試驗期日ノ告示アリテ該日ニ試驗期日ニ當リテ試驗ヲ行フ控訴院若ハ

始審裁判所ニ差出シ可シ

第六條 試驗願書及履歷書ニハ本籍區長右クハ戶長ノ奥書ヲ受ク可シ

第七條 試驗委員各所同時ニ之ヲ行フモ或ハ其後ニ之ヲ行フ可シ

第八條 試驗問題答案ノ適否ハ試驗委員ノ判斷ニ決スルモ之トシテ

第九條 試驗ノ結果ハ筆記口述ニ種ノ總點ニ依リテ決定シ得ル可シ

第九條 試驗委員之口述試驗ノ大略及試驗全體ノ結果ヲ記錄ニ記載ス可シ

第十條 試驗ニ及第シタル者ニハ試驗委員ノ連署シタル及第證書ヲ授與ス可シ

試驗ヲ行ハズル控訴院若クハ始審裁判所ハ試驗及第人名簿ヲ製シ之ニ及第者

ノ住所族籍氏名年齢及ヒ及第年月日ヲ登錄ス可シ

第十一條 試驗委員ハ試驗ニ關スル一切ノ書類ヲ其試驗ヲ行フタル始審裁判所

若クハ控訴院ノ長ニ差出ス可シ

始審裁判所ニ於テ試驗ヲ行フタルトキハ其裁判所長ハ及第者ニ關スル一切ノ

書類ニ意見ヲ附シテ控訴院長ニ送致シ控訴院長モ亦意見ヲ附シテ司法大臣ニ差

出ス可シ

控訴院ニ於テ試驗ヲ行フタルトキハ前項ノ書類ニ控訴院長ノ意見ヲ附シテ司

法大臣ニ差出ス可シ

第十二條 公證人タルント欲スル者ハ其願書ニ試驗及第證書官記學位記卒業證

書又ハ免許狀ノ寫及丁年者二名以上ニテ品行ヲ保證スル證書ヲ添ヘ之ヲ差出

ス可シ

試驗及第證書ヲ要セサル出願人ハ別ニ履歷書ヲ添フ可シ

第十三條 公證人願ヲ受タル始審裁判所ノ裁判所長及上席檢事ハ出願人ノ身上

ニ付品行ノ正否理財ノ整否等詳細ノ取調ヲ爲シ控訴院長ニ送致シ控訴院長及檢

事長モ亦意見ヲ附シテ之ヲ司法大臣ニ差出ス可シ

第十四條 公證人願書ヲ直チニ控訴院ニ差出タルトキハ控訴院長及檢事長ハ前

條ノ取調ヲ爲シ且ツ意見ヲ附シ之ヲ司法大臣ニ差出ス可シ

第十五條 公證人願書ニハ其職務ヲ行ハント欲スル地ヲ明記ス可シ

第十六條 司法大臣公證人ヲ任スルトキハ辭令書ヲ其公證人ノ職務ヲ行フ可キ

地ノ管轄控訴院及始審裁判所ヲ經テ本人ニ下付ス

控訴院及始審裁判所ニ於テハ公證人名簿ヲ備置キ公證人ニ任セラレタル者ノ

住所族籍氏名年齢及任地ヲ記錄ス可シ

公證人規則施行條例

四百九十一

第十九條 公證人ニ在任時ニ於此者身元保證金トシテ現金又ハ相當ノ價格ヲ
此公債證書日本勸業銀行發行勸業債券若クハ日本銀行株券ヲ管轄始審裁判所
ニ納付可シ(三十二年司法部令第四號ヲ以テ本條中追加)

第十八條 公證人ノ納付可キ身元保證金ノ額左ノ如シ(公證人ノ職務ノ行ハルル
東京及大阪諸人關連ニハ其職務ノ行ハルル所ニ依リテ金五百圓トシテ
他ノ地方ニ行ハルル者ニ依リテ金四百圓トシテ之ニ依リテ金三百圓トシテ之
人同貳拾萬以上同貳拾萬以下受持區ニ依リテ金四百圓トシテ之ニ依リテ
人口貳拾萬未満拾萬以上同貳拾萬以下受持區ニ依リテ金三百圓トシテ之
人口拾萬未満同貳拾萬以下受持區ニ依リテ金二百圓トシテ之ニ依リテ
前項ノ金額ヨリ人同ニ増減ノ設法雖モ既ニ完納シタル者ノ増減ハ之ニ依リ
第十九條 公證人ノ身元保證金ヲ管轄始審裁判所ニ完納セサル間ハ其職務ヲ行
フコトヲ得ズ

公證人任命ノ辭命書ヲ受取タル日ヨリ三十日以内ニ身元保證金ヲ完納セサル
キハ公證人規則第七十八條第二項ニ依リ司法大臣其職ヲ免ス

第二十條 公證人ノ身元保證金ハ公證人規則第五章ニ定メアル過料其他賠償ノ
擔保ニ充ツルモノトス

第二十一條 過料賠償其他之事故ニ依リ身元保證金ノ全部又ハ一部ヲ減消シ
タル事キハ管轄始審裁判所長ハ速ニ保證金ヲ補充ス可キ旨ヲ公證人ニ命ス

公證人保證金ヲ補充スルマテ始審裁判所長ハ假ニ職務執行ノ停止ヲ命スルコ
トヲ得此場合於テ速ニ其旨ヲ司法大臣ニ具申可シ(公證人ノ職務ノ行ハルル
公證人保證金補充ノ命令ヲ受ケ六十日ヲ過キ之ヲ補充セサルトキハ始審裁判
所長ハ控訴院ヲ經テ司法大臣ニ具申シ免職ノ處分ヲ請フ可シ(公證人ノ職務
第三十三條 公證人他ノ役場ニ轉シテ其場合於テ其保證金ニ不足ヲ生スレハ之
ヲ補充シテ之ヲ若シ餘分アル之ヲ還付可シ

第二十三條 公證人其職務ヲ罷免タル時身元保證金ヲ還付ス可シ(公證人
公證人規則施行條例

第二十四條 公證人死去失踪シ又ハ停職ノ處分ヲ受ケタルトキハ管轄始審裁判所於控訴院ヲ經由シ其旨ヲ司法大臣ニ具申ス可シ

停職者復任シタルトキモ亦前項ノ手續ニ從テ可シ
第二十五條 公證人死去失踪停職復任辭職免職又ハ轉職シタル時ハ始審裁判所及控訴院於其旨ヲ公證人名簿ニ記入ス可シ

第二十六條 公證人規則ニ定メラル懲罰處分ハ民事裁判所之ヲ管轄シ刑法及治罪法ノ例ヲ用ヒテ之ヲ裁斷ス可シ

第二十七條 公證人試驗願書式履歷書式及公證人願書式ハ左ノ如シ

第一 公證人試驗願書式
第二十一條 公證人試驗願書式(料紙美濃紙)

第二十二條 公證人履歷書式(料紙美濃紙)
第三十條 公證人願書式(料紙美濃紙)

第三十一條 公證人試驗願書式(料紙美濃紙)

私儀公證人試驗相受度此段奉願候也

年月日

現住所
氏名 印

某控訴院長誰殿

(又ハ某始審裁判所長誰殿)

前書ノ通族籍年齡等相違無之候也

年月日

本籍

區長又ハ戶長 印

第二 履歷書式

一 公證人履歷書(料紙美濃紙)

一 公證人願書式(料紙美濃紙)

一 公證人願書式

氏名 印

公證人規則施行條例

四百九十五

一 何年何月ヨリ何年何月迄（府縣）何某ニ就キ又ハ公私何學校何塾ニ於テ
何學修業

一 何年何月何々（職業仕官進退賞罰等ニ關スル一勅ノ件）

一 公證人規則第二十條ノ各項ニ相觸候儀一切無之候

年 月 日

氏 名 印

前書ノ通相違無之候也

年 月 日

本 籍

區長又ハ戶長 印

第三 公證人願書式

公證人願書式（料紙美濃紙）

年 月 日

族 籍 戶主 嗣子 又ハ二
三男兄弟ノ別

氏 名

氏 名

年 月 日

年 月 日

私儀何（府縣）何國某治安裁判所管下公證人受持區ニ於テ公證人ノ職務ヲ行ヒ
度志願ニ有之候ニ付御登用被下度試験及第證書（官記學位記卒業證書免許狀）

ニ寫及ヒ品行保證書相添此段奉願候也

年 月 日

現住所

氏 名 印

司法大臣謹殿

又

私儀何（府縣）何國某治安裁判所管下及何（府縣）何國某治安裁判所管下（某始
審裁判所管下又ハ某控訴院管下）ノ内何レノ公證人受持區ニ於テナリトモ御
命令ニ從ヒ公證人ノ職務ヲ行ヒ度志願ニ有之候ニ付御登用被下度試験及第證
書（官記學位記卒業證書免許狀）ノ寫及ヒ品行保證書相添此段奉願候也

（前後ノ式ハ前式ニ同シ）

公證人規則施行條例

●公證人ノ職務執行ニ關スル抗告手續

(明治十九年十一月九日)
司法省令甲第三號

今般法律第一號第二號ヲ以テ登記法及公證人規則制定相成候ニ付其抗告手續左ノ通之ヲ定ム(登記官吏ニ對スル抗告ハ三十二年法律第二十四號不動産登記法ニ依リ消滅)

抗告手續

第一條 登記官吏又ハ公證人ノ職務執行ニ關シ抗告ヲ爲ス者ハ抗告狀ヲ其登記官吏又ハ公證人ニ差出ス可シ

第二條 登記官吏又ハ公證人抗告狀ヲ受取リタルトキハ其翌日ヨリ三日以内ニ意見ヲ附シ且ツ關係書類ヲ寫テ添へ抗告狀ヲ管轄始審裁判所ニ送致ス可シ

第三條 登記官吏又ハ公證人若シ前條ノ期限内ニ抗告狀ヲ管轄始審裁判所ニ送

致セサルトキ又ハ急速ヲ要スル場合ニ於テハ抗告者ハ直チニ管轄始審裁判所ニ抗告狀ヲ差出スコトヲ得

始審裁判所ハ抗告ヲ受ケタル登記官吏又ハ公證人ヲシテ意見書ヲ差出サシメ及ヒ關係書類ヲ求ムルコトヲ得

第四條 登記官吏又ハ公證人ハ其職務執行上ニ關シ抗告ヲ受ケタルトキハ其處分ヲ停止ス可シ

第五條 抗告狀ヲ受取タル管轄始審裁判所ハ書面ニ依リ判定ヲ爲ス可シ始審裁判所ハ必要ナリト認ムル場合ニ於テハ抗告者其他關係人ニ書面ヲ以テ答辯セシムルコトヲ得

第六條 始審裁判所ハ抗告ノ判定書ヲ管轄治安裁判所ニ送致シ之ヲ登記官吏又ハ公證人及ヒ抗告者ニ送付セシム可シ

始審裁判所ニ於テ抗告ヲ正當ナリト判定シタルトキハ登記官吏又ハ公證人ハ其判定ニ依リ處分ヲ更正ス可シ

公證人ノ職務執行ニ關スル抗告手續

第七條 公證人懲罰處分ニ對シ不服アル者ハ其處分ノ翌日ヨリ起算シ七日内ニ其處分ヲ爲シタル管轄始審裁判所ニ抗告狀ヲ差出スヘシ
裁判所ハ其抗告ヲ正當ナリト認ムルトキハ速ニ其不服ノ點ヲ更正ス可シ若シ之ヲ正當ナラスト認ムルトキハ第二條ノ期日内ニ意見ヲ附シ關係書類ヲ添テ抗告狀ヲ管轄控訴院ニ送致ス可シ

第八條 公證人懲罰處分ニ對スル抗告ニ付テモ亦第三條ノ手續ニ依ルコトヲ得

第九條 公證人懲罰處分ニ對スル抗告狀ヲ受取タル控訴院ハ第五條ノ手續ニ從テ其判定ヲ爲ス可シ

第十條 控訴院ハ其判定書ヲ處分ヲ爲シタル始審裁判所ニ送致シ之ヲ言渡サシム可シ
控訴院ニ於テ抗告ヲ正當ナリト判定シタルトキハ處分ヲ爲シタル始審裁判所ハ其判定ニ依リ處分ヲ更正スヘシ

第十一條 抗告ノ判定ニ對シテハ總テ上訴ヲ爲スヲ得ルモノトス

●確定日附簿及日附アル印章調製方

(明治三十一年七月八日
司法省令第七號)

確定日附簿及ヒ日附アル印章調製方左ノ通相定ム

第一條 登記所及ヒ公證人役場ニ備フヘキ確定日附簿及ヒ日附アル印章ハ左記

雛形ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第二條 登記所ニ備フヘキ確定日附簿ハ地方裁判所ニ於テ之ヲ調製シ登記所ノ
請求ニ因リテ之ヲ渡スヘシ

第三條 公證人ニ於テ確定日附簿ヲ調製シタルトキハ記入前管轄地方裁判所長
ニ差出シ其契印ヲ請フヘシ

(雛形略ス)

●私署證書確定日附ノ手數料

(明治三十一年七月十二日
司法省令第十一號)

確定日附簿及日附アル印章調製方 私署證書確定 五百三
日附ノ手數料

私署證書ニ確定日附ヲ附スルコトヲ登記所又ハ公證人役場ニ請求スル者ハ每一
件ニ付キ手数料金拾錢ヲ納ムヘシ

登記所ニ納ムヘキ手数料ハ登記印紙ヲ請求書ニ貼附シテ之ヲ納ムヘシ

第三條 公證人ノ職務ニ關スル事項ハ公證法ニ依リテ之ヲ定ムルコトヲス
第四條 公證人ノ職務ニ關スル事項ハ公證法ニ依リテ之ヲ定ムルコトヲス
第五條 公證人ノ職務ニ關スル事項ハ公證法ニ依リテ之ヲ定ムルコトヲス
第六條 公證人ノ職務ニ關スル事項ハ公證法ニ依リテ之ヲ定ムルコトヲス
第七條 公證人ノ職務ニ關スル事項ハ公證法ニ依リテ之ヲ定ムルコトヲス
第八條 公證人ノ職務ニ關スル事項ハ公證法ニ依リテ之ヲ定ムルコトヲス
第九條 公證人ノ職務ニ關スル事項ハ公證法ニ依リテ之ヲ定ムルコトヲス
第十條 公證人ノ職務ニ關スル事項ハ公證法ニ依リテ之ヲ定ムルコトヲス

（明治三十一年六月十五日）

● 戶籍法 (明治三十一年六月十五日) 法律 第十二號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル戶籍法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

戶籍法

第一章 戶籍吏及ヒ戶籍役場

第一條 戶籍及ヒ身分登記ニ關スル事務ハ戶籍吏之ヲ管掌シ戶籍役場ニ於テ之

ヲ取扱フ

第二條 市町村長ヲ以テ戶籍吏トス但區ヲ置キタル市ニ於テハ區長ヲ以テ之ニ

充ツルコトヲ得

第三條 戶籍吏又ハ之ト家ヲ同シクスル者ノ戶籍又ハ身分登記ニ關スル事件ニ

付テハ市町村長又ハ區長ノ事務ヲ代理スヘキ者戶籍吏ノ職務ヲ行フ

戶籍吏又ハ之ト家ヲ同シクスル者ト前項ノ規定ニ依リ戶籍吏ノ職務ヲ行フヘ

キ者又ハ之ト家ヲ同シクスル者トノ戶籍又ハ身分登記ニ關スル事件ニ付テハ

戶籍法 戶籍吏及ヒ戶籍役場

市ニ在リテハ市參事會員ノ一人、町村又ハ區ニ在リテハ他ノ吏員ノ上席者戶籍吏ノ職務ヲ行フ

第四條 戶籍役場ハ市役所又ハ町村役場ヲ以テ之ニ充ツ但區長ヲ以テ戶籍吏ニ充ルル場合ニ於テハ區役所ヲ以テ之ニ充ツ

第五條 戶籍及ヒ身分登記ニ關スル事務ハ戶籍役場ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所ノ一人ハ判事又ハ監督判事之ヲ監督ス

戶籍及ヒ身分登記ニ關スル事務ノ監督ニ付テハ司法行政ノ監督ニ關スル規定ヲ準用ス

第六條 戶籍吏ハ其職務ノ執行ニ付キ届出入其他ノ者ニ損害ヲ加ヘタルトキハ其損害カ戶籍吏ノ故意又ハ重大ナル過失ニ因リテ生シタル場合ニ限り之ヲ賠償スル責ニ任ズ

第二章 身分登記簿

第七條 身分登記簿ハ本籍人身分登記簿及ヒ非本籍人身分登記簿ノ二種トシ各

正副二本ヲ備フ

各種ノ登記簿ハ第四章第二節乃至第二十一節ニ掲ケタル届出事件ノ區別ニ從ヒ各別冊ト爲ス但便宜ニ依リ之ヲ合綴スルコトヲ得

第八條 身分登記簿ハ一年毎ニ之ヲ編製ス

第九條 戶籍吏ハ豫メ翌年ノ身分登記簿ト爲スルキ帳簿ヲ作り監督官ノ契印ヲ請フコトヲ要ス

監督官カ帳簿ヲ送付ヲ受ケタルトキハ職印ヲ以テ每葉ノ綴目ニ契印シ表紙ノ裏面ニ其枚數ヲ記シ職氏名ヲ署シ職印ヲ押捺シテ之ヲ戶籍吏ニ還付スルコトヲ要ス

第十條 身分登記簿ノ用紙カ不足ナルトキハ戶籍吏ハ更ニ帳簿ヲ作りテ契印ヲ請フコトヲ要ス

第十一條 身分登記簿ノ正本ハ永久ニ之ヲ戶籍役場ニ保存スルコトヲ要ス

戶籍法 身分登記簿